



大文字送り火 (浮御堂)

夕立が止んで涼しくなった  
赤々と大文字は闇の空に浮かぶ  
人々は静かに眺めている  
静かにたゆたう波間に  
ちらちらと遊ぶ光の粒  
同じことの繰り返しが  
ある旋律をともなって映る  
エキゾチックなシェニラザードの  
語りでも聞こえてきそうな  
そんな世界に誘われる  
人の心を静かな世界へと語り込み  
うっとりさせる  
とこしえに続く幸福と繁栄の願い  
人はそれぞれの感慨をこめて  
見守っている

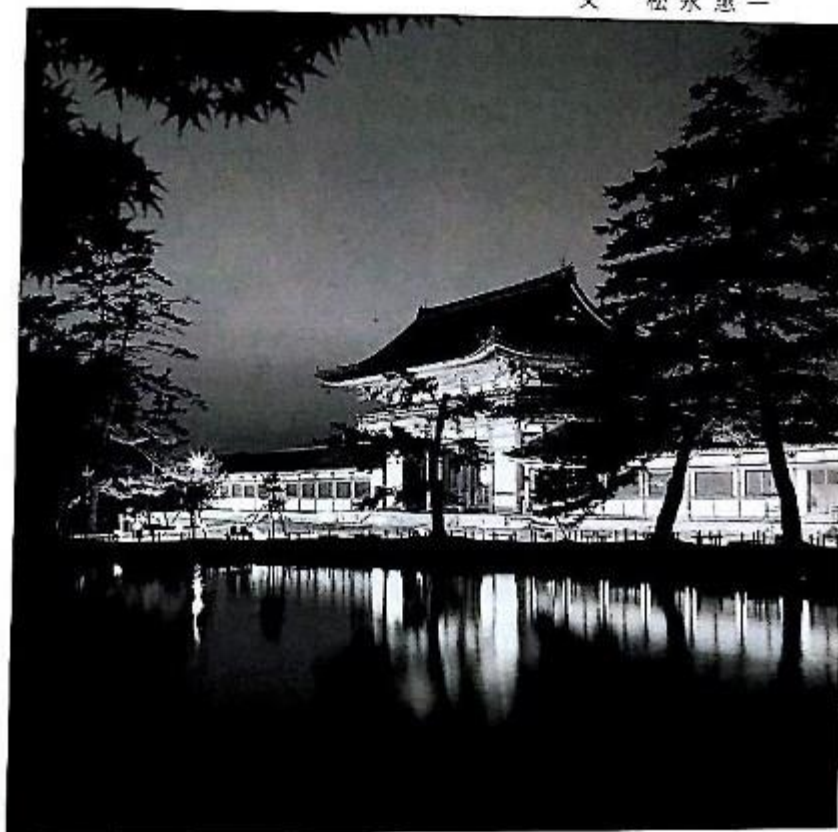


金剛力士像 (東大寺南大門)

Photo essay

夢 幻

題字 中田 蘭石  
撮影 山井 収一  
文 松永 恵一



夏の夕景 (東大寺回廊)

季節の



クガイソウ



緑 峽



お花畑 (伊吹山)

実景

盛夏

撮影 武市通治



林間学校



夏 日





靈仙山「お虎ヶ池」(鈴鹿)

吉沢 栄一



至仏山とミスバショウ (尾瀬ヶ原)

森澤 元博



立山・雄山山頂付近より室堂と大日岳を望む(北アルプス)

榊原 計国



白雲のマフラーを巻く焼岳(北アルプス)

三浦 弘幸



# 遡行三題 - 大峰・台高山系にて -

奥田 英一郎



シャワークライム (台高明神谷にて)



西ノ滝を仰ぐ (台高東ノ川にて)



石跳び (大峰池郷川にて)

新伴 啓  
別冊 関西の山  
'97年7・8月 盛夏 第35号

## ●目次

表紙：松田敏男「雲湧き上がる真夏の仙丈ヶ岳」(南アルプス)  
●作者プロフィール：1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳版画、山岳書の編集多数関係。(京都平安楽、南アルプス山水小窓、東京ギャラリー一百号、他) 京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角点研究会会員

| エリア   | 別研究                                | 紀行  | グラビア  |  |
|---|------------------------------------|---|---|--|
| ① 野の花嶺歌 (22) 入笠山は花また花                         | ● 1等三角点峰 (500計以上) 548座完全登の記録 (第2回) | 随想 (山のエッセイ)<br>頭巾山<br>鈴鹿のその後<br>山は我が友<br>熊鬼岳・唐沢岳<br>白山<br>連越 日本堂山紀行33 伯耆大山<br>樽前山<br>策ヶ岳<br>京都一周トレイル③ 北山西部コースを歩く<br>近江側から登る鈴鹿の山々―伝説・伝承の紹介 (4)<br>霊仙山にまつわる話<br>⑤ ツツロ坂峠から横根連峰を歩く<br>⑥ ミノガ峠から滝谷山<br>⑦ 鳴川谷林道から三國岳・烏帽子岳<br>⑧ 白谷林道から霊仙山・岩ノ峰 | ● 2等三角点のある大阪府の山々<br>● 中村健信の日張山から沢城跡<br>● 文学歴史探訪ハイク⑤<br>五番関から大天井ヶ岳 | 夏季………撮影 由井 収 文 松永 恵一<br>季節の実景 (盛夏)<br>………武市 通治 |
| コース<br>① 高坐山<br>② ブナ山・下辻山<br>③ 居母山<br>④ 長者屋敷越 | 坂井 恵一<br>久光<br>敏文                  | 田畑 三郎<br>西尾 寿一<br>筒井 克治<br>阪本 健治<br>鷺見 守康<br>浅野 孝一<br>多摩 雪雄<br>松田 敏男<br>秦 康夫  | 沿線ハイキングガイド………76 75 74<br>サレビスチエン………96<br>せせらぎ………94 81             |  |
| ● 野の花嶺歌 (22) 入笠山は花また花                         | 山形 歳之                              | 岩野 明  | 新ハイキング関西 (代巻) 村田 智俊   |  |

## ●巻頭言

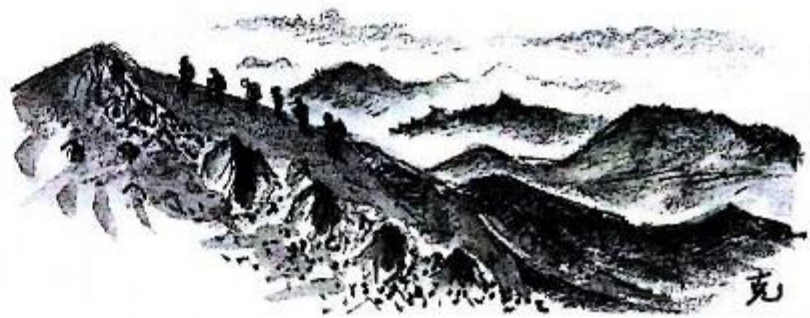
夏山の季節です。当クラブの例会も中央アルプス・北アルプス・白山などを計画しています。山小屋やバスの都合で人数を限定していますが、まだ予定の決まっていない方はお申し込みください。

さて、山の好きな人は、一シーズンに一度はどこかの夏山に遠征されることでしょう。誘い合っただけの仲間同志で、または一定のグループで、そして数日間の行動を共にすることになります。好天に恵まれ計画通り全てが順調に進めば良いのですが、そのような幸運はまれです。特に標高の高い夏山では何かの予期せぬ出来事が発生するものと覚悟を決めておく必要があります。経験豊富な人がリーダーになり、計画時には起こり得るあらゆる事態を想定し、みんなでの対応策を考え、おきたいものです。

いったん山の中に入ってからでは何も用意できませんし、事態が発生してからはメンバーの意見がまちまちになるなど、手遅れになってしまいます。

そして、必ず登山届けを地元の警察に提出し、下山時にはその旨連絡しておきましょう。





克

頭巾山 とうきんざん

田畑 三郎

頭巾山と書いて「とうきんざん(やま)」と呼ぶ。山の形が「すきん」に似ているために頭巾の子が当てられたらしいが、「すきんざん(やま)」とは呼んでいない。この変わった名前を初めて知ったのは、本誌関西版(第6号・昭和9年・10月号)であった。京都府美山町と綾部市、福井県名田庄村にまたがる辺鄙なところにあるので、私には縁のない山だと軽く読み流していた。ところが不意な縁で昨年この山に二回も登り、これからもたびたび登りそうな気配になってきたのである。

その辺の事情をかいつまんで記すと、まず美山町との関わりがある。今から10年ほど前になるが、私の知人Aさんが一軒の茶置き家屋を購入した。Aさんは釣り好きで、しばしば出かけていたが、思いついて拠点を置きたいと考えたのである。その場所が美山町でも最も北部に属する福屋というところで、山良川の支流の棚野川の、そのまた支流の山森川を通ったところに位置していた。この山森川の源に、この頭巾山が鎮座しているというわけである。Aさんはそれ以来、シーズンになると毎土曜日に一泊して釣りに熱中するがたわら、地元の人たちとの交流を深めていった。

親しくなった人々の中に若い陶芸家Bさんの一家があった。Bさんの家は棚野川のはとりにあり、Aさんの別荘から車で5分とかならない近さで、交流は頻りに行われた。Aさんも販売柄、陶芸に一家ある人で話が合ったということもある。私が美山へ行くようになったのは、Aさんに誘われてその別荘に泊めてもらってからのことである。山菜を摘んだりジャコを釣ったり、あるいはAさんが釣ったた鮎やヤマメで一杯やるのが、サラリーマンの息抜きには最高の楽しみであった。何人かの友人を誘って、Bさんの家で陶芸合宿をしたこともある。が、そのときは「新ハイキング」で読んだ頭巾山がすぐ近くにあることをすっかり忘れていた。

昨年、タラの芽を摘みながら町営バスの終点まで行ったとき、頭巾山の案内板を発見したのである。また、棚野川を遡ると福井県側の名田庄村へ降りると、頭巾山へのハイキングコースが整備されていることも判明した。つまりこの山は、京都府側から見るとたいへん不便なところにあるが、福井県側から見るとごく身近な、だれでも登れる山なのである。



克

随想 (山のエッセイ)

私の義弟にあたるCさんは、大手企業を定年退職後、山里に家を構えて陶器を焼きたいという願望をもって、それは子どもたちからの夢でもあったらしく、退職と同時に伝を頼って陶芸教室に通ったりしていたが、私たちの話を聞いて美山のBさんのところへも泊まり込みで遊びに行つたのである。そして私たちのいうところの「美山病」に取りつかれて、家を建て水住したいと考えようになるまでにそう時間はかからなかった。そしてついに一昨年、山森川のはとりに家を建てたのである。もちろん作陶小屋も造って土ひねりを始めた。

そんな次第で、私はCさんの家を風呂に美山で年何回かの休暇を過ごすようになったというわけである。そして昨年5月、ついに頭巾山初登頂を敢行したのである。Cさんの家から歩いて1時間ほどで谷川と別れて山に入る。勾配はかなりきついがいワカガミの群生する斜面を過ぎて、2時間ほどで熊野さんのある山頂に到着できた。三方五湖の眺望は最高だし、青葉山も近くに見える。帰りは別のルートをとってみたが、これはかなりひどい沢ぐだりになった。3月にはフランスから来た友人大妻と二度目の登頂をしたが、なんだか内緒の山を一つ手に入れたような気分である。

鈴鹿のその後

西尾 寿一

私が拙書「鈴鹿の山と谷」(ナカニヤ出版)を六冊も出したのは、鈴鹿山地を知るために集めた文献その他の資料が不十分、かつ大雑を正しく伝えていないため、自分で調べるほかはないと思つたからである。

調査に10年、原稿にするのにさつと10年を費して、六冊の本になった。収録されている地名の40%は、新編に採録したり、古文献から復活させたものである。鈴鹿の地は忘れられていたともいえるのである。近畿圏と東海圏とに接する南北100kmを越す大山塊が、どうして忘れられていたのだろうか。そのうえ私が不思議に感じたのは、なぜ登山者が鈴鹿をさけるようにして他の山へ集中しているのか、ということであった。鈴鹿の山には行ったことのない人が、「近畿の山はもう卒業した」と言い放つありさまには愕然とするほかないのである。

こうした登山者を見ると、どうやら情報量の多い地域の山や登山道の整備されている山、人の多く登る、いわゆる有名な山などが好まれるらしい。これに対して鈴鹿山地はどう





克



克

### 随想 (山のエッセイ)

か。登山道は5割程度しかなく、強力なやぶと山ヒルである。これでは人気が出るわけがない。私本まで出して、鈴鹿へ行って欲しいと頼った相手は、ひと通りの登山を終了した中級程度の登山者である。若いころ山岳会で鍛えたものの家庭と仕事に追われ、体力の減退を認識させられる中年層である。山にも新鮮さが感じられず、山から遠ざかりがちではあったが、どこか新しい発見のある山がないものかと考えている世代である。このような人たちらを対象とする本なので、コースガイドは二次的なものになった。このため本を読んだ人からは不親切だとお叱りを受けたが、私のねらいは正しかったと思っただけ。

鈴鹿山地は一般向きの山ではない。登山道も道標もない。自然がルートを切り開いて地形・地理的発見をする、あるいは民俗・伝承との新しい出会いが今

日でもある山なのである。それには一定の登山能力が必要で、いつも人の後について歩いている人には困難であろう。幸いにして私の望むような形で鈴鹿へ入る山道以上の登山者が復活してきている。

御懸岳の池を徹底的に調査する人、古道の調査、主要な尾根のトレース、峠の調査、古老からの伝承の聞き取りなど、あらゆる方面で活躍する登山者(登山者に限らない)が増加している。

本誌にも読者の記事が多くなっただが、うれしいことである。しかし、鈴鹿はあくまでも中級者の山であり、強力なリーダーを必要としていることに変わりはないことを忘れて欲しい。

鈴鹿の本当の魅力は、山(自然)と人間との合作としての自然である。従って、スポーツ登山やハイキングの対象としては、適していないように思う。自然

活動のさい、前述の人のように赤布やテープを残して来たなら、山は標識だらけで魅力は半減するところか、そんな山へ登ろうとする人もいなかっただろう。気づくかしい中級者は標識のある山などには入らないのである。私は一片のテープも色布も残さなかった。鈴鹿の愛好者は、どうか山を台無しにするようなことがないように、ご協力いただきたいものである。

#### 山は我が友

筒井 克治

山に行くのには人はさまざまだ。当たり前のことなのだが、時には何を考えているのだろうかと思ってしまう人に出会うことがある。それはお前ではないかと言われるかも知れないけれど、自分

自身でもそうかと思うときがある。それは今までの山とのかかわりからきたものだろうから。

私の若い頃の登山スタイルはというと、土曜日の教室の後ろ。家に帰らずそのまま山に行く。朝明の薄曇小屋が僕らの溜まり場。薪出しなどポッカをしながらか飯を食べて帰った。

仲間が寄ると伏木谷の途中にある、15分程度の岩場で遊び、その後は藪に冷や飯と木瓜の煎漬けを一本入れて腰に紐で結び、やぶれ谷を歩いて朝明小屋の山頂を歩いたものだ。いつも腹を空かせていたなあ。

ハト峠の横走路では何か食べ物にありつこうとあちこち案内して歩いた。若造ばかりでハトヘトになるまで歩いたものだ。いい歳こいてまだ同じようなことをしている自分を見ると、なまじりも進歩していないんだと苦笑いするときがある。

食べ物には刷り込みがあるのか、こだわりをもつ。基本的には火を通して作る。山では四季折々のメニューがあって、仲間が突っつきながら食べるのって楽しいものだ。

歩く時は徹底して歩く、設定したコースを歩き抜くのがよい。気がなくなつた筋肉の疲労は心地よいものだ。

一方チンカラ歩きもよい。花を見て木を見て空を見て、風を感じ、小鳥の囀りに耳を澄ます。ケモノの糞に足を止める。そして歴史を思い、人の営みを回顧するのも好きなのだ。

同人との交わりはすばらしい。何を考えとんのやと思つような人に出会うと、ああこんな楽しみ方もあるんだと嬉しくなる。

私もそれなりの年齢になってきたのだけれど、山への興味と楽しみが、心の中で燃焼しているのだからさうこの頃である。



玄人好みくわんろうとの山

# 餓鬼岳・唐沢岳

阪本健治

北アルプス

常念岳トウネンの北端、安曇野から約30キロと、三角形の頂で、後立山連峰を背に大きくのしかかるように美しい山容の餓鬼岳がある。餓鬼と恐ろしい名の付く山は立山連峰の鬼岳の別称の餓、後立山連峰の唐沢岳の西と朝日連峰に餓鬼山がある。この餓鬼岳は、唐沢岳や前山に比べて前山にあって低いため、こどもを指す「ガキ」をあらわしたという一説があるが、いずれも定かではない。餓鬼岳とその北の低高のピーク唐沢岳は、3000m前後に達しない山だが、そのわりには険しい山だ。その二友、大きな展望を酔けさ、味わいのある山行が約束される山でもある。

頭が下がる渓谷の横道整備  
長野道・穂高インターから白沢登山口の三股に入る。登山口からはカラマツ林を緩登し、高瀬川支流川原にくだり、沢沿いの道から右岸に渡る。左岸左岸と渡り返すがほとんどが右岸沿いに歩いて行く。沢沿いの道は意外と険しく、所どころに横道が設けられている。その横道は、年前にも整備されたが、たび重なる風水害で破損が著しく、今年も夏山シーズン前に餓鬼岳小屋の人たちが大規模な修理を行ったという。沢沿いにはオサバグサ・ソバナ・ホタルブクロ・シロウマなどが咲いている。紅葉ノ瀧を過ぎると約半分ほどでゴウゴウとい大きな水音をたてる魚止ノ瀧が現れる。落

餓鬼岳と銀鬼岳小屋



葉約満射の見ええのある滝だ。若い単独行者が私たちを抜いて行った。登山道は、流石に横の急峻なV字形の谷状の麓下を登る。かつて沢沿いであったのかも知れない。切り立った谷の中腹を巧みに利用して横道が架けられている。  
最後の水場を過ぎ、大尾山から東に派生する支稜下部に取りつく。支稜はツグ・ブナ・コメツガなどの樹林帯となり、直射日

光は避けられたが、風の通りが懇く暑さで難行苦行だ。ナギ(崩れた地帯)を渡り、ダケカンパの林をトラバースし、根っこや板状の石流じりの気象となる。大きな岩の下をトラバースすると、わずかで尾根に出る。大尾山到着で2時間余の急登から解放される。

コメツガに混じってシラビソの樹林帯となり、ゆるく登る尾根道から時おり、右手に銀鬼岳から唐沢岳への稜線が望まれるようになる。百油りも後半はお花畑となりウサギボク・ゴゼンタチバナ・トモエシオガ



マなど高山植物が咲き見られている。お花畑をトラバースきみに高度を上げて行くと突然、銀鬼岳小屋の裏手に飛び出す。

### 穂高から剣岳の大パノラマ

時間が早いのか気合は少なかった。荷物を置いて5分ほどの銀鬼岳の頂上へ。3617・2737で、角高標石と小祠がある。はるかかなたに槍と小槍の線路、左に目を転ずれば奥峰から吊り尾根の端に前穂高。その下近景には唐沢岳・北穂高・剣又。北西には低高の唐沢岳、その後方に鳥帽子岳から針ノ木岳・鹿島槍など後立山連峰。さらに立山・銀岳と大パノラマが展開する。

時の経つのを忘れるひととまでである。

小屋に戻り、裏の展望ベシから類城の山々、浅間山、大町から松本平を眺めるながら、バールで乾杯。唐沢岳を往復したパーティーが16時過ぎに帰る。だいたい疲れているようだ。 観音閣もない頃、宿泊は

尖持参を余儀なくされた食料難の時代に、地元の菅原村の青年団が借り受けて白米を提供し、大いに餓鬼岳の名を高らしたというエピソードのある銀鬼岳小屋。北アルプス最後のランプの山小屋であったが、56年から大副池地による廃止を開始。翌年一斬され、すがすがしい小屋になった。だが水だけは天からの甘い水である。  
翌日は唐沢岳を往復するだけなので、両具と昼食、カメラを持って5時30分閉塞する。この日の唐沢岳は私たちがパーティーと大阪のFさんと安城市の人との混合パーティー、そしてさのこ園後して登った単独の若者の三組だけだ。

### 六人だけの孤高の山

銀鬼岳からやややくたって花園谷の岩峰左をトラバースし、コメツガ・シラビソなどの樹林帯を抜け西穂高岳に連なるピークに出る。踏まれないように小石で固めたコマタサの置落があり、可憐な花をそよ風に揺らせていた。ここから標高差1500mの急下降。樹林の小ピークを越したところが最低標高だ。再びコメツガ・シラビソ・ダケカンパの混合林を抜け、ハイマツと花園谷地帯になる。





唐沢岳を望む

飯塚のコブを越え、冷徹な高瀬川支流の滝ノ沢右岸源頭で、吹き上げてくる涼風を受けながら一服。ハクサンフクロ・シナノキンバイが咲くお花畑を過ぎると、再び花崗岩の巨岩が立ち塞がる。早朝出発した若者とすれ違ふ。「速いですね」と声をかけると、「きょう中に唐河原に入り、あすは北岳」と言う。若さに脱帽である。

東沢支流の一ノ沢側に大きくくんだり、巨岩帯を登って再び稜線にはい上がる。この道は岩場とザレのハイマツをつかんでの急峻な登りであった。稜線も厳しくなり岩をからみ、へつりやりの連続で息が抜けない。コースタイムよりややオーバーしてり時20分、狭い唐沢岳(2682・473等三角点)の頂上に着いた。

東嶽、後立山の山々、立山・飯岳、眼下には高瀬・七倉・大町のダム群を望む絶



朝の剣ズリ(中沢岳)を望む、後方は蒸岳方面

南側は中房川源頭、急峻な草付きでさえぎるものもないゼンゼラの炎天下だ。  
小嶺後、意を決して炎天下に飛び出す。源頭はホソバトリカブト・チシマギキョウ・ホタルブクロ・オタカラコウ・ミヤマアキノネリンソウ・クルマユリ・ミヤマシンドなど花の競演、サンカヨウの青紫の果実も急下降中なのでゆっくり鑑賞する余裕もない。

好の風景台。苦勞のしがいのある山頂だ。前後して歩いてきた大飯の下山も到着。一緒に大パノラマを愛でる。

樹冠は、最狭鞍部からの登り道しも意外と深に登れ、鎌野岳には登らず滑き道を通り小淵に戻った。午後は周囲の山々を眺めながらのちの洗濯。山上でこんなにもんびり過ごせたのもめずらしい。前日は40人衆、きょうは半分以下の泊まり客で小屋ではゆっくりつろげ、「大飯登山談話会」「山間人談」「大飯あすなろ会」などに人合しているというどきんと山霧に盛り上がった。

「いま流汗の深山百名山はまだ半分、数にとられず、行きたい山に行くつもり」と闘志満々の70歳。「人生百年、70歳なんてハナタレ小僧」とは言っても百歳までは登れません。元氣なFさんに感服。

東沢乗越までルンルン、後は……

3日目、夜半の雨の音で目覚めた、朝は晴れて上々のお天気。野城山地からのご来光もきれいだった。きょうは剣ズリを越えて東沢乗越から中房温泉に行く。管理人の斉藤史史にタクシーを頼んで6時出発。稜線通しから高瀬峠への登りは、ほとんど

が高瀬川支流東沢側を歩くのだが、一部は反対の乳川支流中沢側を過ぎるに、ハイマツの中を剣ズリの岩群群に向かっている。終始、樹・樹高や懸崖を前方に見ながら歩くので気分は最高だ。整備された稜道に感謝しつつ、岩峰をからみ、いくつかのピークを登り返す。剣ズリの中沢岳は登らず直下を捲いて行く。鉄梯子をくだるとトワヤクリンドウが一輪吠いていた。樹林帯の急下降となり、巨岩の下をトラバースして尾根にのる。再び岩壁とハイマツ道となり、東沢車下に着く。ほんの数分で頂上だが、小さなケルンがあるだけだった。薄い踏み跡が東嶽尾岳・清水岳方面へ向かっている。

高瀬・七倉・大町のダム群への最短コースとして馬籠尾山・清水岳・東沢・ダム湖へ「飯塚岳スカイライン構想」というのがあったが、構想に終わってよかった。そんな道路ができていたらと思うとゾッとする。

東沢車下からトラバースし急下降。ニッコウキスゲが咲く小鞍部のお花畑を越えると、わずかで典型的な地形の東沢乗越だ。右への道線はないが高瀬川東沢をくだる踏み跡を分け、直進するのは蒸岳への尾根道。

源頭のお花畑が終わると風水害で荒れた中房川の河原道となる。砂防堰堤は壊れ、高橋き、右岸左岸と河原の波り返しが多くなる。西大ホラ谷・奥原窪沢川合を過ぎるとブナ平。ここから車下になるように聞いているが、大きな砂防堰堤が破壊され、再び高橋きとなる。疲れていささか膝の具合が悪くなった。眼界を感じた雲、晴天風呂・白滝ノ湯に出てホッとす。宿の敷地を抜けると、長く苦しかった3時間のくだりも終着、噴霧の中房温泉である。登り残した山を、また一つ済ませることができた。

唐沢岳と同様に前後して歩いてきた皆さん、私も健脚だと自他共に認めているが、私より4歳も年長だから脱帽の御礼ぶりであった。お互いの健康を祝し、固い握手を交しお別れした。

中房温泉で3日間の汗を流し、缶ビールで祝杯をあげ、飯塚岳小屋で予約してくれたタクシーで車下池の白沢登山口へ回り帰途についた。  
(平成8年6月16日〜18日歩)

△参考タイム▼  
(16日) 飯塚岳白沢登山口7:00〜紅葉ノ

滝7:50〜魚止ノ滝8:25〜45〜最後の水場9:15〜25〜大原山11:50〜飯塚岳小屋15:00  
(17日) 飯塚岳小屋6:35〜飯塚岳6:40〜最低鞍部7:50〜お花畑8:50〜55〜唐沢岳7:20〜10:30〜最低鞍部11:30〜55〜飯塚のコブ12:25〜45〜コマツナのピーク13:15〜20〜飯塚岳小屋13:45  
(18日) 飯塚岳小屋6:03〜剣ズリ下・鉄梯子7:07〜東沢岳9:05〜50〜東沢乗越10:10〜20(途中30分休憩)〜西大ホラ沢出合口1:05〜25〜ブナ平12:13〜中房温泉13:30

△費用▼  
大町⇨白沢登山口 タクシー 約3300円  
飯塚岳小屋 1泊2食付 8000円  
中房温泉 入浴料 500円  
中房⇨白沢登山口 タクシー 約9000円  
△地形図▼  
2万5千 大町南部・島田十岳  
20万 松本  
昭文社「3冊併録・馬籠湖」151高地・  
嶺・穂高  
△問い合わせ▼  
大町市西一畑光園0261(22)04220  
飯塚岳小屋 0261(22)22220



# 白山

## 鷺見守康

### 白山



き方を止めること  
ができれば、山の  
自然はいつまでも  
そのままに守られ  
ていくのではない  
だろうか……」モ  
ンな考えで活動し  
ている人たちがい  
る。

今度、そんな仲  
間が協力し合って、中部地方の「山歩き自  
然ガイド」の小冊子をつくることになり、  
私もそのお手伝いをする事になった。

の登山者にとって、山の自然は単に景色と  
してしか認識されていないのかも知れな  
い。

山歩きは感動の体験だ、といった人がい  
る。その感動の中味には、苦勞して登った  
頂上からの見晴らしだけでなく、歩きたが  
ら味わう自然のドラマもつけ加えてほしい  
ものである。

身近な低山の自然は、ぼんやり眺めるだ  
けではみな一様に見えるけれど、もう少し  
分け入ってみると、その表情は多形で、季  
節ごとに異なり、何度登っても新しい発見  
がある。

「山を歩く人たちがもう少し自然と親し  
み、自然から学ぶことの楽しさを味わう歩

山歩きには、人それぞれにいろいろな目  
的がある。例えば、三首忠を求めて歩いて  
いる人、深田久弥の日本百名山完登を志し  
ている人、一つの山に集結して登り千日登  
山を達成した人、同じ山には二度と登らず  
ピークハントに挑む人、健康維持のた  
めに山を歩いている人など、さまざまであ  
る。

春の梅原岳や夏の伊吹山では草花に関心  
をもつ人にも出会うことがあり、植物の観  
察や写真撮影をしていると声をかけられて  
花の名を問われることもある。

そうはいくものややはり植物に関心を示  
す人はそれほど多くない。そもそも山の自  
然そのものに関心を示す人が少なく、多数

勢を受けて以来、私は少し気が重くなって  
いた。

実をいうと白山には、いい思い出がない。  
北アにして、南ア・中央アにして、これま  
で歩いた3000級級の高山には、爽やか  
な思い出があるのに、白山にはそれが欠け  
ていた。

そんな胸の内のわだかまりのせいで、意  
欲のなぶりがちな私にとって、Kさんの全  
面的な協力は大きな救いであった。

ひるがの高原、花川村を抜け、白川村華  
瀬の白山登山口に入る頃、空は白々と明け  
てきた。平瀬からさらに大川沿いの車道  
をひた走り、大川ダムに到着したのは午  
前5時。白木湖のなかに白山の雄姿があっ  
た。天気はじ々、手早く支度を整え、5時



クロユリ

15分に歩  
き始めた。  
登山道  
入り口か  
らはや美  
しいブナ  
(ツナギ)

れ、世界一の規模を誇る白神山地のブナ林  
に続く規模ともいわれる広大な原生林で、  
昨年の10月、大川川キャンプ場周辺を散策  
した時には、秋の陽を浴びて黄金色にキラ  
キラと輝くブナの紅葉を味わった。

このブナ原生林が花々で華やかに彩られ  
る時期は6月である。Kさんは毎年6月に  
訪れ、大倉山までの視察を続けている。だ  
からこのあたりのフロラ(植物相)は、彼  
の頭の中に刻み込まれており、花の少ない  
せいもあって、先頭を歩くKさんのペース  
はかなり速い。

登山者の極めて少ない静かなブナ林の中  
は、さまざまな野鳥のさえずりが飛び交う。  
「キョッ、キョッ」と響き渡るアカケラの  
声、「キョロンツイー」と二声ずつ歌うマ  
ミジロ、「ホイ、チヨチヨチヨ」と独特  
の節回しのクロジ、コマドリに似た声のコ  
ルリ、複雑な明るい声のキビタキ、その他  
にゴジュウカラ・シジュウカラ・ウグイス  
の声や「チッペンカテカ」と鋭く鳴くホ  
トトギスの声も時おり聞こえてくる。

ブナ林は登山道沿いに樹齢数百年の大木  
を交えながら、標高1600mほどまで続  
き、次第に姿を消して亜高山性のツケカン  
バ(カバノキ科)の林に変わる。2300

針付近までツケカンバ林が見られるが、ゆ  
るい斜面や尾根にはアオモリトドマツ(オ  
シラヒソク・マン科)も見られる。

八ヶ岳や南アの亜高山帯では、トウヒ・  
コマツガ・シラヒソク・オシラヒソクなどマ  
ツ科の針葉樹の黒い森が普通だが、多雪地  
の白山では、亜直にのびる針葉樹は生育が  
難しく、多雪や雪崩に強いツケカンバの林  
となっている。

亜高山帯に入ると、「チヨチヨリ、チヨ  
チヨリ、チヨチヨリ」と歯切れのよいメボ  
ソムシクイ、「ヒリコヒリコヒルヒル」と  
と音階が消えるように歌うルリビタキな  
ど、亜高山帯常連の鳥たちのさえずりがに  
ぎやかになった。はるか下方にはエメラル  
ドグリーン色の白木湖を眺め、左側の地獄谷  
から上がってくる硫黄水蒸気の臭いが鼻を刺  
激する。

途中、チガタチドリ・キノチドリなどの  
ラン科の花やツツジ科のアツシバの花、ア  
カモノの実を羨しみながら2時間ほどで大  
倉山に到着する。遊歩小園が真新しく立派  
になっただけで驚いてしまった。

大倉原根からは、園所にマルバダケブキ・  
オタカラコウ(キク科)・シモツクソウ(バ  
ラ科)・クルマユリ・ニッコウキスゲ(ユリ



標などの高き草原の花畑が見られ、登山道周辺にはイワオウキ(マメ科)・ハクサンフクロ・タカネグンナイフクロ(フクロソウ科)・ハクサンチドリ(ラン科)が次から次へと姿を見せる。また、ウラジロナナカマド(バラ科)やオオヒヨウタンボク(スイカズラ科)などの低木の林縁部にはキヌガサソウ(ユリ科)の群落が現れた。

右手にカンクラ岳頂を見ながら500段余りの階段を息を切らして登ると、室堂



平はすぐそこだ。室堂平に立ち入ると、ハクサンゴザクラ(ウラボシ科)やクロユリ(ユリ科)の群落の山脚を見つけたが、その花姿には驚嘆した。クロユリは普通一花に一、二花、ハクサンゴザクラでは三、五花なのだが、この白山のクロユリは三、五花、ハクサンゴザクラは五、一〇花もつけており、生命力みなぎる花の勢いが実に見事だ。クロユリはその独特な匂いを漂わせて存在をアピールしている。

室堂センターへ到着したのは10時。時間がたっぷりあるので、とりあえず御前峰に登る。登山道にはイワキキョウが一面に咲き、あかたもあたりが青一色に染まってしまったかのようである。空の青さを映したようなイワキキョウを愛でながら、チシマキキョウが全くないことに気づく。イワキキョウもチシマキキョウもキキョウ科の高山植物の代表種で、北アや南アの登山道では両者が混生し、見比べることもできるのだが、チシマキキョウはこの白山には分布しないようである。高山植物は大昔

の水河時代に北方寒地から渡来した植物群の遺存種が多い、といわれているが、なぜチシマキキョウは白山まで西進しなかったのだろうかなど、チシマキキョウというひとつの「種」に秘められた謎に想いをめぐらす。

御前峰で昼食をとり、池めぐりをして室堂センターに戻った。室堂平には、ハイマツ(マツ科)群落もよく発達しており、特に北西側はさながらハイマツの海のようにある。ハイマツ群落には、ハクサンシヤクナゲ(ツツジ科)やウラジロナナカマドが混生し、マツボックリをくわえたレンガラスの姿がやたらに多く、所どころにシガラズが食べ残したマツボックリも落ちていた。Kさんがそのひとつを拾い、ハイマツの実を食べてみようという。口に入れてみるに、なかなか香ばしくおいしかった。

室堂センターからさきょうの宿泊地である南岳山荘へは、日本アルプスの連雲や白水を眼下に望む風光明媚な道だが、雲が湖き続け、残念ながら日本アルプスは見えなかった。この道はタカネナデシコ(ナデシコ科)やカライトソウ(バラ科)などが多く、斜面ではアモリトドマツ林の中を行く。

南岳山荘は、室堂平とともに白山山頂から噴出した溶岩流などにより形成された平原地で、中央を水成層な明谷が流れている。イワイチョウワ(ミカンソウ科)やハクサンオオバコ(オオバコ科)・ハクサンゴザクラなどの湿性高山植物が見られ、池類も散在している。

山小屋で、Kさんときょうの観察の結果をまとめ、あすの観察コースを話し合う。花をつけていた草木は、30種ほど確認できた。白山のお花畑の高山植物の種類は、他の高山に比べて決して多くはないのだが、個体量の豊富さと草丈が高いという特徴があっ、私たち登山者の目を大いに楽しませてくれる。群生のかたまりもすばらしく、イワツメタサ群落やオンタテ群落も印象的であった。



白山より西  
南には200  
0分を越える  
高山がなく、  
そのため、白  
山は多くの高  
山植物の西南  
眼となってい  
る。ただ、白

山にしかないという固有種はない。わが国の高山植物には、白山の名を冠した植物が30種余りあるといわれているので、固有種も存在するような錯覚をもつのだが、「ハクサン」という名をもつ植物が多いのは、白山が信仰登山により古くから開かれ、江戸時代から植物の研究がなされてきたためだといわれている。

翌日、再び室堂平をめざしてエコーラインを歩いた。ニコラインは、ニコウキスゲやクルマユリ・ハクサンフクロなどのお花畑の間を登り、別山の連雲と見下ろす南岳山馬場の群落がすてきである。

この日は大波峰に登ることとし、室堂センターから水原尾雪渓の下部を通ってみた。この雪渓の周辺には開水河現象(寒冷地では大の凍結融解にかかわる錯現象)によって砂礫地表面にさまざまな模様ができる構造的なひとつ、階状土(平坦な上面と急な斜面からなる階状の微地形)が見られるといわれ、その期待を抱いていたのだが、今年はまだ雪が多過ぎるのか、ほとんど見ることはできなかった。

その代わりというのも変だが、大波峰の登山口でA君が珍しい古銭を拾った。買水通貨であった。なぜ、こんな所に……とあ

れこれ議論したが、現代の登山者が持参するとは思えないし、発見した場所が昔からの登山道沿いであることなどから、きっと昔の白山登山者の落し物にちがいないという、ロマンあふれる結論にした。

「大変なものを見つけたね」と私たちが口々に声をかけ、フィルムを使い切ってしまったKさんに代わり、私が記念にと古銭を撮影すると、A君はうれしそうに恥ずかしそうな笑顔をみせていた。

(平成8年7月29日、30日歩)

- ▲コースタイム▼
- (第1日) 大白山登山口(2時間) 大倉山(2時間30分) 展覧館との分岐(20分)
  - 室堂(50分) 御前峰(2時間) 千蛇ヶ池(1時間30分) 室堂(50分) 展覧館との分岐(1時間30分) 南岳山荘
  - (第2日) 南岳山荘(エコーライン)(1時間20分) 根光新道との分岐(20分) 室堂(1時間) 翠ヶ池との分岐(30分) 大波峰登山口(15分) 大波峰(25分) 大波峰登山口(45分) 室堂(30分) 展覧館との分岐(1時間) 大倉山(2時間30分) 大白山登山口

▲地形図▼昭文社「43白山」



# 伯耆大山

1711年

浅野孝一

近畿、中国地方の地形を概観すると、山脈の中では水ノ山等の西方にそびえる伯耆大山が群を抜いて高い。海岸から見たその山姿を安楽庵は「作唐たいせん霞の帯を解いて扱けたか五里ヶ浜」とうたっている。

大山とは、高い山または大きい山との意味であると考えられるが、「ダイセン」と呼ぶのはこの山だけである。ちなみに大山と称する山は関東にもあり、その代表的な山は相州の大山と群馬と埼玉県境にある大山であるが、いずれも「オオヤマ」と呼ばれている。

大山一帯は昭和三十一年（1956）2月、大山隠岐国立公園となった。その地域は大山主峰・野田ヶ山・矢野ヶ山・甲ヶ山・

船上山、その他の複式火山帯によって構成されている。

なにぶん、中国地方それも日本海側というところ、東京からはアクセスにひと苦労する。いろいろ考えたが、結局高尾山駅発米子行きの特急バスを利用することにした。

早朝、バスの窓から前方にそびえる大山の姿を見て、私たちが三名は感動した。周囲に並び立つ他の山がないのでさすがに大山という名がよく理解できた。

『日本山嶽志』は「大山（別稱大神山、御嶽山、伯耆國西伯郡ノ東方ニアリ、大高村大字尾根ヨリ五里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高五里十六百五十二尺、」と記している。

伯耆大山の山頂付近



また『大日本地名辞書』は「山中に大山神あり、其旧供養を大山寺と云ふ。大山は山外雄偉一望人を動すの響あり、故に古米神霊の寓所と為し、修験行者は之を鷹野金峰に比したり」と記し、霊山としての由来をのべている。

米子駅前からバスで大山町に入り、予約してあった不老園山房に入った。この古びた大きな宿坊が私たちの今夜の宿であった。

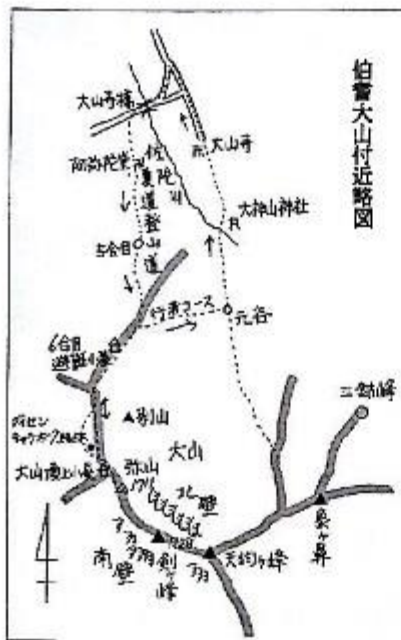


大山北壁

昔かっ文人墨客が好んで留泊したという。とりあえず部屋で雑装を解き、経装で大山へ登ることにした。

旅館街から大山寺橋を渡り、表登山道である尾根道をたどる。左右は深い樹林帯で、途中の阿弥陀堂へ立ち寄った。登山道は樹林の中で展望は全くない。このコースは夏道コースと呼ばれ、石段状の急な坂道を一歩一歩踏みしめて登ってゆく。

左下からの行者コースと合流すると、ブナの樹林帯を抜けて灌木帯となり、六合目の遊覧小屋の前に出る。すると日本海と船上山が見え、右上に山頂が近づいてくる。



登山道は夏山中・高校生の集団で込み合っていた。生徒たちと一緒に、麓につめられた砕石の階段を登ってゆくのだが、その幅が大きいので歩きにくい。

前方に弥山から剣ヶ峰・三鈴峰にかけての荒々しい北壁が近づいてくる。別山を見下ろす地点から登りはゆるやかになり、登山道は木道の上を歩く。山頂に至る木道の上は生徒たちでいっぱい、なかなか前進めない。私たちは一方通行を避けて、ようやく山頂に達したが、山頂部は木材と石畳ばかりで風情はない。山頂の横に立っても、登ったという感覚はなかった。

山頂近くで昼食をとってから、生徒たちと一緒にダイセンキャラボクの鍾林の間をくぐった。六合目から右下へ分かれる行者コースに入ると、生徒らもくぐって来ずホッとしたり。ブナの深い樹林帯をくぐって元谷に出た。荒々しい元谷を横切りながら、大山の北壁を眺めた。しばらく荒れた元谷沿いの車道を歩いて左下へ分かれる登山道に入った。

大神山神社は大きな建物であった。「大日本地名辞書」には「大山の神を祭る、……大山の剱峰に奥院と号する別祠あり、……大己貴神と云ひ、私家書云はて大御明神と云ふ。」と記してある。大仙霊現ともいわれ、延喜式社でもあった。

大神山神社から石の参道をくだった所に、大山寺がある。同じ「此寺大台宗を奉じ、



# 冒険クラブの夏山讃歌

“日本百名山に登る”シリーズ

|                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| 7月<br>12(土夜)<br>~13(日)<br>[夜行日帰り] | <b>‘中国山地最高峰’ 伯耆大山</b> [初心者向] <b>12,000円</b> (朝・昼・夜)<br>①大阪駅前(22時発) = 大山寺(泊)<br>② = 大山寺(泊) = 行者谷 = 夏道5合目 = 頂上小屋 = 弥山(1711m) = 地蔵池(泊) = 夏道5合目 = 阿波陀堂 = 大山寺(昼食) = 大阪駅前(19時頃着) [歩行5時間]                     |
| 7月<br>20(日)<br>~21(月祝)<br>[1泊2日]  | <b>‘高原と諏訪富士’ 霧ヶ峰~蓼科山</b> [一般向] <b>35,000円</b> (朝・昼・夜)<br>①大阪駅前(8時発) = 京都竹田駅前 = 摩山登山口 = 霧ヶ峰(1925m) = 摩山高原 = 白根湖(泊) [歩行1時間]<br>② = 登山口 = 蓼科山(2530m) = 登山口 = 京都竹田駅前 = 大阪駅前(20時頃着) [歩行5時間]                 |
| 7月<br>25(金夜)<br>~27(日)<br>[夜行1泊]  | <b>‘火山の名峰’ 焼岳~乗鞍岳</b> [やや健脚向] <b>45,000円</b> (朝・昼・夜)<br>①大阪駅前(21時発) =<br>② = 上高地 = 焼岳(2455m) = 中尾温泉口 = 新尾温泉(泊) [歩行8時間]<br>③ = 豊平 = 乗鞍岳(3026m) = 豊平 = 京都竹田駅前 = 大阪駅前(20時頃着) [歩行3時間]                      |
| 8月<br>18(月)<br>~20(水)<br>[2泊3日]   | <b>‘ゆったり登るプラン!’ 富士山</b> [初心者向] <b>45,000円</b> (朝・昼・夜)<br>①大阪駅前(8時発) = 京都竹田駅前 = 富士山五合目 = 六合目(泊) [歩行40分]<br>② = 富士山頂上(3776m) (泊) [歩行4時間]<br>③ = 富士山五合目 = 京都竹田駅前 = 大阪駅前(19時頃着) [歩行4時間]                    |
| 8月<br>30(土)<br>~31(日)<br>[夜行日帰り]  | <b>‘北アルプス最南端’ 木曾・御嶽山</b> [やや健脚向] <b>17,000円</b> (朝・昼・夜)<br>①大阪駅前(21時発) =<br>② = 田ノ原登山口 = 王滝頂上 = 御嶽刺刀峰(3067m) = 新轟 = 鹿ノ瀬 = (温泉入湯) = 京都竹田駅前 = 大阪駅前(21時頃着) [歩行7時間]  |
| 9月<br>6(土夜)<br>~7(日)<br>[夜行日帰り]   | <b>‘森と湖沼の美しい’ 北八ヶ岳</b> [一般向] <b>17,000円</b> (朝・昼・夜)<br>①大阪駅前(21時発) =<br>② = 山梨駅 = 山梨駅 = 坪原 = 霧ヶ峰(2403m) = 霧ヶ峰(2384m) = 霧ヶ峰 = 白駒池 = 夏草峠 = (温泉入湯) = 京都竹田駅前 = 大阪駅前(21時頃着) [歩行5時間]                         |
| 9月<br>13(土夜)<br>~15(月祝)<br>[夜行1泊] | <b>‘東京都の最高峰’ 雲取山</b> [やや健脚向] <b>39,800円</b> (朝・昼・夜)<br>①大阪駅前(21時発) =<br>② = 御祭 = 後山林道 = 三桑ノ湯 = 雲取山荘(泊) [歩行8時間]<br>③ = 雲取山(2017m) = セツ石山 = 霧沢 = 京都竹田駅前 = 大阪駅前(21時頃着) [歩行5時間]                            |
| 9月<br>28(金夜)<br>~29(日)<br>[夜行1泊]  | <b>‘隠れた名峰’ 四阿山~白根山</b> [やや健脚向] <b>45,000円</b> (朝・昼・夜)<br>①大阪駅前(19時発) = 京都竹田駅前 =<br>② = 菅平牧場 = 根子岳 = 四阿山(2354m) = 鳥居峠 = 志賀高原(泊) [歩行6時間]<br>③ = いもり池 = 本白根山(2171m) = いもり池 = 京都竹田駅前 = 大阪駅前(21時頃着) [歩行2時間] |

\* 詳細お問合せ/資料のご請求は ☎ 06-265-3303



アミューズトラベル株式会社 運輸大臣登録 旅行業第1366号

〒541 大阪市中央区本町4-5-3 本町三井ビル2号館8F

慈覚大師の創建、又は養老中入道上人の草創と伝ふるも詳ならず」と記されている。本尊は地蔵菩薩であり大山大智明神の本尊と号されていたとも伝えられている。金剛院以下十八ヶ寺の末院があったといわれているが、草むらに残された石垣がその跡であろうか。

現在大山の山頂付近、特に北壁を中心として山壁の崩壊が進んでいる。登山道には石垣や蛇籠等を設置して、登山道の崩れを



大神山神社

△参考タイム▽  
大山・不老園山房9・00 | 阿弥陀堂9・30  
| 二合目10・15 | 六合目12・00 | 15 | 山頂  
13・50 | 14・30 | 沢倉分岐15・40 | 天谷16・  
50 | 大神山神社17・20 | 30 | 大山寺17・50  
| 不老園山房18・10  
△地形図▽ 2万5千1:1大山



防止し、山頂一帯には水道を敷いて保護に  
つとめている。

しかし、年間を通じて約15万人の登山者  
があるというこの山の、自然そのものを保  
護するには、一定区域の登山禁止または入  
山者の数を制限するなどの方策が必要であ  
ると、大山に登ってみて痛感した。そこま  
で踏み込んで考えてゆかねば、自然を守る  
ことは不可能であろう。

(平成8年6月6日歩く)



低山登山~本格トレ  
ッキングまで、  
登山用品のことなら  
おまかせ下さい。

新ハイオの会館まで更に割引します。



とスキーのヨシミ

〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70  
TEL06(772)7231

JR天王寺駅  
北出口右へ  
歩道橋渡ってスグ



## 北海道南部の名峰

# 樽前山 (点名樽前岳)

多摩雪雄

## 北海道



この年、この季節の北海道の気象は異常であった。

北海道南部の山と観光の一週間のうち、前半の晴れ間はわずか、ほとんどは霧中の急降であったし、後半は霧雨であった。

若小牧の非当は未切れ。周辺にはコンビニその他の食品店は無く、一行の昼食はやっと見つけたハンバーガーとなる。

バス40分で支笏湖畔バスターミナルに着いたが、予約したタクシーはなかなか登ってこない。(湖畔のタクシーはほとんどないので、千歳の会社に予約した。なお、湖畔は土産物店が主で、飲食店はほとんど無い。)最初の一台が登ってきた時、さっと乗り込もうとした女性をS.L.の小林が諭していた。

30分後の10時15分、やっと捕ったタクシーで出発しようとする。「先生、一緒に連れてって」と、先刻の女性が寄ってくる。先年終了したリーダー必須講習50回の受講生喜久江であった。

「北部のほうは5日間好天続きで、利尻山にも登って来た」と言い、きょう中に帰京したいので「お願い」と言われ、何とか結んで「乗せてやれ」となった。

標高660m、七合目の広場には20分程度着く。ヒュッテとトイレがあり、小林が登山道を記入している間に、喜久江と別れの撮影を済ませ、彼女はみなに一礼して登ります。

「支笏内コースは七合目から苔の洞門ま

る。

火口丘北側は大きな噴出岩が散在し、ベンキの舌も大明瞭で、霧中に方向を誤って再び山頂へ引き込まれるところであった。

火口壁と別れて西へくだりだすと、広い斜面の砂礫地に吹き上げる霧風は寒い。大岩塊の陰に入って昼食休憩40分。付近にはタルマエソウが多く、以後、岩白ゴロゴロの急下降が続く。14時、700m付近で樹林帯に入ってひと休み15分。ミヤマハンノキとコケモモが多く、霧がだいぶ薄れてきた。

熊の棲息地用不死岳の巨大な姿が現れると、青草に大石とタケカンバの妨材が点在する自然庭園が続く、そのまま緩斜面の道通だと思っていた。△458・4の東520m標高地点で、図記の破線と分かれて薄暗い深林の中を北へ進む。苔の窪に入っ



苔の洞門

て、奥の苔の洞門に入ったのは15時。この西岸はまだ低く、岩が滑るが、洞内の小広い黒砂を歩くこと30分、苔の洞門となる。この中で熊に遭遇したら逃げ場はないのだが、近年、悪態岳に移住したとのことである。

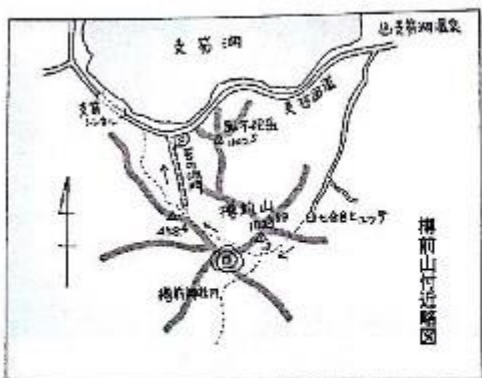
見事に付着した数種の苔は高々と厚く地表をおおひ、切り立つ洞の中は右に左に曲折している。黒砂を踏んで徐々にくたつて行く。

人ひとりと通れるだけの狭い洞門を梯子でくだり、間もなく一級観光客入山禁止のゲートに当たったのは16時。そこにも熊に注意の立看板がある。なおも、入口駐車場まで幅広くなった苔洞の中の歩きが25分続く。

予約したタクシーで支笏湖畔の北海ホテルに入ったのは16時40分であった。

(夕食 甘エビ・マキ貝・ヨーカンの前菜、甘エビ・蛙・鯛のさしみ、カニ足クラタン、トマト・アスパラ・キャベツ添え、塩クラゲ、ホタテフライとナメコ、牛肉・野菜のうどんスキ、胡瓜の漬物。我々には手頃の料金であった。

(平成8年7月中旬歩く)



樽前山付近地図





安平山山頂

△コストタイム△文中を参照  
△地形図△5万・2方・2方5千11標明山

安平山(△高度1717m)  
新二歳遊歩駅からJ尺石懸壁で次の駅迄  
分で下車。要所の指導標によって歩程3・  
5分、80分で安平山スキー場に着く。交流  
センター・食堂室・ヒュッテ・リフトがある  
が、季節はずれなので当然だれもない。

リフトの終点の地を高度差1000m以上、ゆっ  
くり登ってわずか15分。広い草地の頂上に  
着くと、西側に森林、北側に草叢とすばら  
しい眺めが開け、南東に1等三角点峰の城  
光山、北には馬追山と夕張山群と真下  
にゴルフ場。1等三角点(1666・341)  
は昭和55年5月に交換された左巻きの標石  
で、「点の記」記載の二基の反転板は撤  
去されていた。標石の西、わずかに離れてた  
れが設置したのか、トングリ三角自然石に  
陰刻した「安平山」があった。この石が山  
の主のようであった。

△コストタイム△文中を参照  
△地形図△5万・2方5千11追分

千歳で時間に余裕があったなら、ぜひ訪  
れてみたい。心安まるひとときとなるろう。



## 山頂でテントを張る

### 策ヶ岳

やっとの思いで、策ヶ岳の山頂に着いた。  
ポツポツと雨が降りだした。周囲は真の白  
鷺地にほろ余裕もなく、山頂南側の一帯分  
の空き地にテントを設営した。お盆前なの  
に、山頂は私ひとり。周囲が急に寂しくなっ  
たが、テントの中に入れば暖かだ。また午  
後も早い。気持ちにゆとりができてきた。  
きょうの飯付味からの足根歩きは長かっ  
た。しかし心配していたルートの不明な部  
分は全くなかった。赤テープがたくさん付  
いていたし、道そのものもしっかり踏まれ  
ていた。早川町とだけ書かれた、あまり意  
味のないプレートも次々と確認できた。  
だれにも会わない長い尾根だった。キノ  
コがいっぱい生えていて、ヘンゼルとグレー

## 松田敏男

### 南アルプス

テルの童話のような所があった。シタの生  
い茂っているなかを進む時は、清々しかっ  
た。しばらくは赤石法がよく見えた。橋長  
に大きい赤石岳の悠然たる姿が感動的だっ  
た。下から雲が湧き上がっていたからいっ  
そう立派に見えた。  
その姿を、策ヶ岳の山頂で見たかった。  
が、この雨の様子では、峰頂前線が居座り  
そうだ。あすの朝の、朝日に輝く赤石岳は  
諦めるしかないだろう。水場までは、ここ  
から往復を時間半。水を汲みに行く気には  
とてもなれそうにないので、漣泊はできな  
い。さっきから、ポリ容器を外に出して雨  
を溜めているが、しっかりと降り続いたと  
しても、水を確保する程には溜まりそうも

策ヶ岳山頂



ない。さびの水を山頂まで持ち込んだもの  
の漣泊するために水を切りつめるのは危険  
だ。真夏は何よりも水が頼り。たとえ漣泊  
できたとしても、絶対よい天気になるとい  
う保証もない。山頂で目がなばかんと遠く  
すのもよいが、水場が遠く風が強くて、な  
んとなく緊張する。  
突然人の声が出た。山頂でテントを張る  
つもりなのだろうか。私のテントを見て驚

CAMP-HIKE-CLIMB

**TOMY WALK**

**梅雨も楽しい快適レインウェア**

最軽量のゴア雨具 ストーム・クルーザー ￥25,000  
2万円を切る格安ゴアレイン・ダンサー ￥19,800  
しなやか防水透湿素材レイン・トレッカー ￥19,000  
※モデルは透湿性プラスハイドロプロ ￥7,700

GORE-TEXブーツ・帽子・  
グローブもとりそろえて  
あります。

営業時間 12:00~20:00  
定休日 なし  
吹田市内木町1-23-7  
TEL 06-319-0597



いたような声が出たけれども、止まることなく足音が遠のいて行った。姿は見なかったが、人に会ったのはきのこのつた峠でテントを張った時に、沢ヶ岳から下山して来た人以来だった。

きのうは転付峠の南、沢ヶ岳への林道の分岐にテントを張った。時には無様な林道が通っていて、石標のある峠に昔の風情は残ってなかった。18年ぶりの峠に、何の感慨もなかった。おまげにジープが走ってきた。遊覧だろうか。1日以上かけて、重い荷を背負ってやっと着いた峠にジープのお出まし。そして土ほこり。国立公園内ではなく、私有地なのだからしかたがないが、



2000円を超える南アルプスの中で、一夜を明かすという、しつとりとした情感などなかった。林道の片側にテントを張って、翌日日帰り登山をする沢ヶ岳の山行気分だった。

しかし、峠に登り着くまでの内河内の谷は美しかった。以前、3月に来た時に、横道の板が落石で落ちていて遮断した谷だ。今回、普通に通過できる様に修復されているかどうか心配だった。内河内に続く林道で、何人もの人が下山してきたので、これは大丈夫と思ったものの、やはり不安だった。あの時の、水底が黒い渦を巻いていた狭くて暗い谷の浅瀬や、氷柱がトンネルを埋めていた光景が脳裏に浮かんだ。

しかしそんな危険箇所はどこだったのだろうかと思うぐらい何の不安もなく通り過ぎる。夏とはこんなものだ。谷底を見ても美しい流れが目には優しいばかり。白い飛沫が日に輝いて、その美しさを写真に撮りたいところだが、重い荷物のあげおろしや峠までの長い行程を考えると、ついつい早く上にあたり着いて安心したいという思いが強くなり、さっさと通過してしまおう。3月に撤退した地点は、ほんの谷の入り口で、そこからしばらくの間が、狭くて特に美しい谷だっ

た。そのあとはずっと上まで登頂できるような所はなかった。本流から少し離れた支流のちよっとした空き地は、最高にいい最初の宿営地だった。

身延から田代入口までバスに乗って、炎天下を歩き始めて1時間。以前にテントを張った広河原の発着所前は、ゴミがいっぱいあって、夏にはとても一夜を明かす気になれない所だった。予定を変更して、しかたなく先に進んだものの、内河内に沿う道を歩き始めると、谷川の藪音で、とても賑わそうにないから、どうしよう、先にテントを張れる所があるだろうかと心配しながら歩いた。ほんとうにただ一か所、私がテントを張った所だけは、支流の水がすぐ脇を流れ、快適だったのだ。

ただ、8時を過ぎてシェラフに入って寝入りかけた頃に、突然近くで大人と子どもの声らしき音が聞こえたのには驚いた。鉄製の網の橋が架けてあるところにテントを張っていたから、下山の人が橋を通る時には、橋のさしむ音や靴の音が聞こえていたのに、この時は親子の声らしきものしか、私には聞こえなかった。それも半分夢の中だったから、話し声なのかうめき声なのか、よく

分からなかった。こんな山中に夜遅く子どもの声？ だんだん音声が寒くなってきて、眼がしつかりあいてしまった。朝、用を足しに谷の奥に入った一段上がった草むらには、寒屋の崩れた陰気な光景があった。いっそう背筋が寒くなった。

しかしそれは、転付峠下の水場です済してきた。その親子に会ったからである。私のテントがあったので静かに橋を渡ったとのこと。二軒小屋への道に慣れた道なので、夜でも内河内を登って、保別沢小屋前でテントを張ったのだと、父親は話された。それにしても、夜に横道を下連れで登られる



登山道より見る山容

感じるだろうに……。

ふと、我に返った。沢ヶ岳の山頂のテントの中。雨は激しく降っている。明日は一日も雨なく下山しよう。あの内河内も、明日中におりてしまおう。この大雨で水嵩はどんどん増えていくだろう。早く下山してしまわないと危険だ。

4時過ぎに起き、6時前に出発した。午後一時25分発のバスに間に合わせねば。もう一本あともあるにはあるが、早く立ち去りたかった。身延で泊まって、もし次の日に晴れたらとても気が滅入る。たぶん晴れはしないと思うが、完全な都会の甲府まで行ってしまったかった。次の日、運よく天気が回復すれば、また新しい気持ちで、茅ヶ岳に登ろうと決めていた。

田代入口までは三丁場なので、あまり速く歩き過ぎ、途中で体力を消耗してはいけないと思い、転付峠までは休憩をわずかにして、少々早足程度でひたすら歩いた。ただ急いではいけなくとも、ゴミを回収するスタイルだけは忘れなかった。奥深い山だけあって、アメの包みのような暖気分の登山者のゴミはなかった。銀マットの切れ端など、密な樹林の中であきれ落ちたものが目についたのは、この山城ならではの

だ。

転付峠に着いて、残り時間は3時間半。歩き始めるかどうか微妙なところだ。もうひたすら歩きたかったこと。林道におり立つからの苦しかったこと。親りの道のりや、時間とを比べながら、体力気力の限界の遠さを歩いた。そのかいあって、バスの到着時刻の2分前に着くことができた。

しかし田代駅の階段の上がおりずら、余力を残していないかった。茅ヶ岳など、とんでもないことだった。

次の日の東窓から、その茅ヶ岳が一度はくっきりと姿を見せたが、不機嫌な青黒い表情で、たれ込めた銅色の空にくっついていて、それは台風14号が北アルプスを通過して荒れた日のことだった。

(平成8年8月11日、14日歩く)

#### △コースタイム▽

田代入口(2時間15分) 広河原の先の枝沢(5時間10分) 転付峠の南、沢ヶ岳への林道分岐(6時間40分) 沢ヶ岳(6時間30分) 田代入口

#### △地形図▽

2万5千リ新集、赤石編  
昭文社「11増見・赤石・地誌」



# 北山西部コースを歩く

秦 康夫

## 京都北山

水室の道を歩く



京都御苑を京都市の中心と考えて地図上をまっすぐ北にたどると、二ノ瀬からはじまって、御取山・汁波山・小野村御岳と京都北山を代表する山が連なり、さらに原野の二面峠を経て福井の多田ヶ岳までが縦一線上にならぶ。この線から西を仮に北山西部ということにすれば、加茂川・桂川・由良川の源流地帯を中心に、北は丹波高原に接する広大な山域が含まれる。きょう歩こうとする道は、その南端をかすめる程度であるが、二ノ瀬から清滝まで19・8km、四つの峠をたどる北山らしい情緒豊かなハイキングコースである。

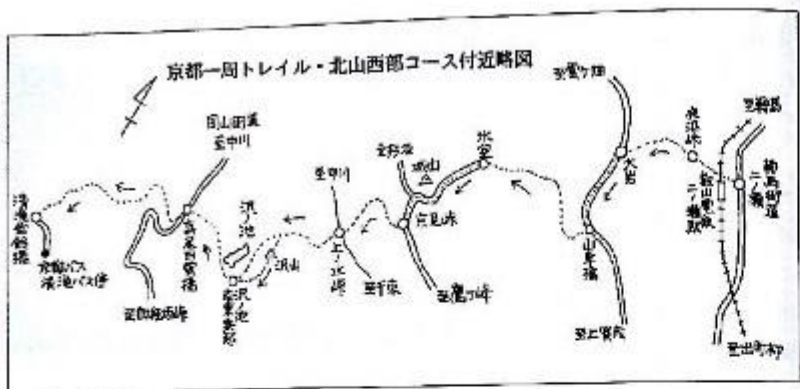
天気は曇り。叡山電鉄を二ノ瀬駅で降りて橋を渡り、鞍馬街道に出る。左へ数十分

行くと京都一周トレイルの標識46があり、ここが北山東部コース(本誌前号)と北山西部コースの中継点になっている。

鞍馬川にかかる橋を渡って、叡山電鉄の踏切を横断したところが富士神社。右に分かれるのは二ノ瀬ユリ・貴船山への道である。境内を借りて人員点呼と、きょう歩こうルートの陸路を済ませ、手水舎の冷たい水をポリタンに満たす。8時35分、総勢20名が最初の目標夜泣峠に向かってスタート。

60段ほどの石段を登って、山道に入る。いきなりの登りはきつい。杉の植林帯を通り、クヌギの木が目立つようになる。道はやがて谷筋を離れ、山腹にギザギザを刻み

ながら上に続いている。峠の群生しているあたりで、まだ半分程度か。二股になった大きなクヌギの倒木が道をふさぎ、背中のザックに気をつけながら慎重にその下をくぐる。左が杉、右が檜の植林帯に入ると夜泣峠は近い。高度差200m弱を稼ぐのに一汗も二汗もかいて、やっと峠に着いた。ここで一服。両側を池木におおわれて、うっそうとした感じの北山らしい峠だ。峠



名の由来となった松の大樹の前には、小さな祠があり、注連縄が張られている。松の樹皮を杖に入れると、子供の夜泣きが治まるという。松は一本あるが、そのうちの一本は、樹皮をはがされたのか、無残な姿になっているのが痛ましい。現在の森林帯にも通じるが、昔から松や杉の雑散する香気に、神経を安める効用があるのは、よく知られていたようだ。われわれも樹木の精気をたっぷり吸収して出発。

大石に向かう。杉、檜の植林帯を過ぎて明るい山道を通り、貴船山方面からの栗夜叉谷林道に出会うと道は広くなる。栗夜叉谷川(貴船川)沿いの附道に出たところで、右の方にその名の通りの大きな石が道にかぶさる。そうしてそり立っているのが見える。

ここから一、半ほどは単調な車道歩きとなる。気分転換をかねて全員が徒歩に切り替えた。雑歩のように両手を振って、競争しながら歩く様子はまるで子どもものようだ。京都バス山崎橋バス停の手前で、東海自然歩道と別れ、水室へトレイルの標識脇脇にしたがって右の山道に入る。以前この標識を見逃して、上原あたりまで行ってしまったことがあった。少し分かりにくいので道

注意。なお、車道の東に関西電力が北送電所があるが、夜泣峠から西四への尾根道をたどると、ここへ出てくる。

少しの登りで明るい開拓地に出た。一列だけの茶畑や合杉の南大などがある。標識58で折り返してすぐ山道に入る。杉林の中の歩きやすい道がやがてだりとなり、はるか右下に見えていた谷の瀬音がにわかには高くなった。小さな沢を二つ渡り、隘入谷という物騒な名前前の谷に出合。たまたまで休憩。案内板によると、ここから水室の北の満徳峠に通じる尾根道があるはずだが、どこが登り口か分からなかった。

小峠まで高反響のりりびの登りはかなりきつい。薄暗い谷沿いの道がやがて山腹を纏く明るいシゲザゲ道に変わり、ササの小道になったところが小峠。あまり静しくない、その名の通りささやかな峠である。杉の苗床の端を道って水室の里に入った。のどかな田園風景が広がる。集落をやさしく守るかのようには、北山杉の山がまわりをとり囲む。豊かな緑の中に民家が点在するさまはまさに別天地。都会の近くとは思えない。旧家の鬼瓦を見ると、鬼面ならぬ眼をつき出した布笠様と、あぐらをかいて座っている猫。水室という名にふさわしく





沢ノ池

ない温かい空気の山里である。「テッペンカケタカ」と聞こえるホトトギスの鳴き声をBGMに、村人といさつを交わしながらのんびり歩く。

氷室神社前の案内板によると、ここは昔、山城国斐川郡にあった五箇所の氷室の一つで、池の近くに掘った穴に氷を貯蔵し、夏になれば、夜間早馬を駆って御所まで届けたという。前回来たときその氷室跡を見に行ったが、杉板に通じる小道の脇に

というのがトレイルの正規のコースだが、單調な林道歩きを避けて、2等三角点のある沢山峠山のバリエーション・ルートをとることにした。

沢山への登りはほ谷道であるが、歩く人が少ないせいかかなり荒れている。倒木が何度も道をふさぎ、乗り越えたり、下をくぐったり、けっこう楽しみなが20分ほどで516名の山頂に着いた。きょう二つ目の三角点を前に小休止。山名は「沢山」だが、点名は「鷹峰」というぞうだ。

南へ尾根道をくんだり、左に宇野野方面への道を分けて、トレイルのコースに戻る。沢ノ池南東の東へ越し(安楽峠という奇妙な名がついている)、標識施設のところである。今回は省略したが、沢ノ池に寄って二駅するのよい。ここからおりの道は池の中ほどに出るので、15分くらいかかる。トレイルに沿ってそのまま高尾方面に70〜80歩歩く。二宮峠への岐れを過ぎたところに、右におりる道道があり、3〜3分まで沢ノ池の東端端からササの中の小道をたどれば、3〜4分までトレイルの道に戻れる。山ツツジの咲き始めるなか、高尾に向か。てとんどんくた。雨になれば水の流れる

「氷室跡」と刻まれた立派な石柱が建っているだけで、氷池の跡はなにも見当たらなかった。

氷室神社の前を通り城山に向かう。携えていた昭和三十九年発行、大城功氏著の『フォート・ガイドブック 京の山々』(あらゆるポイントの当時の写真があり、変化が分かっておもしろい)には、神社前ののどかな地道の写真があるが、現在は完全な舗装道路になっている。登りつめたところに右へ入る城山への小道があり、トレイルからそれて寄り道する。3等三角点(477.8m)のある山頂まではほんの数分。展望はほとんどないが、休憩にはちょうどよい小広場になっている。明神光秀の築いた長城の跡のことである。

もとの道に戻る。杉板への道を分ける氷室岐れを過ぎて京見峠に近づくあたり、比叡山、東山三十六峰をはじめ、京都市街の展望は抜群。峠の茶屋の少し手前に、トレイルの標識68があり、やっとな舗装道路から解放されて、沢ノ池への山道に入る。雄木林の坂道を登りきると落ち葉の敷きつめられた、なだらかな散歩道となり、汗ばんだほほにあたる微風が心地よい。時おり南方に京都市街が望める歩きやすい道で

荒れ道である。福ヶ谷林道に入り、檜の植林帯の中、簡易舗装の道が終わると周山街道の桐ノ尾と横ノ尾の間地点あたり、白雲橋というところに出た。車道を数分歩いて右へおり、料亭街を抜けて高尾橋を渡る。あとは清滝川沿いの東海自然歩道のコース。釣り人と話をしたり、鳥の声を聞きながらのんびり休憩したり、4.5を70分以上かかって、16時ジャスト、全員無事清滝金鈴橋に到着した。

(平成8年5月26日歩く)

- △距離と参考コースタイム▽
- 鞍馬街道二ノ瀬(4.4km) 1時間10分
- 山幸橋氷室口(2.9km) 55分 氷室(4.1km) 1時間10分
- 上ノ水峠(4.5km) 1時間20分
- 沢山峠(山由ルート) 高尾白雲橋(3.9km) 1時間
- 清滝金鈴橋
- △地形図▽
- 2万5千：大原・周山・京都西北部
- 京都市産業観光局観光部・北山西部ガイドマップ

ある。このあたりで本日の行程の約半分の時間は1時50分。林道に出て道が広くなるところで昼食にする。

いつも変わらぬにぎやかなランチタイムが終わり、12時40分出発。トレイルの標識671から林道を離れて左に入り、上ノ水峠への山道を行く。松林になる。真西の方向に愛宕山が姿を現してきた。少しの登りであるが長いくだり道となり、鷹ヶ峰の玄球から飯尻を経て中川に通じる東海自然歩道に出た。ここが峠かと思っただけ、上ノ水峠の標識は、左に折れて約20分のところにあった。めずらしくも三叉路の峠である。前述の『フォート・ガイドブック』には、なんの道標も写っていないが、今は三つも標識が立っている。ここは京都市街を南北に貫いて流れる紙屋川の源流地帯にあたる。川は鷹ヶ峰からほぼ西大路通に沿って南に流れ、天神川と名を変えて、京都の南区、新橋線の鉄橋あたりで掛川に注ぐ。

沢ノ池方面へは右に曲がり、ほとんどなく標識677が現れる。小さな二体のお地蔵さんがトタン屋根の下で、きょううつそうに座っている。だがこれが、これは前著掲載だといっていた。この道をまっすぐ行って林道に出合ったところで左に折れて沢ノ池に向かう、

【この花・この草】

ヒオウギ (Belamcanda chinensis) アヤメ科

京の夏は菖蒲祭。毎年七月一日から一ヶ月の間続き、別名「屏風祭」とも言われます。鮮明の家々では産産に屏風を飾って宴をもてなします。その屏風の前に置かれるのは射干のお花です。

射干は、Belamcanda インドの地名・Chinensis = 中国大陸という学名からわかるように、インド北部から中国大陸に広く分布し、日本でも山野に自生・栽培されています。葉は広剣形で扇状に広がり、夏には葉柄が数枝に分かれた先に赤斑のある橙色の小花をつけます。

初秋に根茎を採取、水洗後乾燥したもの生薬名は射干。イソフラボノイド配糖体のイリジジン・テクトリジンを含み、抗炎症・抗微生物・女性ホルモン様作用があります。消炎・解熱・咽喉痛・生理不順に、漢方処方では射干麻黄湯に使用(解熱・去痰・喘咳等に)。

漆黒の種子は「めばたま」と言われ、品・夜・闇・夕・曇・今夜・夢・月等の枕詞として使用されます。また、この種子は民間療法として腫瘍やそこひ・めんぼ、めまい等に利用したとか。



## 野の花讃歌 (22)

市川 正次朗

### 入笠山は花また花

夏になると、やはり信州の風に吹かれたくなります。そこで思いついたのが入笠山。南アルプスの北の端、標高1955mの山ですが、車で標高1800m付近まで行けるので、リハビリ中の私にはびびりです。以前から花が多い山と聞いていて、一度行ってみたいとは思っていたのですが、わざわざ信州まで出かけ、ここで時間をとられるのはもったいない気がして、なかなか実現しなかったのです。神様が与えてくれたいいチャンスだったのかも知れません。

8月初旬、中央道をのんびり走り諏訪インターで降りる。太い丸太を山の急斜面を滑りおろす勇壮な祭り、御社祭で有名な諏訪神社にお参りして富士見町へ。そこから山道に入って入笠山まで約30分で着けます。入笠山には七、八軒もの山小屋があり、



ニッコウキスゲ

いずれも車で登れるのでなかなか立派な遊りです。私たちは予約しておいたマナスル山荘へ投宿。この山小屋の名物は本格的な天文台。夕食後しばらくして、「星を見ませんか」と誘いがかかり二階へ。天文学を勉強中だというアルバイトの学生さんの説明で、宿泊者がかわるがわる大きな天体望遠鏡をのぞき、神秘的な輝きに感嘆符を連発。星の名前や星座にうとい私ですが、火星の輪っかのきれいさにはびびり。そのあと懐中電灯を持って牧場のあたりをぶらぶら、満天の星空が堪能できました。

翌朝、入笠山まで約30分の登山。山

頂からは甲斐駒・仙丈・北岳から脈々とびる南アルプスと富士山、西から北へは中央ア、北ア、八ヶ岳、東には奥秩父、奥多摩の山並みと実に360度の眺望。

入笠山で楽しみをしていたのは湿原と花の種類の豊富さ。山小屋近くに入笠湿原、少し離れて大阿原湿原があり、うわさにたがわず花また花でした。

願不同、思い出すまま列記すると、ヤナギラン・クルマユリ・タカネフクロ・クサボタン・ツリガネニンジン・イブキトラノオ・クサレタマ・サツキキロウ・シモツケソウ、そしてマツムシソウ・アキノキリンソウ・ワレモコウ・オミナエシも、ここでは秋の花も一縷に咲いて、その可愛さを競っているみたいです。

残念だったのは、せっかくの高山の花いっぱいの入笠湿原の一角が、まるでテント村みたいになってしまったこと。春には可憐な花を咲かせるスズラン群生地までテントが張られ、家族連れや若者たちのパーベキューの残骸が散乱していました。その反面、一周小1時間の大阿原湿原は静かで、赤いモウセンゴケがびっしり、ワレモコウの花穂には赤トンボがのんびり羽を休めています。

## 連載

1等三角点峰 (500m以上) 548座完登の記録 (第2回)

# 京交山岳部入部と大峰の思い出

坂井 久光

戦後の昭和二十二年、舞鶴に上陸して驚いたことは、ひどいインフレで、五百円も買ったが小さなまんじゅうが一個、肉、りんごが一個三十円だった。

京都駅で再会した父は、涙を流して喜び出迎えてくれた。

家に帰って、母からの第一声で「浅田さんが死んだ」と聞いて、私はがくせんとした。浅田さんは近所の娘さんで、私が大学へ通っていたころは、宝塚音楽学校の生徒だった。昭和十七年春、大阪府大へ入学した最初のクラス会の遊足で、中山御吉から宝塚へのコースを歩いたが、夕がた宝塚駅で解散する時、ちょうど寄宿舍にへ帰る途

田さん母子とぼったり会いびっくりしてあいきつを交わしたが、それを見た四人の学友が「宝塚のメッチェン(恋)を知っていることは、けしからん」と口々に感嘆符でコーヒーをおごらされた。

当時、難関校突破の反動もあり、愛読旬報「戦時時代」に受験実態記を書いて、原稿料十円を手にした。また二面の後輩だった谷口くんのお父さんから「息子の進学指導をお願いしたい」と頼まれ、週二回月謝三十円で引き受けたりして小づかいには不白田しなかった。

学友と心齋橋や阿倍野の喫茶店で、また夜は京都の「夜の窓」(ジャンクレー)などの店で遊び回っていた。そして十数日こ

御在所岳測量機 (1等三角点) 昭27.11.2



とに帰宅する浅田さんから、いろいろと宝塚のおもしろい噂話を聞いたりして親しくなった。私が出世する時には佳報まで見送ってくれ、その目には涙が光っていた。

無事に帰ったら結婚するつもりであった。それが、昭和二十一年に、結婚延期通知という間違ったこともない病気がこぼれていたのだからショックだった。早速浅田さんの家へお悔みに行き、初めてお兄さんにも会った。



彼(お兄さん)もシベリヤから復員とかで親しくなり、やがて近所へ引越してきた。南大の同級生だった若林さんと三人の復員トリオで、現在トロッコ列車が走っている山陰線の保津峡駅近くの山でアカ松の伐採と薪作業に出かけたり、竹やぶの團圓などでアルバイトをしながら家計を助けた。

商社の就職に努力したが、当時は求人難で、翌昭和二十二年に先輩の紹介で進駐軍に勤めたりと、のち二商の学友入江氏の紹介で特別調達隊へ就職したが、二十四年十月、縮小のために人員整理された。そして翌五月に私に向かいの中川さんの紹介で京都市交通局に就職した。

それまではインフレが続き、父の勤務先が倒産した。たので生活は苦しく、復興もあり進まず、休日遊ぶことといえば北山や西山へ出かけて山菜を採ったり、桂川へ釣りに出かけたりするぐらいであった。登山は二十二年三月、近所の二商の同窓生の岡野氏と登ったことぐらいで、当時はまだ三岳点には興味はもっていなかった。

京都市交通局に入局し、一年間は車掌をして、翌二十五年、電車課へ係長として配属された。その係長が山岳部長の藤原氏で、彼にすすめられて「京交山岳部」に

入部した。顧問は京大教授今西錦司氏で、雲の上の人のような顔があったが、その後知り合えるとは夢にも思っていなかった。また奥村厚一英大教授も顧問をしてもらい、その後知り合いになった。

入部して最初の山行が鈴鹿の御在所町で、近藤部長、森下さん、それに女性部員も交え、山頂で初めて三角点測量の実験を見る事ができた。

当時昭和二十四、五年頃に、父が七十歳行を定年退職した。退職金や貯金を元手に、京都木産工業株式会社を資本金百万円で創立した。しかし重労働が難しく、また原料のアカ松の入手も困難な時代で、妻の先生のすすめで転業したが、それも一年ほどで倒産してしまった。一家は路頭に迷う寸前だった。

私一人が就職し、弟は洛陽土高の一年生で、祖父・父母・弟妹と一家八人の生活がわが身にふりかかっていた。当時の私の給料では、父の税金分にも及ばなかった。

父は半年ほど半病人で、私は先輩の田辺氏の紹介により、大阪の松屋町の辻サルク・Kから信用で化粧品や雑品を借り受けて注文を取る内職のようなアルバイトを始めた。

岳会をやめ、京交山岳部一本になってくれ」と頼まれ、京交山岳会を退会したが、それまでは松浦氏と大峰の溪谷通行や、台高の沢歩きに熱中していた。

当時は山陰線を含め近畿一円の国鉄、私鉄が相互便乗できたので、大山や三瓶山にも前後発日帰りの山行ができた。

昭和二十四年頃、京都バスの区巡回行きの終点で下車し、佐々里峠へヤマメを釣りながら登って、佐々里谷を釣りまがり、田歌まで歩いて出てからバスで山陰線の和知駅に出て国鉄で帰ったことがあった。

そのことを「京交部報」に載せたが、顧問だった今西錦司先生の知るところとなり、「人文科学研究所」に来てと言われ、初めて今西先生と対面した。桑原先生がその部長で、隣の部屋だったので桑原先生ともお会いして美濃の湯見へ行ったりと、先生も賞行かれ、そこから能郷白山にも登られたと記された。

それから間もなく、今西先生から大峰の秘峰・中八人山へ行くから来いとの要書が来た。先輩の伊藤潤治氏や、当時五條高校の先生をしていた御勢久衛門氏と池田川の谷谷谷合の「山彦社」に入った。しかし雨のためそこで泊留するはめ

になった。ヤマメ釣りで暇をつぶしたが、西先生と私の三人で六寸以上の大物も含めて三千数匹も釣った。朝から味噌汁・塩焼き・背こしなどのヤマメ料理に日本酒でゼいたくにごった。

やっ和三日月に雨はあがったが、酒や食料が底をついたので、私と伊藤氏と二人で買い出しに谷をくだった。

△丁坂の急坂をくだり、池原で酒や食料品を買って帰ってついで池田川の名産コモンソク岩で、不動滝を見物して、早手前に戻った時、伊藤さんが「小屋が火事や」と叫んだ。見ると、一冬の凍が上がっており、びっくりして駆けつけ、味噌の空き樽に谷川の水を汲んで消火した。四本の柱が火を噴き、枯れ草に燃え広がる寸前で火はおさまった。何十杯もの水をかけたので疲れて二人で腰を下ろして休んでいると、今西先生と御勢さんが、腰の角帯にヤマメをいっぱい釣って上流から帰ってこられた。

「先生大変です。小屋が焼けました」「だが近くにも小屋があったぞ」「コッヘルやシュラフも燃やしちゃった」「そら大変や……」この重大さに気づいてさっさと山したが、途中で日が暮れ、炭焼きの提灯を

最初の一月間で三千万円を売り上げて、その約三分の一を稼いで父母母に差し出したら、びっくりしてうれし涙で感謝してくれた。夜は12時まで近所を回り、昼休みは友人・知人の勤める会社などを回って注文を取った。

三年が過ぎても弟も卒業して就職したので少し暮らしもよくなり、やがて父母も働き、そして妹も働くようになった。

その頃、休日には北山へ出かけたが、その谷でヤマメ釣りをしたので、北山にくわしくなり、「京交山岳会」に入会した。その当時の会長森友次郎氏や副会長の松浦勇次氏とも親しくなった。のち、会長となった阪急電車で勤めていた中井隆氏とも親しくなった。

間もなく窪岡氏一派の独立に伴い私もリッターにされた。北山をはじめ、飛騨の宇津江四十八滝探勝に出かけたり、森本次男先生と丹波の山々を歩いた。やがて「北山クラブ」の金久氏とも親しくなり、英山町・京北町の山や谷筋をかたづけしから歩き回った。また、比良の武家ヶ岳や蓬萊山にも登り、森会長と大峰の山上ヶ岳にいっしょに登った。

その後、京交山岳部の同僚から「京都市山岳部」に誘われて、池原の朝日旅館にやっとなどり着いた。旅館では釣ってきたヤマメを肴にやけ酒を飲んで、皆さんで財布の残りを出し合って逃げて帰った。これが契機となって、私の山手手が始まったのである。

## KOBEの登山専門店

手作りザックの店です。  
心ときめき、背負いやいザックです。



**IMOCK KOBE**

**神戸ザック**

**NEW**  
ウォーキングスナッグタイプ

- ペンチレーションオートパッドにより背中が楽に感じます。
- バックパッカーがワンタッチで取りはずし可能。
- 新素材メッシュを採用、オールシーズン対応。
- 自持りが少ない山行にも最適、長持ちで2年間のアフターサービスです。

カラー ジェットブラック、ジェットブルー、ジェットワイン  
 サイズ M 55L 重量 1.40kg  
 素材 エステルトップストップ  
 価格 ¥12,000

神戸市長田区大塚町9丁目3-1  
 TEL (078) 621-5851  
 FAX (078) 621-3528



近江側から登る鈴鹿の山々

—— 伝説・伝承の紹介 —— (4)

霊仙山にまつわる話

岩野明

おとら池の伝説(霊仙山)

昔、多賀の久遠村に、ある庄屋さんが住んでいました。夫婦仲も良く家業も円満で、そのうえ妻のおとらさんは経世の美人で気品もあり、近郷近在まで親しまれていました。ところが身もって随月になったある日のことです。主人に「私が、お産をするときは、たとえあなたでも絶対に見ないでほしい」とたのみました。

いよいよ出産の日がきました。「見るな」と言われれば見たいのが人情、まして妻のことでもあり、産の部屋の間からぞぞと見ると、寝室のおとらさんは、六畳いっぱい大輪となって子を生んでいるではありませんか。この様子を見て主人は驚き、今まで美しい妻だと思っていたが人間では

なく蛇であったことに驚愕しています。

お産を済ませたおとらさんが申すには、「私は人間世界に居ることができなくなり、いたるときは霊仙山にある七角の池にいますから、この子が七つになるまでお育てください。七歳になったら七角の池まで連れてきてください」と言われて、庄屋の家を立ち去り、途中お産話になった、入谷・今池・落合(この三つの村を「落合三ヶ村」と呼ぶ)へあいまつりに行き、各々の集落へ柿・かんざし・こうがいを御礼として与え、霊仙の七角の池へと立ち去りました。

この時の、柿・かんざし・こうがいは今なお前述の村の内の個人の宝として残っているとのこと。

のお坊さんたちが家に思い、小僧さんに尋ねて調べてみると、この小坊主の真の姿はこの山に住む古狸でした。

古狸が話すには「都見諸仏浄土因」とい



霊仙山より琵琶湖を望む

うところまでくると「唐天」に通じるところからおそろしくなって、「一言もお経を誦むことができずに、恐ろしさにかるえいるところを見つかってしまったということ

です。  
古狸を追治してからは、小僧さんの行方不明になることもなくなり、家業も安心してできるうちになったそうです。

(「米原町むかし話」より)

仏像と仏ごかし(霊仙山)

今はその姿すら見ることができなくなっています。霊仙山には数多くの寺が山頂近くにありました。その中には国宝級のすぐれた仏像を持つ寺もいくつもありました。これだけのお寺があったというところから、当然仏像に関した伝説があります。その第一として「仏ごかし」のお話をしましょう。

昔、琵琶湖で漁を営む漁師が住んでいました。琵琶湖のことですから、春夏秋冬多くの魚がとれました。ところが、ある年の夏のことです。毎晩のように「ウナギ」と叫びます。なにやら怪しげな光が湖面を走るではありませんか。ウナギは闇夜にしかとれません。以後、この光のために

庄屋がこの女の子が七つになったとき、その池のほとりに連れて行き、お坊さんに会いに来ましたと云うと、大蛇姫のおとらさんが姿を現したかと思つくと、その子と一緒で池の中へ姿を消してしまつたということ。

その後、この池を「おとら池」と呼んで崇め、地元久遠村を始め、霊仙三ヶ村と地元の樽ヶ畑は、毎年夏になると、土用見舞いとして「おとら池」へ贈つたものです。

(「多賀町の歴史」より)

小坊さんと古狸

昔、霊仙の「ツライシ」と呼ばれるところにお寺がありました。この寺には多くの僧侶、小坊主が修業してありました。ところが時々小坊主だけ行方不明になりました。僧侶たちがよく探してみると、必ず殺されていたものです。その犯人がどうしてもわかりませんでした。

ある日のことです。全員が集まって修業をしていました。和尚のお経に合わせて、全員でお経を唱えていると、一人の小坊主が必ず経文の二節である「都見諸仏浄土因」というところまでくるとお経をやめてしまうのでした。この様子を見ていたほか

ウナギはとれなくなっていました。

毎夜毎夜そんな日が続き、漁師はその光がどこから出ているのかを確かめたく思い、光をたよりに霊仙までやって来ました。するとどうでしょう、釈迦・阿彌陀・薬師の三体の仏さまが野ざらしになって神々しい光を放っているではありませんか。漁師はこの光が「ウナギ」ととれなくなったのだと思ひ、その三体の仏像を深い谷底へ落としてしまいました。この谷を今でも「仏ごかし谷」といっているようです。

谷底へ落ちた三体の仏像のうち、釈迦如来像は谷底で朽ちたはて、阿彌陀・薬師の二体は谷川を流れ去りました。そのうち阿彌陀如来像は、尾鼻村(現在近江町熊野池)あたりに止まっているのを見つけられ、その地の大林寺に安置されました。その後、この仏像は枯折をへて、常喜(長浜市常喜)の田勝寺へ移され、現在でも存在しています。

また、薬師如来像は胡妻あたりまで流れつきました。この仏像は現在上多良の薬師堂に安置されています。身の丈四尺の立派な仏像で、国の重要文化財に指定されています。

(「米原町むかし話」より)



ミノガ峠から

## 滝谷山

鈴鹿山系の林道で一番標高の高いミノガ峠(約800m)を越える御池林道が開通してから、バイクでこの林道のツーリングを楽しんでいる。近年かなり舗装も進み、冬と春先や大雨のあと以外は、普通車でも何とか越えられるようになった。

この峠の周辺に大見晴・茶野・滝谷山とハイカーにはほとんど知られていない山がある。特に滝谷山に登る人はいないようだ。この山の南の肩を越えている送電線の巡視路をたどると、気難に登れる。山頂はアカ松を残して大きく伐採され、カラマツを植林したばかりで大展望が得られる。君ヶ畑から御池林道を進み、天狗堂の祠を回り込んで北に向かうと、谷も開け明るい林道に変わった。左上に天狗堂が天を突いてそびえていた。左下の御池川に沿って進むと、道路脇にはススキ・ツリフネソウ・

オトコニシ・イタドリ・ヒヨドリバナ等が咲いていた。御池橋の手前で地蔵になり、道の谷幅を渡ると登りになった。小鈴谷橋を渡り登りつめると、舗装されたミノガ峠に着いた。道路脇に車を駐め、北西に広がる湖東平野と琵琶湖の眺望を楽しむ。

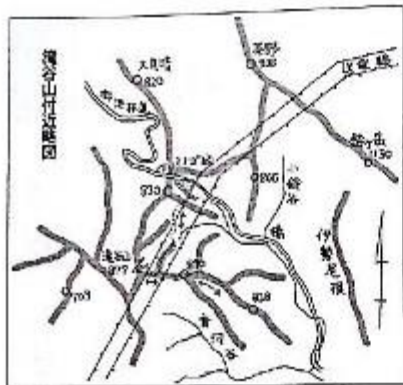
峠から山腹の林道を送電線の鉄塔に向かう。植林したばかりの紐道はカヤ原が広がり、御池谷の先に静ヶ岳・竜ヶ岳の山並みが望めた。林道終点から右上の鉄塔に登り、右折すると、すぐ谷におりる分岐に着いた。左折して整備された巡視路を谷におりる。深い樹林におおわれた谷の右上に、ガレた地肌を見せる滝谷山が望めた。急坂をおりると、深く切れ込んだ渓谷にはツリフネソウやシシウドの花が咲いていた。

谷に沿った巡視路をたどると道が左右に分かれた。左は山腹を登り真上の鉄塔に向

疎林を配した滝谷山が望めた。ゆるい登りとくたけをたどると、南の肩に鉄塔が望めた。左の鉄塔に向かう巡視路を見送り、ゆるくくたけると鉄塔の尾根に着いた。

巡視路は山腹をおりていた。尾根の取り付きで右折して難木を分けながら登る。多少生え込みもあるが、ほぼ切り開かれている。左にもガレ場が現れ、その上を登りつめると滝谷山(△877m)の山頂に着いた。

北西斜面はアカ松を残して伐採しカラマツが植林しており、大きく展望が開けた。大見晴・ススキの草原が広がる茶野・鈴ヶ



岳、主峰御池岳は深い樹林におおわれ、険しい角度で迫り上がっていた。北の端に出ると高草山・湖尻山・雲仙山・伊吹山と続く山並みが市壁と連なっていた。その左には湖東平野と琵琶湖が霞のなかに消えていた。ゆっくり眺望を楽しんで引き返し、巡視路の分岐を右折してピーク870mに向かう。

鉄塔を通り過しても尾根上に古い道があり、薄暗くて深い樹林の右斜面は橋の太木が続いた。全然人が入っていないような山域にしては下草もなく、涼風を受けてどこでも歩ける。たった一人でこのような深い樹林の中をゆっくり散策する気分は格別な味わいがあり、私は大満足だ。何か太古の中に引き戻されているような気がして、独特の印象が残る。

ピーク838mに向かう途中からは里間な植林に変わったので引き返す。谷の分岐で鉄梯子を伝って鉄塔の所へ登っており。なお、小鈴谷橋の下的林道脇に御池岳登山口と記された立派な道標が立っているが、このルートは植林用の地道を伊勢尾根に回り込んで登るもので、かなり荒れ草が生え込んでいる。目印もなく整備された登山道

巡視路より滝谷山を望む



かっていた。右折すると、夏草が茂る不明瞭な道に変わった。谷に沿って左にゆるく回り込むと、左の急斜面に鉄梯子が現れ、鉄塔からおりてくる巡視路が合流した。源流に近い急峻な谷には、サワグルミの高木が大きく茂っていた。右折して細根根の急斜面を登るとシヤクナゲが続き、深い樹林を抜けること鉄塔の下に着いた。

そこからはゆるい登りになり、右斜面は楡の植林で、その先のカレの上にアカ松の

ではないので、注意が必要である。

(平成8年9月8日歩く)

### ☆コースタイム☆

ミノガ峠(5分) 林道終点(15分) 巡視路分岐(25分) 滝谷山南肩(15分) 滝谷山(15分) 尾根分岐(40分) ピーク870m往復(40分) ミノガ峠

### △地形図△

2万5千II換立

聖文社「14巻仙・伊吹・藤原」

(岩野 明)

登山に必要なものは、  
国産・柏太  
すべて揃っています。  
足にピッタリ/  
登山靴のことならお任せ下さい。  
(定休・火曜日)  
〒604 京都市中京区丸太町通堀川東入  
☎ (075) 211-5768  
℡ (075) 231-0318  
山とスキーの専門店  
**京都 ムラカミ**



ツツロ坂峠から

## 横根連峰を歩く

横根連峰から南西に派生する横根連峰は東から横根・西横根・横根最髙峰と続き、ツツロ坂峠からふたたび高度を上げザラノ・高草山の山塊へと続いている。

大君ヶ畑の奥からツツロ坂峠に向かう横根谷林道は舗装もあり、普通車でもこの峠を越え、オーバーハング状に岩壁が屹立する権現谷溪谷を歩くと、河内線へと進むことができる。この林道から望む横根最髙峰は、植林と自然に松を配し天を笑う感じでもびえている。その姿を見て登りたくなった。連峰の稜線を歩いてみると、アカ松やシヤクナゲのすばらしい岩壁が続き、ブナを主とした深い樹林もあり、随所で大きく眺望も開けた。

306号線を進み、大君ヶ畑を過ぎて橋を渡ると、左に切れ込む前谷に沿って、権現谷林道が北にのびている。左折して林道

を登り、横根の山腹を西に回り込むとツツロ坂峠に着き車を駐めた。

峠越えの古い道を探したが、杉林とやぶにおおわれ完全に消えていた。右の道路脇の木に、以前付けた赤テープの印があった。樹林を巻くと右斜面は下刈りがしてあり、尾根には粗道が続いた。雑木林に変わると踏み分けと赤い杭が続いた。いったんくたつて登り返すと尾根が分かれ、右折してくだりにかかると、雑木の中にシヤクナゲが続いた。次のピークで道が分かれ、右におりると、左斜面は杉・榎林に変わり切り開きが続いた。右に大きく回り込むとアカ松と植林の横根最髙峰がそびえていた。道は次第にやせた岩壁に変わり、松と灌木の尾根からは大きく眺望が開けた。

左には湖尻山が大きく盛り上がり、右に

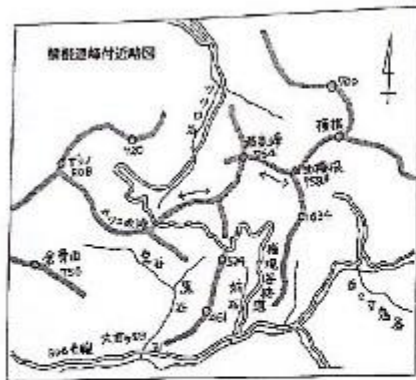
右に眺望が開けた。

左には植林の緑濃いザラノ、奥に湖尻山がそびえ、深く落ち込んだ権現谷、黒崎尾根、コザトの山並み、奥に高草山が空母のように掌々と横たわっていた。尾根も広くなり、ピークを二つ越え、深い樹林に変わり、西横根(△759.9)の山頂に着いたが眺望はない。

三つ尾を確認して、左に回り込んでくると植林に変わった。左斜面は植林の下刈りが終わり、踏み分けが続いた。植林帯が終わり雑木を分けて登ると、ブナを主とした高木が茂る広い尾根に変わった。左斜面は雑木のやぶが続いた。高木の中をゆるく登ると、横根の山頂に着いたが、雑木に囲まれ眺望は良くない。

右手に槍が一本茂っていて、その下に出ると大きく眺望が開けた。切株に腰を下ろし、眺望を楽しみながら昼食。左奥に鳥帽子岳、その手前には横根尾根から双耳峠の三國岳、横根尾根から鈴ヶ岳・鈴ヶ岳・本野と続く雄大なスカイラインが展開していた。引き返して権現谷にくらり、紅葉が始まった溪谷を楽しみ、堂仙山白石谷の河合不動明王の名木をポイントに汲んで帰る。

(平成8年10月16日歩く)



国道306号線より横根連峰を望む



は鈴ヶ岳・鈴ヶ岳・木野・大見嶺へと雄大な稜線が連なっていた。さらに進むと次第に急斜面に変わり、露岩の尾根にはすばらしいアカ松の疎林と灌木が続いた。灌木をつかんで登りつめると道が分かれ、左折してひと登りすると、横根最髙峰(764)の山頂に着いた。南西が切り開かれ眺望が開けた。

右にはツツロ坂峠へと続く尾根の先に、高草山が草原の頂きを見せ、ザラノの山塊

△コースタイム▽

ツツロ坂峠(1時間10分) 横根最髙峰(35分) 西横根(35分) 横根(2時間) ツツロ坂峠

△地形図▽

2万5千11高宮・鎌立

昭文社「144室油・伊吹・藤原」

(笠野明)

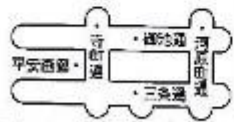
## 松田敏男 山の版画展

1997/7/22(水)~8/3(日) 12:00AM~8:00PM  
[7/28(日) 休廊]

新ハイキング圖四版改訂版、版画を創刊号より担当(1991~) 南アルプス登山小冊常設展示(1993~) 山の版画 雑誌「彩霞山影」刊行(1993) 京都市立京都市立芸術大学工学部 京都市立京都市立芸術大学 京都市立京都市立芸術大学 京都市立京都市立芸術大学

平安画廊

京都市中京区寺町通三条上ル  
TEL. (075) 231-0894





鳴川谷林道から

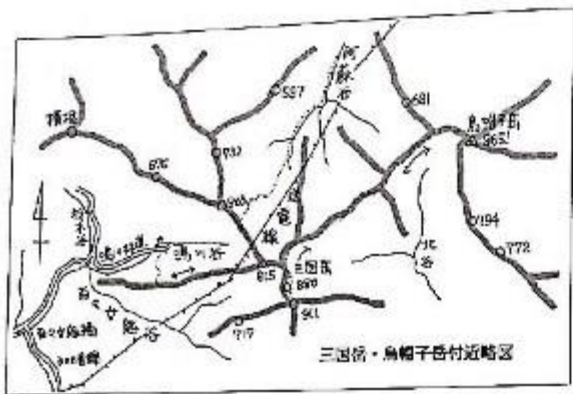
# 三国岳・烏帽子岳

近江・伊勢・美濃の三國に接する三國岳から北東に派生する稜線上に烏帽子岳がそびえているが、近江側からは遠い山に思われていた。しかし近年、この稜線はかなり歩かれていて踏み跡と印が続く。

そのうえ、鈴鹿の自然林が色濃く残っていて、四季を通じて深い味わいを見せ、随所ですばらしい展望が開ける。

鳴川谷林道終点から送電線の巡視路を稜線根に登り、三國岳から烏帽子岳へ往復するコースは、高度差約1500mのアップダウンはあるが、急登ややぶもなくわりと気軽に歩けるルートだ。

308号線を進み、百々女鬼橋の手前で左折して、地道の林道を谷に沿って進むと道が分かれた。右折して鳴川谷林道を進むと左の草薙が茂るなかに、朽ちかけた小屋が現れ、林道の終点に着く。車を駐める。



三國岳・烏帽子岳村近略図

望は良くない。二人の登山者に会い、烏帽子岳へのルートを訊くが、道は無いと言われた。現在発行されている新しい昭文社のエアリアマップには赤の実線があり、2時間と記されているのだがと話をした。

高帽子岳へと伸びる樹林におおわれた尾根が眼前に展開した。烏帽子岳を思わせる鋭峰と思っていたが、全く違う姿で烏帽子岳は左右にのびのびとした裾野を引いていた。真下のオン谷は深く落ち込み、谷底まで深い樹海におおわれていた。左には名峰雲仙山から谷山・ソノドと続く長大な稜線が圧倒的なボリュームでのびていた。

左から回り込んでおけると尾根ののったテーパーと紐の印が続き、右に回り込むと疎林の広い台地になり、窪地に大きなヌクムシが現れた。雨期には大きな池になるような感じだった。ササが現れ、くだりにかかるとササやぶに道が消え、目印も消えた。やぶの中にブナの太木があった。その木に登って尾根を確認する。間違いはないがササやぶが狭っていた。木からおりる時、左斜面の木に青紐の印を見つけた。左におりると道は尾根の左斜面に続いた。尾根がやせて岩が現れると、シャクナゲの多い尾根に変わり、ゆるい登りくだりをたどると左斜面にブナの巨木が二本あった。高度が下がるにつれ樹相も変化し常緑樹が混じりだした。落ち着いた雑木の尾根には古いテープと紐の印が続いた。

高帽子岳へと伸びる樹林におおわれた尾根が眼前に展開した。烏帽子岳を思わせる鋭峰と思っていたが、全く違う姿で烏帽子岳は左右にのびのびとした裾野を引いていた。真下のオン谷は深く落ち込み、谷底まで深い樹海におおわれていた。左には名峰雲仙山から谷山・ソノドと続く長大な稜線が圧倒的なボリュームでのびていた。

南西には鈴北岳・鈴ヶ岳・茶野と続く雄大な稜線、北には高嶺山との間に雲仙山が青いスカイラインを見せていた。尾根道をた

開かれて削られ、送電線鉄塔の建設が始まっていった。大型クレーンが尾根を突き、トラロープが張りめぐらしてあった。その中を行くと、烏帽子岳の北西の山腹に鉄塔建設の切り開きが続いていた。左に展望が開けた。登りにかかる急峻な尾根上に巡視路が続き、ロープも張ってあった。岩根に登ると大パノラマが展開した。



三國岳より烏帽子岳を望む

尾根の右斜面に下刈りされた樹林が続き、急坂を登るにつれ北東に展望が開けた。雑木に変わると烏帽子岳への分岐に着いたが、まずは直進して登りつめ、三國岳(880m)の山頂に着いた。

雑木に囲まれ、一部切り開きはあるが風



## 山と高原地図シリーズ

定価 各元0円(税込)

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1 北アルプス総図     | 34 新島山        |
| 2 白馬岳         | 35 越前・出羽三山    |
| 3 北岳峰・黒部湖     | 36 奥山         |
| 4 駒立山         | 37 奥玉(奥山)総図   |
| 5 上高地・穂・穂高    | 38 奥羽・早池輪     |
| 6 奥秩父岳        | 39 八幡平と妙高山総図  |
| 7 西蔵山         | 40 十和田湖(湖沼)総図 |
| 8 中央・南アルプス総図  | 41 ニセコ・羊蹄山    |
| 9 不肖岳・空木岳     | 42 入雲山・十勝岳    |
| 10 甲斐駒・北岳     | 43 白川         |
| 11 奥羽・赤石・磐岳   | 44 奥羽・伊吹・磐岳   |
| 12 妙高・戸隠      | 45 四万葉・磯ヶ岳    |
| 13 志賀高原・草津    | 46 比叟山系       |
| 14 越前川・浅間     | 47 京極北山1      |
| 15 西上州・妙高     | 48 京極北山2      |
| 16 美ヶ原・霧ヶ峰    | 49 京極西山       |
| 17 八ヶ岳・翠科     | 50 北岳の山々      |
| 18 富士・富士五湖    | 51 六甲・奥羽・石馬   |
| 19 箱根         | 52 奥羽高原(二上山)  |
| 20 伊豆         | 53 赤松山・岩手山    |
| 21 丹波         | 54 紀伊高原(紀伊半島) |
| 22 高尾・陣馬      | 55 奥羽野(奥羽野)   |
| 23 大室・御嶽      | 56 大峰山系       |
| 24 御茶屋        | 57 大分県・大分県・奥山 |
| 25 奥武蔵・秩父     | 58 赤石・奥羽野     |
| 26 奥秩父1(奥山)総図 | 59 赤石山系(奥山)   |
| 27 奥秩父2(奥山)総図 | 60 大山・奥山系     |
| 28 谷川岳(奥山)総図  | 61 赤松山系       |
| 29 越後三山(奥山)総図 | 62 石川山系       |
| 30 尾瀬         | 63 奥羽の山々      |
| 31 日光(奥山)総図   | 64 九郎・阿蘇      |
| 32 那須・塩原      | 65 奥山系        |
| 33 磐梯・湯沢・安達太良 | 66 奥山系        |

●昭文社の「山と高原地図」は年更新として毎年再版発行されます。ご山行の際はなるべく最新版をご使用ください。お申し込みいたします。  
●昭文社の「山と高原地図」へのご質問・ご意見がございましたら、本社編集部の「山と高原地図」担当までお気軽にお電話ください。また新情報等をお伝えいただければ幸いです。

## 昭文社 株式会社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(3252)2141(代) 〒102  
支社 大阪市東区西平野6-11-23 電話06(303)5721(代) 〒532  
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川  
名古屋・金沢・京都・広島・福岡



烏帽子岳尾根より三逞岳を望む

と、△815mのピークに新いた。展望も良く、東には双耳峰の三逞岳が大きくそびえていた。引き返しておる。

(平成5年9月17日歩く)

昭文社「山と高原地図」

(岩野 明)



31

## エリア別 徹底研究

### 近江側から登る鈴鹿の山々 ⑥3

#### 白谷林道から

## 霊仙山・岩ノ峰

夏の終わりにバイクでツーリングを楽しむながら、白谷林道から行者谷の白谷林道を西南尾根の山頂まで登り、南にのびる尾根をコサトに登った。

鮮木の尾根を過ぎると、西斜面は伐採されたばかりで雑草が繁茂した。北方には朝の長い長大な西南尾根が展開した。コサトの山頂は深い樹林におおわれていたが、夏の花でピンクのめずらしい花が咲き残っていた。花の名を紹介できないのが残念だ。

引き返して霊仙山へと続く尾根をたどる



石柱

と、古い道と切り開きが山頂の東尾根まで続き、尾根の先端に花園岩の左柱が立っていた。四角の石面に文字が刻んであるが、半分近くは消えていた。その中で「ハ霊仙山」「告」「岩ノ峰」「告」が読めた。最高峰は目の前に見える峰だが、ほとんど知られていないようだ。

霊仙山は山岳信仰の聖地で、古くからの歴史が眠っている名峰だ。昔は山伏姿の行者たちが権現谷から登り、牽懸けのコースとして歩いた。霊仙山へ登る最短のすばらしいルートだった。

10月末に上丹生の浄水場の横から、同外野ヶ峰に登った帰りに、浄水場にお勤めの山田芳治氏に出会い、霊仙山の興味深い歴史等をいろいろ聞かせてもらった。

岩の峰の石柱に関しては、次のようである。昔は佐和山城主・石田三成が設定した境界線が守られていたが、明治新政府に変わるべく、岐阜県上石津町と滋賀県甲斐郡境争いが起こり裁判沙汰になった。明治四十

#### 岩ノ峰の岩場







奥の橋現



三年の判決の際に、去た境界線に石柱を建てた。その時の石柱とこのことである。この石柱は高さが約一丈あるため、炭焼き窯の入り口の上に置かずには置けなかった。ほとんどの石柱が炭焼き窯に使われ、いつの間にか消えてしまったと聞いた。

中島仙男氏著「鈴鹿雲仙山の伝説と歴史」に、山田方治氏のこと詳しく記されている。氏は雲仙山の「生き字引」のような方である。

河内原の安原で右折して橋現谷林道を進むと、右に口ノ橋現の大杉が五、六本大きく茂り、根元に朽ちかけた木の鳥居があった。兩岸に切り立った岩壁が迫ると、左岸に河合不動明王の岩が現れ、岩清水がとうとうと湧き出ていた。

この河合不動明王について安原の人に聞くと、そんな不動明王はない、最近だれかが勝手に河合不動明王と書いた板を取り付け、悪戯入れまで置いているのだ、と言われた。

橋を渡り右に回り込むと右岸に杉の大木が一本あり、その手前の右岸に奥ノ橋現の木の鳥居が現れた。石版を河原において鳥居の前に立つと、左右に花が供えてあり、岩壁の裂け目の奥に洞窟が望めた。狭くて急な斜面にワイヤロープが垂れ下がり、その上にアルミの壺子が取り付けてある。ロープを頼りに約百メートルに梯子を登ると、暗い洞窟の岩棚に石室があり、役行者の石像がまつられていた。その横には不動明王の石像もあった。参拝して林道を進む。谷が開けると、右に持ち地蔵の大杉が二本現れ、根元に石仏が並び花が供えてあった。

昔、この石仏を持ち帰った人がいた。間もなく、その人の集落は全焼してしまつた。石仏のたたりだと恐れられ、もとの場所に戻されたというのだ。

左折して白谷林道を約7分進む、登り上がった尾根の広場に車を駐めた。

尾根の取り付きには前回付けた赤テープの印があった。雑木の斜面を登ると、尾根には古い切り開きと白テープの印が続いた。

次第に古い道がはっきり判るようになり、くだりにかかると、正面に樹間から色づき始めた西南尾根の急斜面が、屏風のように立ち上っていた。鞍部にくたると、左に向かつて古い道がおりていた。尾根には繰り返された古い道が折り返し続いた。

次第に急斜面に変わり尾根が消えると道も消えたが、樹林の中をストレートに切り開きが続く。赤い古いテープも続いた。切り開きはけもの道に変わり蹄跡の跡をたどると、あたりにはけもの臭いが漂っていた。岩が現れ苔むした石灰岩の急斜面になった。雑木から雑木に変わると、後方に展望が開けた。真上にあるマユミの木に向かつて右段のような岩場を登ると、雑木とカヤトの尾根が現れ、左にとると右柱の立つ岩ノ峰に着いた。そして大バノラマが展開した。

正面には雲仙山の最高峰、右にはのびやかに広がるササの稜線に蜂塚山、その右に赤い遊舎小屋がぼつんと建ち、山腹は紅葉が始まっていた。その先に伊吹山と湖北の湖の山並み、南には鳥飼子岳・ソノド・三國岳・横根・御池岳、そして近江側に続く山並みが重畳と連なっていた。真下のコザトへと続く尾根には、白谷林道が地肌を見せていた。

眺望をゆっくり楽しんでから尾根をたどると、右は雑木の一段高くなった尾根と左は雑木と白い石灰岩の岩場が続いた。岩の上には古い踏み分けが残っていた。ササが現れ、左端のカヤトをゆるく登り、低いササを分ける西南尾根への登山道に出た。右折してササのトンネルを抜け、最高峰(1098m)の山頂に着いた。ゆっくり眺望を楽しむ。

林道の取り付きから約一時間で山頂に着いた。一般ルートだとこの時間ではまだ半分も登っていないだろう。一般ルート上はササにおおわれ登山道以外は歩けないが、雲仙山三角点と南岳岳の間の広い谷と西南尾根は、草原と雑木が大きく広がり、ササ原や樹林もあるが、この山腹はほぼ自由に歩ける。谷には草が五、六頭程生えているので、ササ原にも登山道と変わらぬような鹿道が通じている。そしてこの山腹には四季を通じていろいろな花が咲き乱れ、お花畑が広がっている。

この新ルートから登ると、開放感あふれる山景をのんびり欣赏できる。

(平成8年10月2日歩く)

△コースタイム▽  
白谷林道(50分) 岩ノ峰(10分) 最高峰(50分) 白谷林道  
△地形図▽  
2万5千：雲仙山・彦根東部  
昭文社「利雲仙山・伊吹・藤原」  
(岩野 明)

△山の木紹介△  
『幻の池を求めて 風物語』  
一 鈴鹿・御池屋やぶ(2) 増補改訂版  
増補改訂版  
・近藤郁太郎  
・白費出版  
・価額1000円

本書は1994年2月初版「風物語」の増補改訂版です。御池屋の池探しをしながら歩き回った旅行記録で興味はつきない。  
シリーズ第一巻「風物語」(1500円)・第二巻「風物語II」(1500円)も在庫あります。  
△問い合わせ先▽  
〒456 名古屋市長田区三木町22の3の102 近藤郁夫まで



# 中将姫伝説の 日張山から沢城跡

- コースタイム 近鉄橋原駅(バス30分)・新田野町(バス30分)・宇野神社(バス10分)
- ① 宇野神社(宇野町) ② 宇野神社(宇野町) ③ 宇野神社(宇野町)
- ④ 宇野神社(宇野町) ⑤ 宇野神社(宇野町) ⑥ 宇野神社(宇野町)
- ⑦ 宇野神社(宇野町) ⑧ 宇野神社(宇野町) ⑨ 宇野神社(宇野町)
- ⑩ 宇野神社(宇野町) ⑪ 宇野神社(宇野町) ⑫ 宇野神社(宇野町)

## 中村敏文

① 宇野神社(宇野町) 近鉄橋原駅発時過ぎのバスは荒田野町終点で乗り換え松葉神社前で下車する。佐倉川を渡り西へ参道を700mほど行くと、木花咲耶姫をまつる式内の旧村社に比定される松葉神社に着く。

新築された社殿の右側に「うさとう八木の幹を養生させる八房の杉がある。高さ十数尺、日廻り周囲八尺の巨木で国の天然記念物に指定されている。」

この社地は神武天皇が熊野より八咫尾に先導されて到着した穿鼻で、「荒田の高城に鳴らわねる」の歌の伝承地である。本殿すぐ右側に生駒天皇とも称す八坂神社、その右側には十一社神社・市時島神社と謎の形に曲がって愛宕・秋葉社の境内社がある。

② 宇野神社(宇野町) 松葉神社バス停へ引き返し東側の朽木の巨木を上がってかからくと、30分程でエナダ川と宇野川が合流する血原橋に到る。

神武天皇が兄宇野(弟)を誅伐したといふ伝承地で、弟宇野(弟)を誅伐した宇野神の御魂をまつる宇野神社がある。

享保二十年(1735)再修の棟札が残っているが黒屋根の土壇が旧本殿跡で、土壇前の石造手水鉢や小神像をおさめた石造神向は古いものである。別当坊の西蓮寺は寺跡も消え、現在の小規模な社は昭和年代に逐次建立されたものである。

この社の東側山麓の眞証寺は、役の行者ゆかりで、持統天皇が創始したという古寺だが、鎌倉時代に常陸國主高氏(後の

会館)の愛宕で合仏の遺徳となり、江戸後期から浄土真宗西本願寺派の末寺となり高沢住職が寺を整頓している。

本堂左側には樹高二十尺の雄イチョウと天然記念物のシブナシガヤの巨木がある。



③ 日張山青蓮寺(宇野町) 宇野神社前から駕籠へ乗る百道と別れ、左へ川沿いの里道を200m余り行くと、日張山山麓で東道は終わり、日張山の参道を上る。10分足らずで日張山南中腹にある浄土宗尼寺の青蓮寺へ着く。

春の桜が始まりツツジ、夏のアジサイから秋の紅葉、いつ来ても中将姫隠居の伝説にふさわしい閑静な山寺で、入り口にある三尺高の仏足石は「千劫の間つみしるすも解かず阿弥陀仏のあつき慈悲」を示す。

古風な四柱造の茅葺きの本堂は、天明時代に焼失し、以後の弘化四年(1847)の再々建て、中将姫19歳の姿を模倣した本尊。法如(中将姫の法名)坐像をまつり、中

納経願多基の描いた中将姫画像を納める。その他に俗体の松茸産藤太夫妻像と大黒屋寄進の夫妻像がある。

本堂左の木尊阿弥陀如来をまつる阿弥陀堂は正年間(1770)の再建で、少し離れた鐘樓の宝曆八年(1768)銘の鐘には、定印の阿弥陀像の浮彫りがある。鐘樓近くにある石塔群の片隅に、中将姫を養育した松茸産藤太夫妻の供養碑もある。

奈良朝の昔、右大臣藤原豊成の娘の中将



④ 日張山雑走(日張山から後谷) 青蓮寺から595mの日張山山頂を踏んで八坂神社まで細い山道が約4km、寺跡地の横から山道に入り、雑木林を抜けると尾根に出る。後谷への分岐を右へとりやさきつ板道を上がりきると、木立ちのなかに三基点の標石があるが、見晴らしはきかない。

頂上から東へ鳥帽子岳への道があるが、分岐点へ戻り後谷へくだることにする。見晴らしのよい休憩地もなく寺から八坂神社へは1時間余り。

⑤ 八坂神社から松井(宇野町) 宇野川東岸に鎮座する八坂神社は素戔嗚尊を祭神とする旧村社で、近世には牛頭三三社と称した。現在は春日造りの本殿と、寛文十年(1670)銘の石灯籠と正応四年(1291)銘の五輪塔転用の手水鉢がある。

八坂神社から川角の田んぼの中の里道を100mも行くと芳野川で、豊後荒田野・御杖原に入り、松井の東西街道を少く、高台の天神社への参道は百数十段の石段が続く。

当社は天つ神の天御中主命をまつり、天御中主神社ともいう旧村社で、春日造り一間社の本殿と搦山様式の小さい木造狛犬がある。

荒田野町役場が見えてくると車代主・姪子大神をまつる松井坐敷須神社がある。西殿庄の市場の守護神として崇拝されたが廃絶し、明治になって地元有志が復興し、毎年2月7日の例祭には近隣から参詣者でにぎわいを見せる。

町並みは古市場へ続き、荒田野郵便局を過ぎると旧松井に昇格した水分神社がある。

⑥ 宇太水分神社(宇野町) 芳野川北東岸に沿う古市場のほぼ中央のうっそうとした神社森に鎮座し、天水分・四水分・遠坂津比古神の水分三座をまつる。崇神天皇時代の創建といわれ、延喜式大社の部介・葛木・吉野・宇太の四水分神社の一つに比定されている。

国指定の春日造り一間社・障木入りの檜皮葺き春日造りの水分神をまつる同形の



97北アルプス山岳スキー協会: Shengri-La Tour

▲日本百名山 3食付  
 J1~8 白馬岳アルプス登山【2日間】 ¥29,800-  
 ①7/26 ②8/2 ③8/8 ④8/10 ⑤8/16  
 ⑥8/30 ⑦9/6 ⑧9/20  
 (1)白馬駅前/北アルプス総合案内所 7:00集合・出発=鎌倉・白馬小屋・大雪渓・お花畑・白馬岳頂上/白馬山荘【泊】(2)白馬岳▲2932m・三ツ境・小蓮華山・大地山荘・乗鞍岳・天狗原・穂倉谷自然園+++穂倉谷+++穂倉高原-白馬駅前 16:00頃解散

▲日本百名山 5食付  
 H1~6 白馬三山(白馬岳・杓子岳・穂ヶ岳)縦走 ¥37,800-  
 ①7/19 ②7/26 ③8/3 ④8/15 ⑤8/22 ⑥9/13  
 (1)白馬駅前/北アルプス総合案内所 6:30集合・出発=鎌倉・白馬小屋・大雪渓・お花畑・白馬岳▲2932m往復・白馬山荘【泊】(2)杓子岳(登頂)・穂ヶ岳・大出原(お花畑)・穂倉谷小屋【泊】(3)穂倉谷・双子岩・鎌倉-白馬駅前 13:00頃解散

▲日本百名山 0食付  
 G1~6 唐松岳 & 五竜岳【3日間】 ¥37,800-  
 ①7/19 ②7/26 ③8/2 ④8/9 ⑤8/22 ⑥9/13  
 (1)白馬駅前/北アルプス総合案内所 6:30集合・出発=とおみ駅+++アルプス平駅・地蔵の淵・大遠見山・白馬・五竜山荘【泊】(2)五竜岳▲2814m往復・大黒岳・唐松岳往復・唐松山荘【前】(3)唐松山荘・丸山・八方池・黒菱平+++栗平+++八方駅-五竜とおみ(エスカラプラザにて入浴、昼食) =白馬駅前 14:30頃解散

H18 今井 通子さんと歩く白馬岳トレッキング ¥29,800- 4食付  
 9/6(土)~7(日) 白馬駅前/北アルプス総合案内所 6:00集合

H14白馬岳▲~雪倉岳~朝日岳777-対岸 8/9~12 ¥42,800 白馬山荘特設利用  
 H23南嶺山▲・風吹大池~蓮華温泉 10/10~12 ¥41,800- 8食付  
 H30 上高地~清沢~奥穂高岳▲3日間 7/19~14 回出発 ¥33,900- 4食付  
 H32 上高地~穂沢~穂ヶ岳▲4日間 7/18~13 回出発 ¥45,900- 6食付  
 H39 燕岳~常念岳▲~穂ヶ岳 4日間 7/19~11 回出発 ¥46,900- 6食付

■大阪・京都・名古屋~白馬・上高地の交通機関のご案内:  
 ◇急行ちくま/大阪 21:03 >>> 京都 21:37 >>> 名古屋 23:55 >>> 松本 4:01  
 ◇急行くるよん/大阪 21:42 >>> 京都 22:12 >>> 名古屋 0:58 >>> 白馬 6:00  
 ◇特急しなの22/白馬 14:40 >>> 名古屋 18:05 <<< 新幹線 >>> 京都・大阪  
 ◇直泊バス: Highland Express 片道 ¥8,000- 料金UP出発日あり  
 21:45 → 22:45 → 4:50 → 5:50 → 6:40 → 7:10

大阪 - 京都 - 徳高 - 扇沢 - 白馬 - 穂倉高原  
 20:30 → 19:00 → 12:40 → 11:50 → 11:20  
 21:30 → 22:30 → 4:50 → 5:00 → 5:55 → 6:00

大阪 - 京都 - 新島ヶ - 徳本峠入口 - 大正池 - 上高地  
 20:30 → 19:00 → 14:00 → 13:00  
 ※資料請求の方は、ハガキ又はFAXにて 宛、住所、氏名、年齢、生年月日、性別、男女  
 「新ハイキング関西版3号」とご記入下さい。97総合パンフ【無料】をお送り致します  
 長野県白馬市白馬駅前 026-832-1460

御白馬前グループ / 北アルプス総合案内所 担当: 岡本  
 〒100 東京都千代田区有楽町1-10-1 有楽町ビルB-1  
 ☎03(3214)6095 Fax03(3201)0626

三殿が並び、第一殿から元禄二年(1692)に始まる。第一殿の棟木が発見され、鎌倉時代末期に建てられたと推定された。  
 本殿右側の末社・天児屋姫命をまつる春日神社は室町中期、市村島比売命をまつる宗像神社は室町末期の建立で古文である。  
 本社(殿)の中央と春日神社の各側方に神門を建て、これを通じて鳥居の三重を巡らして、本殿前庭の前方に三間四方平屋建ての拝殿がある。玉垣内に「水分大明神立前寛文式天十百」と1662年銘の石灯籠がある。当社境内には二十数基の石灯籠が立っている。その中には伊和・文化・天保・寛永など江戸時代の年号銘もあるが、明治以降の建立が多い。  
 祭礼は室町時代から宇陀郡の在地武士・寺・惣村からの支援を受け、江戸時代には近隣二十ヶ村が10月20日の例祭を支えた。現在は芳野の惣社水分神社と下井足の子太水分神社(はとも)一体とされている。

⑦ 古市(おしろ) 城坐志比須神社(水分神社境内) 当社は室町時代に二・八日に明市が開かれていた春日社に因る西殿庄の市場の守護神で、織田氏による松山藩が成立すると松山城下へ移され、西殿庄の二・八日市が立っていた地域は古市場と呼ばれるようになった。  
 大正時代に地元有志によって西宮神社から分霊を勧請、志比須神社を復興した。  
 ⑧ 沢城跡(徳原沢・城山) 水分神社から芳野川右岸沿いに別所へ、坪の内まで井川を越える。芳野野町と別れ、徳原沢の城山の山麓に点在する沢城跡へ入り、山頂の高所に点在する大良の集落へと上がる。氏神の六柱神社で小休止する。沢城跡へは伊那佐山と支那山間の大良の谷筋を登る。伊那佐山との分岐では谷川の右側の山道を上れば尾根道と交差する峠に出る。北へ行けば米山城跡を経て伊那佐山山頂へ、東へ下れば八滝の集落で、西への三回路は沢の集落へ通じる。南西への山道はウマヤ谷を経て出丸跡の下を通り、城山の沢城本丸跡・二の丸跡へ通じる。沢城は南北朝時代に伊勢北畠氏城官の在野武士・奥平守國氏の派氏が築城し、芳野・秋山氏と宇陀郡を二分していた。沢城は本丸から米山城北の空堀(土塀)の位置まで660m、東西の幅が200mほどと本格的な山城で、今は通れないが出土品から沢氏の居館まで通じていた。

⑨ 文福庵(徳原沢出土地(八津・米山)) 沢城跡から交差の分岐点まで戻り、東へやや広くなった山道を15分ほどとくと、壬申の乱で大海人皇子を助けた持統の皇孫出土地に着く。大きな記念碑は東京博物館に国宝として保存されるほどの墓誌が貴重であることを物語る。  
 墓誌には「壬申年持統天皇十府賢正四位上之御孫出守 慶安四年(七〇七)歳次丁未九月二日卒」と刻刻されていた。  
 出土地から15分ほどとくと八滝の源泉寺へ着く。墓誌は天保二年(1831)に大隈常行(徳門基跡が発見)、代官所命で源泉寺境内に埋められた。明治十年に再発掘し、明治十三年に徳原沢を源泉寺の現在の文福泉の位置に掘ったという。  
 源泉寺から八滝バス停で17時間のバスに乗ると徳原沢へ20分まで到着する。



# 五番関から大天井ヶ岳

松永恵一

## 女人禁制

修験道の根本道場・山上ヶ岳は現在も女性の登山を禁じている。ただひとつの山である。

大和の金峰山は女人禁制の登山として中国にまで知られていた。中国五代の最後の王朝である後周の義健が975年に編集した『義地六帖』巻二十一「日本国」の条に、「日本国都城の南百余里、金峯山あり。頂上に金剛藏王菩薩有り。第一の靈巖なり。山に杉、檜、名花、軟草有り。大小の寺數百、僧行高き道者之に居る。會て女人上るを得たること有らざる。今に至りても男上らんと欲すれば、三月酒肉欲断を断つ。求むる所皆遂くと云ふ」と記されている。この金峯山は山上ヶ岳を指している。

## 曾良の山上ヶ岳参詣

大峰やよしのの奥の花の果 曾良  
元禄二年(1686)、芭蕉の「奥の細道」の旅に同行し、「曾良随行日記」を撰じた曾良は、同四年の夏に山上ヶ岳に登拝し大洞弁財天社に詣りた。

3月28日、曾良は奈良に滞在していた芭蕉を訪ね、4月初日に吉野山で花見をした。一週間ほど下市町庄橋に滞在していた。7月4日、再び花見を訪れ、森七宅に泊まり、翌5日、黒滝村を通って山上ヶ岳に登拝し南坊に宿泊した。6日、山上での行場を巡ってから山をおりた。

吉野百丁茶屋は清茶茶屋の悪い言いである。山上ヶ岳から吉野への道は古来からの本道であった。「西の報告」「お船石」「補遺」「袖しばし」の巻行場を通り、両側に大峰十連の「陀羅尼防」の売店が並ぶ「陀羅尼防茶屋」から清川と吉野との分岐にあたる徳正茶屋に到る。吉野へは今宿跡、五番関、百丁茶屋、新茶屋、五十丁茶屋、貴船峠、金峰神社とある。清川へのバスが通じてからは次第にほとんど歩いて、歩く人もめっきり減った。古来より大峰へのルート上の茶屋の名刺を曾良がどうして間違えたのか、疑問に残る。

古峯、大峰、聖山、華登山、白山、立山、富士などの修験道の霊山はもとより、比叡山・高野山なども女性が入ることを禁じていた。女性の入山を禁じたのは、聖域を血の汚れから守ること、苦行、荒行に励む行者たちの女性への傾倒を断つためだといわれる。それは決して女性進退に結びつくものではなく、女性の神秘的な霊力を崇敬、畏怖するためであったとも考えられている。

戦後の民主主義の世の到来とともに、各地の霊山が女性に開放されたが、洞川の人々は女人禁制の伝統を守った。昭和二十一年7月、進駐軍の許可を得たと称して、アメリカ人女性を含む一行が東麓の柏木から登山を試みた事件があった。洞川区長らが総出で説得して事なきを得た。

洞川から坪内の天河弁財天社に参詣し、再び河合に戻って広橋の森七宅へ帰っている。

地図で曾良の足跡をたどってみてほしい。昔の人はずいぶんよく歩いたと感心する。

五巨天晴ル、辰ノ下刻立ツ、栗飯谷、河分、寺戸ノ三村ヲ遊テ洞川ニ至ル、広瀬ヨリ二重平、峠ヨリ雨ニ逢フ、如ク白雨ニシテ不晴ル、川ニ出ル、蕨ニシテ中ノ中刻山上ニ到ル、先ツ本堂ヲ見ル、雨止ム、洞川ヨリ式部平ト云トモ近ク、原ハ八丁山ハ十丁ト云フ、吉野ヨリ五丁、甚ク難所ナリ、世ノ宿ハ東南ノ方五十丁谷ナリ、ソレヨリ六丁ニ宿有リ、坊式ツ有リ、ササニハ井坊有リ、岡坊ニ宿ル、

六巨雨止ム、辰ノ中刻坊ヲ出ル、後行道ヲス、色々ノ難所有リ、本堂ノ前へ出ル、龍ノ窟場へ出ル、西ノソク、力士岩等へ登リテ下向ス、吉野百丁茶屋有リ、洞川ヨリ小南ス、天ノ洞財入へ行ク、坪内村ト云フ、洞川ヨリ志リ(河合大門)十八丁、坪ノ内社家ニ坊有リ、琵琶山白取寺ト云フ、大門ヘモドリテ芥木、カツラ原、長瀬ト云フ村ヲ過テ広橋ニ帰ル、申ノ中刻也、雨止ム、夕日見ル、此ノ日殊七留守、夜ニ入りテ帰テ宿ル、

大天井と小天井【大峯山中秘繪巻】



聖なる山の麓を守った村人たちに、後日、奈良県東部神社寺院課のS・ヘンダーソン中佐から、日本宗教の権利と伝統を尊重し、千三百年以上続いた女人禁制を認めるとの告示が出された。このことは今も女人禁制に掲示されている。

女人禁制を守ってきた地元で、女人禁制区域の縮小が真剣に検討された結果、現在は、洞川側が清浄大橋、吉野側は五番関と決められている。

## 拙師と続縁する金峰山の調態

吉野から熊野へと峰々の連なる大峰山系の深山幽谷の大自然の中を黙々と歩き、無心になって大自然と同一化し、定められた七十五ヶ所の霊地「大峰七十五峰」で手を合わせながら苦行する「大峰奥詣」には、数多くの不思議な話が伝わる。

我が国最古の仏教説話集『日本書紀』の下巻第一に残る詩。

吉野の金峰山にひとり居る険しい修行を積んで靈験を得た僧、彌師がいた。吉野山から山上ヶ岳へと至る金峰山の峰をめぐり樹下を歩き、歩みながら経を誦唱していていた。ふと耳を澄ますと、前方から音が聞こえてくる。法師、金剛峯若波羅密経を誦む所であった。声のするほうに走りより、卒を押し分けると、ひとつの棚があった。久しき目数を経て日に曬されていたが、舌は腐っていないかった。生き生きとして付いていた。彌師は棚を音響な場所を持って来て安置し、話しかけた。「前世からの因縁があって、私はあなたに巡り会ったのです。茅で棚を葺き直し、共に寝起きして日に六回程を誦みながら修行した。彌師が法華経を誦むに従って棚も一桎に唱えられた。その舌は振え動いていた。





女人結界 (五番関)

コース概観

今回のコースは、吉野側の女人結界の五番関から旧道を大天井ヶ岳に登り、金剛・葛城の山並みを直視し、歩く人も少なく踏み跡も不明瞭な箇所も出てくる尾根伝いの道を地図・コンパス・テープ・道標を頼り、はい活用して岩屋峠へと縦走し、大原山腹望台からよく整備された道をくだり、大吊り橋一かりがね橋一から、龍泉寺へとくだる。ちよっぴり自険のできるコースである。



たりと形している。オオクワガタと色のまき立ったが、コクワガタだった。  
ひと汗かいて登りきると大天井ヶ岳。山頂は樹林に囲まれ展望は良くないが、金剛葛城の山並みが美しい。役の小角が、鬼神に吉野金峰山と葛城山との間に橋を渡すように命じた伝説がよみがえってくる。  
山頂からは西へ尾根をくだる。岩屋峠

近鉄吉野線の下市口駅で下車。駅前から奈良交通バスの洞川温泉行きに乗る。大天井ヶ岳から岩屋峠、大原山へと縦走するので、日帰りは無理。夕方まで洞川に入り、旅館か民宿に泊まることとする。

8月2日と3日は、洞川行者祭りにきわう。洞川の虫踊りの行列と龍泉寺での紫燈護摩を中心とした祭りは、昭和二十八年に行者議、鬼踊りを母胎に、役行者に感謝する目的で案出された新しい祭りである。伊豆に配流された役行者が赦免されて大峰山に帰ったのを、弟子の後継者が喜んで迎えた故事を再現している。

翌朝早く、林間学校やクラブ合宿でにぎわう旅館前から山上ヶ岳の登山口に向かう。家並みをはすれと右側に「ころころ水」「母公堂」を見る。「従昔女人結界」の石碑がたまたす。山上ヶ岳への登山口清浄大橋への道と別れ、左にゲマタ橋を渡る。ここまで洞川自然研究路(本誌巻5・56ページ巻頭)をたどってよい。縦走中水場はないので、水の補給は早く済ませておこう。谷沿いの林道毛又谷線に入る。舗装された道は時おり車に出会うので要注意。道路標識に鹿の足が掛けられているのを見た。五番関のトンネルに向かって高度をかせぐ。

洞川の小さな道標が付けてある。これから先はブッシュが多く、踏み跡も不明瞭となるので、右手をさし、コンパスと地形図で確認しながら、テープと小さな道標を見失わないよう、慎重に進む。開けた左手には山上ヶ岳・弥山・彌村ヶ岳と並び、すばらしい眺望を楽しむことができる。

ひといブッシュをかき分け尾根筋を進み、無名のコブを二つほど越えたと岩屋峠(1334m)に出る。樹林に囲まれ薄暗いピークだ。左に樹林から旗を出してやると、山上ヶ岳・彌村ヶ岳が飛び込んでくる。

尾根筋をいったんくだり、小ピークに登り、大きく北に進路を振り、ものすごい急坂をくだる。骨の落ちないようになり、かき手入れの行き届いた杉、樟の生茂している尾根の鞍部におりる。とろとろと踏み跡も明瞭になり山並らしくなる。少し行くと、再び急なくだりとなるが、すぐにゆるやかな尾根道になる。歩きやすくなり、洞川の集落が見えるくると、そこは大原山の眺望台。喉を潤し、ひと息つき。

山道に導かれるようにして進むと洞川自然研究路の立派な展望台に出る。さらに直進すると全長1200mの吊り橋「かりがね

鹿の下顎が落ちていた。藪も指っている。標本にするために拾って行くことにする。トンネル手前の休憩所ではしばらく憩う。洞川から山上ヶ岳へ登る途中の一本松並木からキラリと光って見えるのが、この五番関のトンネルだ。

道標を道印に休憩所の右奥から取りつき、ロープの垂れ下がる急坂を登る。樹林の中を登りつめると五番関(御堂関とも書く)に出る。深切とも呼ばれ山上ヶ岳と大天井ヶ岳の最低鞍部になっている。ここ五番関の広場には、吉野側から山上ヶ岳へ登る時の女人結界門が設かれ、女人結界の裏新しい看板と役行者像をまつる小祠がある。午前4時、吉野山霊巖院本堂で勤行後立した聖護院の奥扉は、ここ五番関で勤行後立食をとる。

大天井ヶ岳(1438.7m)は、「急坂の上下約一里、大天井、小天井」と称せられた山上参りの難所であったが、今は山腹を滑り山頂を通らなくなった。大天井ヶ岳へは尾根伝いの道を山頂へとつぎ。人のあまり通らなくなった道には、奥吉野の古道の良さが残っている。杉、樟の香が爽やかに漂い、深山幽谷の貴重な静寂を堪能しながら登る。登山道をクワガタムシがゆっ

橋」。橋を渡り龍泉寺にお参りし、山行の無事を感嘆した後は、洞川温泉センターへ直行しよう。遊び疲れた体はゆるめのお湯にゆっくり入って回復させてあげよう。

▲コースタイム▼

近鉄阿倍野橋駅(待合約1時間)下市口駅(バス約1時間30分)洞川温泉(泡)洞川温泉(40分)ゲマタ橋(1時間)五番関(1時間)大天井ヶ岳(1時間20分)岩屋峠(1時間)大原山(20分)洞川温泉バス停

▲費用▼  
近鉄阿倍野橋駅→下市口駅 890円  
特急料金 870円  
洞川温泉→下市口駅 1330円  
大原山温泉探勝サニット 3920円  
4/1〜11/30まで発売されている阿倍野橋駅から洞川温泉への往復割引切符

▲地形図▼2万5千1洞川・弥山  
昭文社「56大峰山脈」  
▲問い合わせ先▼  
天川阿企園観光課  
07476(3)0321  
近鉄あべの橋西口「トレナイトセンター」  
06(623)6935



布引山脈

高座山

初級コース(★) 慶佐次 盛一

私たちがなにげなく登っている山でも、山を愛する山人にとって山名は心の拠りどころであり、強いこだわりがある。まして郷土の山に間違った山名を付けられたり、勝手な呼び方をされては、こだわりも憤りになる。

布引山脈高座山の名はおそらくこれが初出と思われるが、青山高原の元取山あるいは三角点展望台と呼ばれている756・0の正しい山名である。今回は郷土の山をこよなく愛する山人に捧げるガイドでもある。

伊賀上野市にお住まいの高田榮久さんは以前から青山高原の元取山の山名について疑問をお持ちで、元取山の名を記載してい



う。車道の脇には稲穂がよく育ち、秋近しを感じる。

途中の比々坂神社にも立ち寄り、ひと息入れて元の車道を進む。最近整備された車道はほぼ直線にのびて、やがて勝地の村

るガイドブックやガイド地図を発行している出版各社に、その出典を尋ねるがいまだに回答がないと嘆かれる。布引山脈の両端は、北の長野時から青山峠を経て西端の布引峠までの約20キロとする説と、長野から青山峠までの約10キロとする説があり、今では後者が普通らしいが、私は前者を支持したい。布引峠の名を無視できないからだ。この布引峠のすぐ北に磐ヶ岳(779・0)がある。青山高原の元取山の名はこの磐ヶ岳と混同されたようだ。この磐ヶ岳も白山町誌では元取山と記されているが、正しくは磐ヶ岳である。また同町誌は問題の青山高原の756・0のピークを青山としている。青山は阿保山とも書くが、これは布引山脈の一部分の総称である。布引山とする説もあるがこれも総称で、ひとつのピークを指すものとは思えない。

しかし手がかりがない訳ではない。高田さんにいただいた資料の中に、標高入りで高座山と記されたものがあった。明治四十五年3月発行の『名賀郡郷土資料』である。そこには、「高座山」大字勝地ノ東部一志那ノ境界ニアリテ、布引山高峯ノ一タリ、高サ七百五十六米、頂上ハ展望広ク、東ハ伊勢ノ平田郡及ビ伊勢海ヲ臨テ、知多半島

に響く。右に奥山愛宕神社、東海自然歩道、青山高原への道標があり、その先の奥山川に新勝地標がかかっている。

ここで、付近の地名に詳しい年配の男性に出会えたのはラッキーだった。小登川は奥山川の旧称で鎌谷は青山高原直下の谷。永谷は長谷と字を変えて存在しているらしい。これである青山高原の三角点ピークが、高座山だと確信できた。しかしこの男性、肝心の三角点ピークの山名は知らず、ただ三角点と呼んでいると言ふ。郷土資料の発行が明治四十五年だから、80年以上を経た平成の世では、山名は忘れられ消えてしまったのだろう。

道標から右折、奥山川沿いの林道を進む。湯の口橋を渡り、隣屋を右に見て林道はゆるい傾斜で上って行く。植林の日陰が涼しく、通る車もない静かな林道だ。道端には町石が所どころに立ち、林道管理棟の分版に「左奥山稲垣足より3・8、37丁」とあった。

やがて権現橋に着く。石橋を渡り休養所を過ごし、赤いノボリが続く石段を登りつめると朱塗りの愛宕神社に着き、参拝する。子負いの蛙の奉納が可愛らしい。慶長年間藤室氏の家臣がまつったと伝承されるが、

及志摩ノ一郡限界ニ入り、西ハ城和江ノ連山ヲ望ムコトヲ得ベシ」とあった。果



「又奥郡郷土資料」に記された高座山が青山高原の三角点の山名であろう。標高も、頂上からの展望も合っている。ならば高座山から流れるという小登川を溯り、青山高原の三角点に達すれば高座山の山名は間違いないことになる。ところが地形図には小登川という川はない。奥山川がそれと思われるが、高田さんは未確認のご様子なので、8月の末、小登川を確認に向かった。近鉄大飯線伊賀上津駅で下車。標高沿いに東へ進み、青山川の高倉橋を渡り左折して近鉄のガレドをくぐる。三叉路に奥山愛宕へと導く石仏があり、まずは隣地へ向か

後ろの岩が高座山の名の由来ではなからうか。坐はクラとも読み、神が降臨する磐座でもある。

道標から階段を登れば尾根道になり山頂は近い。にぎやかな人声が聞こえ、やがて車道に出る。レストランに車、車、歩くより車で来る人が多いようだ。20年近くご無沙汰だった三角点に二度目のタッチ。若い頃なにげなく登った山だったが、ここが高座山とは知らなかった。展望のほうは以前と変わらなず一級品だ。近くは笠取山の航空灯台、遠く伊勢崎、樺ヶ峰・紫山・高座山、上野市街なども見える。

下山は西青山駅へ、古い記憶の糸をたどりながら東海自然歩道をくだったが、記憶はよみがえらぬまま駅についた。

- △コースタイム▽
- 伊賀上津駅(45分) 勝地(1時間30分) 奥山愛宕神社(30分) 高座山(1時間25分) 国道(45分) 西青山駅
- △地形図▽
- 2万5千円伊勢路・佐田・二本木
- △アトバイス▽
- 西青山駅への東海自然歩道は、一部遺構が不明のところがあるので要注意。



特選コースガイド④

大峰山系

## 2等三角点のある山

# ブナ山・下辻山

中級コース(★★★)

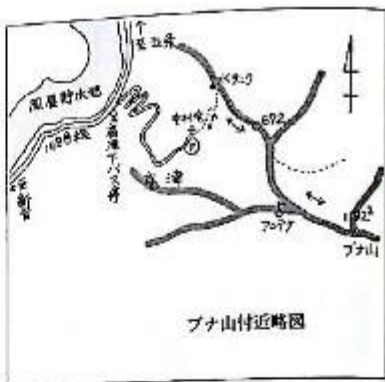
山形 歳之

ブナ山(1192・253) 歳之 川津

紀伊半島の中央部を走る国道168号線は、五条市から大塔村・下津川村と、紀伊半島を縦断して新宮市に至る。

国道の周辺には、吉野熊野国立公園・高野龍神国立公園があり、山また山で埋め尽くされている。山上ヶ岳を始め、大峰山脈の山々はよく知られているが、主眼をはずれたこのブナ山や下辻山は、登山者も少なく静かな山である。

二山とも紀伊半島の中央部にあり、関西側から日帰りにするにはマイカーが便利である。しかし168号線は、カーブの多い谷沿いの狭い国道なので、走行には十分な注意が必要である。



ブナ山付近略図

五条市から天辻峠を越えて猿谷ダムを通る。観光客でにぎわっている谷間の吊り橋を過ぎ、高津に到着。登山口の村へは四道から山麓の斜面に40戸程の民家が点在する村中の狭いジグザクの車道を登って行く。道は狭くて駐車する場所も無いので、村人に声をかけて公民館の前の空き地に車を駐める。三、四台は駐車が可能だが、ゴミの集積場やポンプ小屋があり、前面の道路が狭く車の待避場所ともなるので、かならず村の許可を得てから駐車したい。

公民館には立派な水洗トイレがあるので、使用させてもらうとよい。もちろん無人の施設なので、マナーは守ろう。  
ブナ山は昭文社の登山地図「下蔵山・海八丁」や2万5千地形図にも登路が記載されている。登山口は村の左奥にのびる村道の終点手前、最上部の中村さん宅の前にあり、ここから歩き始める。

家からまっすぐ上に登り、左手の植林の中に入る。林の中に使われなくなった雑草栽培地があり、その上部にドラム缶の水槽が置かれている。ここから右の尾根に登山道がのびている。

尾根の裾を登り、広い植林道を横断して尾根上に登る。道は松と杉の混交林で、道

間から、大峰の山々が大きな姿を現した。吹く風はまだ肌を冷たいが、おだやかな太陽の光が温い。  
山頂には三角点標石と、新宮山屋グループの小さい山名板が一つ立っているだけ。小鳥のさえずりがどこかに響き、人の気配も全く感じられない別世界が広がっている。

登山道ははっきりしていて、所どころに黄色のテープも付いているが、案内板はなく、山頂に山名板があるだけであった。  
▲コースタイム▼  
高津中村宅前(1時) 共同アンテナ(1

時間) ブナ山  
▲地形図▼20万1和歌山 5万1紀伊半島 2万5千1風屋

ブナ山山頂



は落ち葉に埋まっているが、見張ることはない。

ひと登りすると、右に山腹を降り道が分岐する。こちらのほうがよく踏まれているが、かまわずにまっすぐ尾根上の落ち葉がいったいの道を登る。やがて小型のNHK共同アンテナが三本ばかり立つ所を通り抜ける。尾根の登りはさらに続く。登山口の高津から高阪まで700mほどで連続して登ると、落葉樹林となる。牙吹いたばかりの樹

# 二等三角点の名山と秘境

安藤 正義 / 富田 弘平 / 多摩 雪雄 / 松本 浩 共著

AS判 340頁 定価1800円 掲載の山100山

新ハイキング選書

最新刊

今回発行の「二等三角点の名山と秘境」と既刊の「二等三角点の名山」(定価1600円)と次回発行の「二等三角点の山々」の「二等三角点の山」シリーズでは、山は一つも重複しません。この三冊で、「二等三角点の山」は、ほぼ網羅されます。  
今回の本は、その中にあって、全国「二等三角点」の別居の地図と所在地を最新の資料により掲載しました。一等三角点マニア待望の本です。一等三角点はこの本で、すべて。

●編集の監修でのご注文は資料社員部  
発行所 新ハイキング社  
東京都北区滝野川7-6-13  
TEL/FAX (03) 3915-8110





下 辻 山 山 頂

い道である。  
 篠原からさらに上流に向かい、三ノ又の林道に入る。入り口に三ノ又の標示が出てくる。分岐から1・5kmの所で土砂崩れがあり、車を置く。さらに1・50分ほど歩み、高圧線の裏あたりには達すると、新しく築かれた秋道側壁の石垣に、高視路への階段が現れる。鉄塔11号の標示はあるが、下辻山登山口とは標示されていない。道は最近整備されたばかりで、植林の中を登って行く。壊れた植林小屋や空き瓶が散らしてある所を通り過ぎ、最初の11号鉄塔に達する。周囲は10数年くらい若い植林地帯で、尾根上の直登である。10号鉄塔を過ぎ9号鉄塔のあたりで、道は高圧線に沿って尾根の左に回り込む。この山腹を登くあたりは少し道が悪い。道は8号鉄塔の上で後縁に向かい、後縁上で篠原からの道と合流する。  
 後縁はブナ(ツ)の疎林で、おたやかな樹相となる。まだ芽吹いていない樹間から、一基の大きな反射板を載せた山頂が望まれる。林を抜けると、テニスコートくらいの広さのある鉄製のヘリポートが現れ、やがて山



頂に到着する。  
 頂上は半分以上も反射板のフェンスに占領されて、三角点標石が身を縮めているように埋まっている。工事のために置き取られた山肌が痛々しい。  
 少し戻ってヘリポートでひと休み、ここはよい展望台である。尾元の蒲葎グムの水面が思ったより近くに見える。東には大船の山々が、北にはあす登る予定の天和山・滝山が望まれる。  
 下辻山はこのルートから登ると、麓原コースより1時間短く登れる。  
 篠原の入り口にある「宮の滝」は、一見の価値がある。国道分岐の字井に「夢の郷」と碑されるりっぱな温泉ができていて、ひと汗流そうと思っただが、一村民400円、郵外者800円」と言われ、天川村の天の川温泉まで車を走らせた。ちなみに天の川温泉や洞川温泉センターの入浴料は510円である。  
 (平成9年4月歩く)

▲コースタイム▼  
 三ノ又林道登山口(20分) 11号鉄塔(1時間) 後縁篠原道合流(20分) 下辻山  
 ▲地形図▼20万1和歌山 5万1秋田ヶ岳 2万5千1辻堂

特選コースガイド

丹波

広げて展望の良い

居母山

中級コース(★★★)  
 内田 嘉弘

『上夜久野村史』に「居母山(いもやま)は夜久野村では居母山と書かれてきたことが多く、居母山にあっては居母山の山号には居母山と書かれていることが多い。しかし、居母山(居母山)としたものもあり歴史的に何が正しいと判断する根拠がない。現在では建築家国土理院が「居母山」を「居母山」としている。居母山、妹尾山、居母山の語源については不明である」と載っており、「丹波物語」(藤井秋房・舟田直道著)では「居母山のイモは『動物語』の山イモ山に通じないだろうか」と想像力がかきたてられている」と記されている。  
 夜久野町郷土資料館で厚質パノラマを見る。この居母山二帯は古期花崗岩より形

成と記されている。遺跡分布図には、この山の東の伏見山の麓にはヤナギ製鉄遺跡、西には深山の麓に才谷製鉄遺跡がある。居母山を中心とする一帯は砂鉄を含む花崗岩地帯で、露頭は金谷・金尾・別谷に見られるという。  
 今更より  
 2万5千分の1地形図「三居山」を見ると、今更の北に326号地点から西へ沢が入っている。この出合いに「居母山頂上マデ2・5K」と道標がある。

登山道は、取治いに杉と檜林の中に続いている。この沢は、途中から伏流になり所どころで地下からその流れの音が響いてくる。道標が追加され、そのうえ太い杉の幹に青色の矢印が出てくるので迷うことはない。  
 切り倒された杉が横倒しになったまままだからそれを跨いだりくぐったりして登ると、また沢に流れが出てきた。そして右上から林道小屋尾線が近づいてきて合流。この林道を今登ってきた沢との出合いに「居母山登山道」と道標がある。  
 この道標に従い沢沿いに少し入って二帯、左の沢に入ってすぐ左への支路根に取りつ

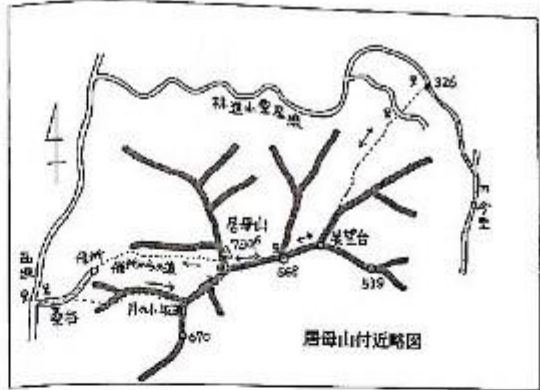
居 母 山 山 頂



き沢を離れる。これを少し登ると左へのトラバース道になり、広い台地状の降の火尾根に出た。その広い尾根を登ると展望台があって、正面に伏見山・三居山、鬼ヶ城と鳥ヶ岳、鉈ヶ城が眺められ、眼下に今更の集落の一部が見える。登山道は展望台の下に矢印があって左寄りに登るとすぐ展望台に出て展望台からの踏み跡へ入る。ここから急登になり、登りきくと668号ピークで「頂上マデ0・7K(朝・紅の色)」と



道標がある。  
このピークから尾根上を南へ水平移動すると西へ向きが変わる。ピーク6868m付近からは被曝直下の下生えがきれいに刈り取られた杉と檜林の中に踏み跡が続いていて、これをたどって居母山の南の稜線に出た。「頂上マア50m」と道標が出て、直見側の奥谷からの登山道と合流して北へ2〜3分の登りで頂上に着く。



居母山村近略図

3等三角点(730.6m)の横に東西南北と方位を示し「居母山クラブ」と彫られた大きな山名板があって、鐘がぶら下がっている。  
山頂一帯は三角点を中心にササが刈り込まれ、夜久野町後援町民登山記念(昭・10・19)としてナナカマドとコブシが植樹されている。  
黄色くなったカラマツのみなに伏見山と三岳山が重なり、三回山・電波塔のある登尾・嶺の背のような大江山・江登山・磯砂山が東から北に望め、西側は兵庫丹波の山々、岩屋山・カヤマチ山・粟鹿山・朝来山・マダヤ山が望めた。  
くだりは登ってまた登山道を再びたどり林道小栗尾線に出て、その林道をくぐり、畑から直見に越える舗装道路に抜けるとよい。曲がりくねった道が直線になると三角錐の伏見山を正面に見ながら登山口へとくだる。

〔最寄り町営バス停留所・今里〕  
▲コースタイム▼  
今里登山口(35分) 林道小栗尾線(15分) 展望台(15分) ピーク6868m(15分) 居母山(30分) 林道小栗尾線(林道35分) 今里登山口  
で、この地元の居母山へは年一回滑壇登山をしておられる。  
〔最寄り町営バス停留所・西垣〕  
▲コースタイム▼  
町営バス停留所・西垣(15分) 林道(15分) 「月の小坂道から居母山」と「飛所から居母山」への分岐点(40分) 鞍線(20分) 居母山山頂(5分) 飛所への別れ(25分) 飛所(20分) 林道起点(10分) 町営バス停留所・西垣  
△地形図V2万5千分の1「三岳山・直見」 5万分の1「大江山・出石」  
○このコースガイドは「京都丹波の山」(C)より引用・加筆したものである。(内田)

合流して登りつめると山頂である。  
下山は「飛所から居母山」への登山道をつくた。コルから大きな山桜のある道をつくと源流で杉林のくだりになる。これを抜け出ると居母山西尾根を下降することになる。足元は熊笹と雑木林で明るく、前方に富岡山が見えたが、また暗い杉林の中になり、やがて沢沿いになるとしつかりした木の橋が現れた。  
ここが「飛所」で、あとは林道のくだりになる。これをたどると登りに使った「月の小坂道から居母山」への道との分岐点である。  
西見側からの登山道には居母山クラブが立てた道標がいくつかあった。「居母山クラブ」は中尾良之助氏を会長とする山岳会で、日頃の山行は近くの丹波の山々が中心

西見より

町営バス停留所・西垣に居母山クラブの案内板「居母山へ」がある。その前から奥谷川に沿って舗装道路が上にのびており、これが居母山へのルートである。

この道を山手へ登って行くとき最終民家の手前の畑谷橋で右岸から左岸に渡る。舗装道路は終わり、地道の林道の登りになる。猪藪の網をくぐると養蚕貯水池がある。

直線の林道が左に大きく曲がる所が「月の小坂道から居母山」と「飛所から居母山」への分岐点。右の「月の小坂道から居母山」から登ると山道は左上の支尾根に向かっていく。松林が見え、そこからはジグザクの支尾根の登りになった。

この支尾根はクスギ・ミスナラの自然林で気持ちよい。こちらの登山道はしっかりと歩いて昔からよく登られているようだ。ふり返ると富岡山が盛り上がりしている。しかし、山腹に別り取られた松石場跡が標榜のように見え痛々しい。

上部に登るに従ってササと雑木林が目立ち始め、稜線に抜ける杉、檜林にササが続く。前方に山頂の切り開きが見えてきた。やがて「飛所から居母山」への登山道と合流し、続いて檜林の中で今里から登山道と

山の本報

「京都丹波の山」(下)

- ・内田 嘉弘著
- ・ナカニシヤ出版
- ・定価本体2000円

京都府の中部にひろがる丹波高原の山々は標高1000mを超え、山こそないが、甲山として親しまれてきた個性派ぞろい。京北町・栗山町・日吉町・和知町・綾部市の山を完全網羅した。

山と自然の本

|                       |            |
|-----------------------|------------|
| 比良の父・角倉太郎 比良登山会著ものがたり | 2200円      |
| 関西山越の古道(山田) 中庄谷 直     | 1942・2000円 |
| 京都丹波の山(山田) 内田 嘉弘      | 1942・2000円 |
| 兵庫丹波の山(山田) 慶佐次 誠一     | 各1942円     |
| 近畿の山(山田) 中庄谷直・吉岡章     | 1942円      |
| 近畿の山(山田) 中庄谷直         | 3800円      |
| 京都 北山を歩く(山田) 海 清      | 各1645円     |
| 京都 北山を歩く(山田) 内田 嘉弘    | 1942円      |
| 京都 丹波の山(山田) 山本 武人     | 2000円      |
| 近江 湖北の山(山田) 山本 武人     | 1942円      |
| 近江 朽木の山(山田) 山本 武人     | 1942円      |

|            |       |            |
|------------|-------|------------|
| 鈴鹿の山と谷(山田) | 西尾 寿一 | 3107・3800円 |
| 美濃の山(山田)   | 大垣山岳会 | 2200円      |
| 丹波の山(山田)   | 高木 泰夫 | 1942円      |
| 丹波の山(山田)   | 昭市    | 2427・2718円 |
| 丹波の山(山田)   | 増水 進男 | 2913円      |
| 丹波の山(山田)   | 増水 進男 | 各1942円     |
| 丹波の山(山田)   | 増水 進男 | 1845円      |
| 丹波の山(山田)   | 増水 進男 | 2718円      |
| 丹波の山(山田)   | 増水 進男 | 2816円      |
| 丹波の山(山田)   | 増水 進男 | 2816円      |

★表示の価格は消費税を含みません  
ナカニシヤ出版  
京都市左京区吉田二本松町2  
京都 075-751-1211 千606



長者伝説の古道

長者屋敷越

初級コース(★) 柴田 昭彦

奈良県桜井市初瀬と宇陀郡榛原町等間との間に、長者屋敷越という古道がある。鎌倉時代初期の正治(1199)〜1219)の頃に築かれた『長谷寺(巻)』(昭和十九年長谷寺刊・続群書類従第二十号下巻)の中に、次のような観音信仰の物語がある(下巻、第十回巻四)。

寛平年中(889〜898)、宇陀郡安田村(現榛原町安田)の基守という男が、両親と死別し、長谷寺へ月詣でを欠かさず続けた。貧乏で着る物もなく、藁一つを身につけて、この月をもって利年の有無を知らうと思ひ、誠心をこめて祈り、百日になる夜の夢に観音菩薩が現れた。少しの財物でも奉獻しないと大きな福は得られない。

いと生けられたので、妻を献じた。その婦り道、菩提の臺を見つけて掘りおこすと、砂金の入った銅の壺が出てきた。おかげで岡中一番の大富豪の者となった。人は皆、『賢長者』と名づけた。親の十三年忌に、安田に堂塔を立てて、立派な大仏事を営んで供養したという。

もとより、この説話は史実ではないが、長谷寺から峠を経て安田に連絡する道が古くから使われていたことを物語っている。

『奈良県城郡誌(大正四年)』には、笠間における口碑伝承として、昔、一旅人が長谷寺の観音堂への十忌後の断食齋後、長井坂で妻の夢を語りおこして黄金の水満した壺を得て富者となり、そこに住居を構えて、真丸長者と称したが二代で滅び、小さな祠が今なお屋敷内にある、と記している。

高田十郎編『大和の伝説(昭和八年)』にも、同じような笠間の伝説「賢長者」と「笠間の長者屋敷」があり、その増補版(昭和三十五年)には、「たいのほね」という地名説話を載せている。その名の由が屋敷のある止の北の谷にあり、賢丸長者の食べた鯛の骨で埋まった所だというのである。

狛峠道



明治四十一年測図の二万分の一地形図「松山」には、長者屋敷越は初瀬から笠間に越える道として記入しており、大正時代にかけてよく利用されていたが、交通機関の発達によって衰退し、昭和三十年代には急坂であることからほとんど往来が途絶えてしまった(榛原町史、昭和三十四年)。

今回、初瀬から狛峠道で笠間へ越え、初瀬と笠間の間に横たわる嵩山に登り、長者屋敷越をたどって初瀬へ戻るコースを紹介

しよう。

近鉄長谷寺駅で下車、正面の階段をくだる。国道を横切り、長谷寺参道に出合い左へ進む。再び国道と出会うとその右手にバス駐車場がある。ここは、大正元年から昭和十三年まで桜井と初瀬を結んでいた長谷線鉄道の初瀬駅の跡地である。その先



で左へ裏道をたどり、初瀬小学校を過ぎて左へ折れる。国道を横断して桜井東中学校の南側を避けて狛峠道へ入る。

車道の分岐で左をとり、狛の集落に入る。次の分岐に道標があり、このあたりで明治前期の地形図に記入されている「高見山」が正面に姿を見せる。ここで右をとっても

よいが、左をとり狛羅荷神社に寄って行こう。この神社は、永正四年(1507)以来、二十数回に及び改築が行われてきており、平成六年には大造営が行われ、全面新築された。ここにはもと本願下にあったものを移したといわれる平らな大きな石があり、神座石と呼ばれている。往昔、神主と巫女とが氏子の吉凶福をその上で占ったと伝えられている。

狛峠道は狛本人麻呂が飛鳥から藤原皇子に供奉して、宇陀の阿蘇野へ行った時に通った道として最もふさわしいと推定された万葉の道である(万葉集「万葉集」花・風土・心)社会情報社、現代教養文庫)。

万葉集の巻一(四五)には、「隠口の泊瀬の山は、真木立つ 荒山道を、石が根 禁帯おしなべ」とあり、大養父が戦後に初めてこの谷に入った時には、根っこや樹木が邪魔をする全くのやぶ道であったという。今日の狛峠道はよく開かれた道になっている。峠を越えるとカラッと明るい平坦地に出る。

等間街道に出合い、東へ進む。途中で左折して隠雲寺をめざす。この寺は平安後期に創建され、堀河天皇・後白河天皇の勅願寺院であったという。その橋に後村上天皇中宮頼朝子の笠間山殿があり、新羅明門殿(隠雲寺)と呼ばれている。中宮(皇后)は隠雲寺に関与し、正平十四年(1359)に没したと伝えられる。





長者屋敷跡にある祠

寺の前の道に戻って左へ少し進むと、火の用心の表示が左へ続く巡拝路を教えてくれる。竹林のそばの峠で右折して尾根道をたどる。すぐに鉄塔の礎に出る。やがて道は左へ回り込んで急坂を登りきると、NHKの宇陀放送所の立つ平坦地に出て尾根道に出会う。左をとると旗の下に二等三角点があるが、展望は得られない。

ここは、高山または笠間山と呼ばれている(笠間市史下巻)が、宇陀の松山の山城



長者屋敷跡の神にまつられた地蔵

ら背テープの目印に従って進む。すぐに地主の石標がある。少し先で、石を目印に左へ入り、草むらの口に行く。左側が深く掘れた溝となり、それが延々と続いて右縁を中央にたどる。やがて正面の杉の木に白スノキの目印がある地点に出る。ここで右へくたると、すぐに同様の目印があり、左をとると丸木橋がいくつか渡してある所に出る。

まっすぐ行くたって行き、ササやぶの間

があったことから、城山ともいう(奈良山番会編「大和吉野の山々」昭和四十八年)。放送所の立つ平地は威跡の地形を示し、三角点との間に空堀の跡らしいものも見られる。

「大和吉野の山々」によれば、三角点から西へ尾根続きの小さなピークを岳山と呼び、戦前まで田植えの時の雨乞い行事として、交わらで作った大たいまつを持って岳に登ったという。このダケ登りは、竜門岳、二上山をはじめとして、大和の各地で行われていた習俗で、類似のものは全国に分布する。中・近世の郷村制に基づく水口農耕の発展に伴う野山(採草地)に設定されていることが多く、この岳山も肥料や飼料に使う草を刈る場所として重要な共有地であった。今日では岳山のすぐ東側はブッシュにおおわれており、ほとんど人も入らないようだ。その東方に、初瀬谷の展望が得られる所があり、崩りに急な坂を登り返す手間をいとわなければ、辰倉場所を利用してよいだろう。

高山から東へ尾根道をたどる。広い山道で歩きやすい。やがて、右三からの道と合流し、すぐに左からの墓参道を合わせる。右へ少し進むと広い林道に出る。ここが長

を抜けることと確認し、電車に注意して横断しよう。吉野川にかかる橋を渡ってすぐの分岐で左へあぜ道をたどるのが長者屋敷であるが、右へ進む。園道を横断して北へ進むと与喜浦で、明治期の初瀬街道を東へ少したどる。北へ坂道を登り、江戸期の伊勢街道に出る。西へ少し進むと石仏をまつってある分岐に到着。右標に「右くわんおんちか道」とある。東のほうから長者寺へ向かった苗畑や宮長はこの近道をとって上坂坂をくたったようだ。

いにしえ、倭姫命が天照大神を笠間岳から伊勢へ導く時にここを通過して、化粧を直したから「化粧」という名がついたという伝承がある。近世に伊勢参りに向かう女たちが、急坂に汗かいて、その化粧を整えた所だからともいわれている(大伴隆「西国 大和郡 和歌山県」)

伊勢街道を西から東へたどる旅人は、下社坂を利用した。愛宕山に登れば、長者寺全山が一望でき、実には素晴らしい景色である。長者寺参道をたどって長者寺駅に降り参る。

なお、長者屋敷跡の丸木橋付近は送いやすいので、自信のない向きは祠から笠間へくだり、粕峠道で初瀬へ戻るコースをおす

吉野敷越の峠で、地蔵がひっそりとたたずんでい。その背後の上段にも隠れるように地蔵がまつてある。

峠から東へ少し進むと分岐がある。まっすぐに進めば安田へ、右へくたれば笠間へ出る(又文四年の信濃の立つ分岐で左をとればよい)。また、左へ入ると祠があり、ここが長者屋敷跡と伝えられてきた所である。周囲に平坦な荒地が広がっていて、いかにも伝説の生まれそうな雰囲気を感じてい

味に引き返し、北へ長者屋敷越の林道をたどる。右側に地蔵を見たあと、道は左のほうへ曲がり、道幅も細くなる。ササが茂る所もあるが、道はしっかりしている。大きな石のそばを通ると、丸木を並べて作った橋が溝状になった所に渡してある地点に出る。長者屋敷越の旧道は、この溝状に続く細い谷筋であったと思われるが、かなり荒廃していて通行困難である。塚井市の一万分の一地図には、旧道のかわりに北西へ向かう迂回路が記入されているが、伐採などのために不明瞭になり、やはり進行困難である。

そこで、丸木橋を渡らずに溝状の旧道の右縁をたどることにする。丸木橋の右側か

すめしておく。安田の北西の嶽山は舊側の展望が開けているので立ち寄るのも一興であらう。

(平成9年2月9日・23日歩く)

▲コースタイム▼

長者寺駅(1時間10分) 粕峠(40分) 高山(25分) 長者屋敷跡伝承地の祠(50分) 与喜浦(30分) 長者寺駅  
祠(15分) 笠間(20分) 粕峠(1時間) 長者寺駅  
▲地形図▼2万5千1初版

観光バスなら 確実第一の  
太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
  - ・中型 (28人乗り)
  - ・中2階 (45人乗り)
  - ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンカーからアップクラスまで

スキーバスもあります

〒578 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F  
電話 06(74E) 3911・FAX 06(74E) 3903  
(夜間・電話 06(94E) 0816・FAX 06(94E) 9044)



2等三角点のある山

大阪府の山々

山形歳之

大阪府下には現在27ヶ所の2等三角点があります(旧境のものは別の基準で区分けした)。もともと三角点は登山者のために設置されたものではなく、測量の基点としての軍用的に分布しております。そのため山頂はかりにあるとは限らず平地にも設置されています。

山地の少ない大阪府の場合、27ヶ所のうち12ヶ所は100m以下の低地で、登山の対象にはなりません。大阪府の山としては、生駒金剛山系、和泉葛城山系、それから北摂の山々になります。これらの山地にある2等三角点1000以上の山を11ヶ所紹介します。これらの山は、市街地からも近く登山道も明瞭な所が多いので、特にコースの説明がなくても、登山用の色地図さえあれば簡単に登れます。

そこで選定順にその存在を示してみます。

(「」内は点名。マップは昭文社のニエリアマップ名)

①大和葛城山(養峰山) (959・26)

20万和歌山 5万五養

2万5千和歌山

マップは葛城高原・二上山

コースは近鉄御所駅からバスとロープウェイで頂上近くまで。登山道も四方からある。

②岩瀬山(岩瀬山) (897・26)

20万和歌山 5万五養

2万5千和歌山

マップは金剛山・岩瀬山

コースは南海高野線の紀尾路駅から。

③横塚山(土ヶ畑) (784・06)

20万京都及大阪 5万和歌山

2万5千和歌山



タンボ山の2等三角点

マップは北摂の山々

コースは「能勢の峰」近くから剣尾山の奥(新ハイキング15号記載)。

④タンボ山(石見川) (760・16)

20万和歌山 5万和歌山

2万5千和歌山

マップは金剛山・岩瀬山

コースはあまり知られていないが、紀尾路と金剛山の縦走路上で、標高は少しはずれた所にある。

⑤堂塚山(仁頂寺) (584・46)

20万京都及大阪 5万和歌山

2万5千和歌山

マップなし。

コースは信貴山寺より。

⑥六幡山(松尾山) (900・06)

20万京都及大阪 5万和歌山

2万5千和歌山

マップは北摂の山々

コースは阪急福知山駅から。

⑦西石山(西ノ石) (384・46)

20万和歌山 5万和歌山

2万5千和歌山

マップなし。

コースはJR阪和線山中溪駅から。

⑧寺山(寺山) (293・56)

20万和歌山 5万和歌山

2万5千和歌山

マップなし。

コースはJR阪和線山中溪駅から。

⑨不明(大野) (139・36)

20万和歌山 5万和歌山

2万5千和歌山

マップなし。

コースは河内長野市、和泉市の三

市境より北東約2km。堺市と和泉市の境

界線近く。

⑩不明(大野) (139・36)

20万和歌山 5万和歌山

2万5千和歌山

マップなし。

コースは河内長野市、和泉市の三

市境より北東約2km。堺市と和泉市の境

界線近く。

夏秋号・新発売!

# 登山・ハイキング バス時刻表

近畿  
4月発売  
97夏秋号

JR用時刻表には掲載のない  
路線も多数収録  
登山道に通じる  
停留所をピックアップ  
登山・ハイキングファンのためだけの時刻表です  
三重・滋賀・奈良・和歌山・  
岐阜・京都・大阪・兵庫の  
2府6県をカバー

関東  
4月発売  
97夏秋号

東京・埼玉・神奈川・静岡東部・  
山梨・栃木西部・群馬・  
長野・茨城を収録!

「関東版」「近畿版」とともに書店や  
有名スポーツ店で発売!  
ご注文の際は書名が正確であることをお確かめ下さい

関東版・近畿版とも  
9611 定価1200円  
tel.03-5285-7445

吉苑新社

2万5千和歌山 5万和歌山

マップは葛城高原・二上山

コースは近鉄産大阪線上ノ太子駅から。

⑪甲山(兜山) (212・26)

20万和歌山 5万和歌山

2万5千和歌山

マップなし。

コースは南海加太線西庄駅北の猫塚峠上。

⑫不明(黒石) (109・86)

20万和歌山 5万和歌山

2万5千和歌山

マップなし。

コースは河内長野市、和泉市の三

市境より北東約2km。堺市と和泉市の境

界線近く。

⑬不明(大野) (139・36)

20万和歌山 5万和歌山

2万5千和歌山

マップなし。

コースは河内長野市、和泉市の三

市境より北東約2km。堺市と和泉市の境

界線近く。

⑭不明(大野) (139・36)

20万和歌山 5万和歌山

2万5千和歌山

マップなし。

コースは河内長野市、和泉市の三

市境より北東約2km。堺市と和泉市の境

界線近く。







# せせらぎ

題字・小林琉璃三

昨年10月27日、幹鹿を歩く16  
「沼水平谷林道から阿豆岳」に参  
加。植林指定を抜けるとすばらしい  
二次林、落ち葉のジュウタンは赤・  
黄・黄緑、それぞれにお部屋を形  
づけているよう。落ちてくるのは  
はかり、中味はカラッポ。山の仕  
度がいっぺり食べたか。鹿さんの  
寝床も近くにあり。少人数なら  
必ず会えるとのこと。空はどこに  
でも青く、太陽に照らされた紅葉  
真っ盛り、木々は光り輝いてい  
る。

もあたりの雄大な景色を満喫して  
おられるようで嬉しい。  
食後は東雨乞まで散策。私の音  
丈ほどのササの中をくたたり上  
がったり。東雨乞からもすばらし  
い展望で、御池・雲仙・伊吹・熊  
子ヶ口、何よりも懐しかったのは  
いつも通る樺の平林がすっかり見  
えたこと。  
メインは鎌ヶ岳、その建群は山  
容は一日中角峰を凌いで私たちに  
見つめ続けてくれました。  
帰りは西尾根を下ります。プナ  
林の美しさに心癒ります。清水の  
頭から眺めた景色、雨乞の頂上  
の出会い、東雨乞の展望が心に残  
った最高の山行でした。  
(小田 妙子)

これからたどる奥谷の正面谷の  
上流は雲に隠れ、被褥の曇りばら  
かかえない。スキー場も閉鎖前  
のでかたりの積雪を動かし、金  
崎がレマまではくまふし程度。金  
崎は突然寒風の冬模様。他のパ  
ーティは皆武蔵ヶ岳方面へ。ガスの  
中、山頂への北斜面は「暮雪山」  
の別名に恥じない雪舞。所どころ  
消えかけたトレースを添うたびに  
かなりのラッセル。  
ようやく新し始めた日差しの下、  
逆光に揺らめくノタノホリの水面  
を見ながら、遠い辰宮。冬もこの  
沼までくだるといきなり夕暮。  
野狐の群に惑われ、七瀬の躍る  
るせ道を駅へ。週末営業の駅前食  
堂へビールを求めての道すがら、  
ふり返ると存続のなか、比良のヌ  
カライオン上にスキッとヒラミダ  
ルなようなビーク「雲海活」の  
観念が。  
(若原 昭)

- 尾瀬、平ヶ岳、雄勝、釣りの山小屋
- 飯沼三山、日田、大内
- 清四郎小屋
- ほんもの手作りそばと漬物は
- 樹海
- 〒0466 茨城県水戸市高崎区
- 0272-321180
- 0272-321181
- 0272-321182
- 0272-321183
- 0272-321184

- 汗をたっぷり流せる温泉と
- 飛ヶ峰牛のソテー
- 日本海の鮎魚と山の幸
- ハイカリーの宿
- ナカサキロッジ
- 〒949-21 新潟県中頸城郡
- 妙高高原町池の平温泉
- 0255-186 22661

- 高山の花、混浴の花
- 妙高山、六行山
- 百名山を二登れる山小屋
- 黒沢池ロッジ
- 〒949-21
- 新潟県中頸城郡
- 池の平温泉
- 0255-186 22661

になり「百鬼」。

永い間気にかかっていたことが  
今回実現した。それは、佳奈さん  
が以前友人にバヌしたため、嬉し  
くて彼女に会いたくなり奈良に出  
かけ、二人だけの夜のブートとな  
ったのである。彼女とは大台ヶ原で  
出会ってから6年(本誌13号・18  
号参照)。その間、いたいたの手  
紙は50通ほどだった。これは彼女の  
成長の記録であり、おじさんの誇  
りでもある。彼女が結婚する時、  
手元の手紙を讀もうと考える大切  
にしている。

現在は電子の時代とか、メンで  
字を導くことが少なくなつた。彼  
女には、こうして手紙で交流が結  
けられることに感謝している。

(須藤 博)

3月30日に結核を歩く「御池  
林道から御池温泉」に参加。プ  
ナ林の尻尾から御池温泉が眼下に  
見下ろせる絶景地を横断しながら  
下山中、上のほうから叫ぶ音が聞  
えた。「何かな」と思い、前の人  
が「あつたない」と叫んだので山  
側をふり返ると、大きな物体が目  
前に落ちてきた。とっさに避けよ  
うとしたが、間に合わず目のリムッ

クに当たり落ちて行った。  
少しほうぜんとしている後  
の人が、「大丈夫か。」「いや大  
丈夫です。」心配された。「切り株  
が腰に当たったように見えた。立っ  
て」と言われ立ち上がる、かすり  
傷「」なく下山の途につく。  
御池温泉を降りて、野狐尾根に到  
着してから「はっ」と気づき、  
リュックの中身を点検してみた。  
中程に入れたあった1本のジャー  
の底部のプラスチックが砕け持ち  
手の下腹の縫き手にはすれ、ステ  
ンレスの角がくぼんでいた。  
たまたまに突っ込んだ防犯カメラ  
モデルチェンジ前の植林機ジャ  
ーが我が身を救ってくれたようだ。  
植林機ジャーマンには、御  
池の祈りをした。  
さて、なぜあのような切り株が  
落ちてきたのか。前後の雨で地盤  
がゆるんだのか。またはかの  
降山なのを知りたいものです。見  
ていた方がおられましたか。この  
疑問に納得する範囲を教えてください。

最後は「ご心配いただきました方  
にこの誌面を借りて頂くとお礼申し  
上げます。  
(佐野 正弘)

4月11日、奥谷を経由で飯山山と  
野山登山をピストン登山する予定で  
あったが、要領からの道が工事の  
ため「車止め(4月20日まで)」に  
なっていた。

そのため、河内の風穴からの編  
野山登山に変更した。山と奥谷は  
の「分岐(飯山登山道)登山ガイド」  
に従い、人家の間の登山口を探し  
たが、入り口付近は倒木などで通  
行不能。地元の人のお話では、最  
近は山荘などで山に入る人がい  
なくなつたので、道の整備はして  
いない由。

やむを得ず、(1)奥谷の杉林の  
なかを抜ける。「奥谷を抜ける杉林」  
ていく。やむを得ず、(2)奥谷の  
た事、(3)奥谷の杉林を抜ける。こ  
から杉林に入るると道は完全に消  
「奥谷の杉林」の心。(4)奥  
「奥谷」といふ「をたよりに」杉  
林を抜ける。奥谷の杉林を抜ける  
杉の間に到着。そこから山頂を  
めぐる。ススキの原を麓木をさけ  
ながら登った。  
山頂から奥谷への道は暗闇にっ  
いてはいるようであるが、植林機回  
りルートをとった。  
ススキの原の奥谷の奥谷に付  
けてある「奥谷」をたよりに奥

- 休憩・食入浴も歓迎
- 10名以上ステイロバスで送迎
- 箱根権五温泉
- 福 屋 館
- 〒250-06 神奈川県足柄下郡
- 箱根町権五町330
- 0450-410804



峠へくだる。杉林のなかま、「目」を指定に拾いながら、慎重に通過し生活道に出た。さらに「流道」をくだると、河内集落近くで道は消失したので、そのまま樹木などを踏み越え河川のほとりにおり立った。

さて、当ルートは、昭文社の登山地図「雲仙・伊吹・蘇限」の97年度版では実線①と点線②とで表示されているが、①は点線に相当し、また、②は杉林の通過が一番難かしく、③は比較的簡単である。初めての場合には、くだりよりは登りに使うほうがよいと思う。

このルートに「目田」を数多く付けてくださった方に感謝しながらも、しかしこのルートはいつか使えなくなるのではないかと、この危険を抱いて帰途についた。

(吉峰 幸次)

「新ハイパワート」

12月21日 中山連山縦走  
山越えを道案内する人の形  
その鳴き声を追いかけて冬  
1月26日 泉南・お菊山  
大止池に似る流ノ池の枯れ木見えて  
上高里を想う岩の隙  
2月5日 湯合ヶ岳から湖尻山

アイゼンで踏みしめる雪は歌っている。

白い山の果てに春を感じて

2月23日 北宇智から金剛山  
金剛の樹木きらめく銀世界に  
其生のシンフォニー鳴り響け

3月4日 丹波・牛牯山  
川下りの小舟を渡る雪力比羅の  
森を透くする清流の音

3月16日 北沢・箕面の森  
夜が明けて山の敷面開かれる  
箕面の森にさわやかな陽光

3月20日 藤ノ水峠から岡山  
春を告ぐ夜明けに風吹けば  
窟夜に流れて水ぬるる季節

4月13日 生駒山系縦走  
ヤッホーの呼び声消えて山登り  
縦走おえて帰るゆく仲間よ

4月16日 比叡山雲母坂から  
仰ぎ見れば比叡の山の笑し  
縋綱わを優しく抱いた

4月中旬、陽春の日差しを浴びながら、東播磨に位置する善防山・笠松山を縦走し、春山歩きの手ばらしさを満喫した。

いづれも標高こそ2500前後と低い。一帯は火山灰層からなる懸崖の岩壁は、ハイカーから

(木村 太郎)

らアルプス並みの風貌と稱しなれている。①は阪神外野ランドハイキング、コースである。従って、登山岩壁の登りくたはかなり厳しく、時には登山杖が邪魔にすら思われる箇所があって、アルペン気分を満喫させられた。

旺盛だったのは、善防山から四駆根を急降下する時、眼前に開けた展望である。「ピラミッドな笠松山を中心として岩山が林立し、波瀾のように激しく波打つ。どの山もこの山も野をまとうた遊牧民のようだ。これが標高2000位の山かと目を眩ませた。」②大蔵山の山の上展望台に立つと、360度のパノラマが展開しており、眼下の播磨平野のかたに等形山(播磨守)や瑞雲山が見えた。これには感激させられた。

そうした眺望もさることながら、今一つ深い印象を与えられたのは山道の両側を彩っていた満開のツバツツジである。善防山の登り始めには、両側からの花のトンネルを抜けるような所で見られた。両側をツバツツジの経路に囲まれて、春霞の魅力的な平野を見下ろしながら歩くコースはあまり

知らない。

非鉄道の橋下里から歩き始めて、「面山を含む」つかのピークを縦走し、同鉄道の長頭に着するコースの標準時間は3時間とされる。今回は倍の5時間を要した。今後のために荷物を背負ったの山歩きであり、笠松山での1時間を含め休憩することが多かったためであるが、それも原因のすばらしさやツバツツジの華麗さを目を奪われ、結果によるもので写真を撮影も最悪の記憶に残る縦走となった。

(東谷 宏)

四月山行報告

8日 黒湯ノ谷(大和柏木)へ。計36点、92%。  
9日 「さくら会」例会案内。野原峠(大東六)。参加員名。  
10日 FIC山ノ辺ハイタ参加。  
12日 「関西地元の会」泉南南山登山参加。  
14日 「大和登山会」大宇陀又兵衛塚と又兵衛墓案内。参加45名。  
20日 「点のついで」黒白石(大和黒石)案内。参加約20名。  
22日 黒岩井谷(大和黒石)。

雨天登れず偵察。

23日 伏見公民館(大和赤松)お別れ会。香清大案内。95名。  
26日 黒田畑(大和赤松)再調査。

30日 黒岩井谷(黒岩井谷)黒山手・黒岩井谷(池原)雨にて登れず、下見偵察。

(上田 伸弘)

4月の例会山行は、昨年と同じく美濃・舟伏山の花標榜となりました。当日、花をつけていた草木は49種。昨年と比べても花が少なくなっています。舟伏山の花標榜は今年も例年より早く、開花期にうまくとタイムリントを合わせられなかつたという点も要因でしょうか。草木たちの勢いが次第に衰えているのは否定できないような気がしてなりません。

ところで、この春から例会山行が増えましたが、これを機会に、私の例会は6月から「自然観察山行」と銘打ち、私なりの山歩きのスタイルで皆さんと歩いてみたいと考えています。  
山野草や樹木、野鳥、昆虫、そして哺乳動物のフィールドサインなどを観察しながら、一方山岳展

望も試み、山の自然を十分に味わいたいという歩き方で、かねてから心の中に温めていたものです。

山の自然を袖染しながらということですから、安全なコースをできるかぎりゆったりと歩き、場合によっては登頂のものにはこだわらないつもりです。

ゆったりと歩くと言っても、必ずしも楽な山行ばかりとは言えません。花があれば立ち止まり、写真撮影をしたりもしますから、30分歩いて5分の休憩とか1時間歩いて10分の休憩というペース配分も崩れてしまうことがあり、山登りの基本からすれば距離ともいうべきで、むしろ緩れのゆる歩き方になってしまつてしまつてしまいます。

今春に掲げた夏の北アルプス山行計画も、そんな自然観察山行となりました。もちろん、高山での数泊の山行ですからペース配分には気を配りますが、可能なかぎり時間的な余裕をもち、高山植物や水河地形、森林限界を超えた山岳の景観などを満喫したいと考えています。

そして、秋からは、再び東海地方の低山の自然観察楽しんでみたいと思っておりますので、こんな白

|   |  |  |   |   |
|---|--|--|---|---|
| 標高2000m 湯上りの温泉<br>湯の丸高層自然休養林<br>ハイキングにXCSキー | 高 峰 温 泉<br>〒564<br>長野県小市町高層温泉<br>電話 0266-2512000 | 日本郵政の温泉(2400m)<br>立山・室伏平<br>みくろが池温泉<br>湯上り 湯の丸<br>〒564-14<br>湯上り 湯の丸 町 湯の丸 3-47<br>電話 0764418211831<br>4/9/11/25は現地の<br>07644185145999 | ハイキングに、スキーに<br>止野温泉 石の湯ロッジ<br>バス 熊の湯温泉床下取<br>電話 0266-9124221<br>東栄本社・東野郡新庄町新庄3-20-5(新庄ビル)<br>電話 ストアーズ キーレス<br>電話 0266-4110211 | 湯の道 千両街道<br>百八十七俵「観音原」<br>ホテル<br>白馬ブランチ<br>〒399-93<br>長野県北安曇郡白馬町いわたけ<br>電話 0266-7214452 |
|---|--|--|---|---|

|  |   |   |  |
|--|---|---|--|
| 春・秋 小グループ<br>白馬の自然案内します<br>白馬ファミリーペンション<br>和 田 森<br>〒399-93 長野県北安曇郡<br>白馬村八方村田屋<br>電話 0266-7215361 | 登山歴20年のオーナーが雪や針の木道、雨降山火打止など<br>針の木道<br>テントキーパー<br>1泊2食付き 6000円から<br>〒399-93<br>長野県北安曇郡白馬村中ちく<br>電話 0266-7212151 | 八ヶ岳山麓北麓の中心地<br>59区夜間温泉(温泉)温泉<br>木の湯(湯治)温泉(温泉)<br>〒399-93<br>4月未、11月未開設<br>電話 0266-7212151 | 北八ヶ岳の湯治地、冬はスキー<br>スキー、夏はハイキング、山<br>木の手づから、北八ヶ岳山麓<br>温泉(温泉)<br>〒399-93<br>電話 0266-6712258 |
|--|---|---|--|



然懸崖山行にも興味をお持ちの方は、ぜひご参加ください。  
(緊要時 守備)

5月のゴールデンウィークに四國の剣山から三嶺に縦走する。初日は雨の中、リフトで西馬場まで上がり、大剣峰経由で雲海まで宿泊。明け方、雨も上がったが、ガスのため何も見えず。天気予報ではきょうは晴れ。5時に山小屋を出発し剣山の頂上へ。何も見えず。次郎坂の頂上に着いた頃より、空には青空が現れる。丸石から高ノ瀬へ。頂上付近の道がはつきりしない。白髪流の分岐の遊覧小屋で昼食。カヤハゲのピークを越え、急な道を三嶺の頂上へと登り着く。今西嶺のペンゼイを三明。山頂での乾燥。この山行で私は三山の登頂を達成。山頂で偶然出会った丁女史と握手。同じ「今西日笠堂」の仲間である彼女から感謝を受け

をやめたのではない。山に登る数を数えることをやめられたのである。自分自身としても二千回年の山歩きを続けてきた。もうこの辺で登った山の数を数えることはやめようと思っている。まだまだ知らない山は数多く残っている。  
(阪上 義次)

5月連休の「石鐘山」山行に参加。ベースにのるまでの歩き始めが痛い私も、鳥越から千石原までの急登もたいして苦にならず。瓶窓の底から湧きだしている冷たい水で喉を潤すと、もう眼前になだらかな高原が開けてくる。大台ヶ原を歩いていくような感覚を見えながら往々森羅上へ着く。女山男山を通過して登山口におりる。千石原取山の日はむむむような岩壁を登られた数人の男性の方に、はめを返してあげたい気持ちでうです。心配していた雨も大したこと

もなく一日目は終わりました。二日目は曇一つない晴天に恵まれ石鐘山をめざして6時に出発。ブナの原生林の中を通り抜けると伊吹山へ出る。山というより広々とした丘である。ここからの眺めがまたいいんだんとすばらしい。眼下に雲海を見下ろし、ふり返ればきのう登った箱ヶ森が静かにこちらを向いている。

前方にはこれからめざす絶大な石鐘山がそびえ立っている。気の遠くなるほどはるかかなたに。今年はずっとたていかに数箇所の谷筋に探検が見られたが、雲海をまたいだのは「箱ヶ森」だけだった。石鐘山に近づくとつれとげとげしい岩肌をむきだしにした山肌を横目に見ながら二の細り場に着く。脚にもあろうか重臣に近い岩壁を、背中の重いリュックも忘れて必死の思いで、短い足を鎖や岩にかけながら登りつめた時は想像を越える思いでした。二重と味わうことのない貴重な体験ができ、良い思い出になりました。一人の後援者もなく40人全員がクリアーできたのも、リーダーの指導さん、即興さんのご指導のおかげでした。(前田 幸子)

### 山行計画 (7・8月)

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるはかばか会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によつて必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話、FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加者負担その他の資料代費を明記することがあります。

山行申し込み後参加できなくなった場合は係に連絡してください。休日の悪い方、幼児と遊び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の際、係に保険料日額500円と救急搬送費日額500円合計1000円(夜行日帰りの場合は2日にわたる日額500円)を支出して頂きます。

損害保険特約内容は次の通りです。(安山火災生命保険会社と契約)

|             |        |
|-------------|--------|
| 死亡・後遺障害保険金額 | 1000万円 |
| 入院保険金       | 5000円  |
| 通院保険金       | 2500円  |

保険の対象は集合時から解散時まで、事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ビートル・6本爪以上のアイゼン・サイクル・ハンマー・ワカンを持参することとを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③次・岩・氷登はんを目的とした山行 ④遊歩場内での事故(詳細は係まで)

(記入例)  
(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号  
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL  
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」を記入してください。

### 山陽自然歩道・小野アルプス (一般向き)

期日 6月29日(日) 日帰り  
集合 JR加古川駅(加古川線 50分乗車)  
8時55分(8時50分乗車)  
コース 加古川駅(電車) 小野町駅(電車) 小野アルプス(徒歩) 加古川駅(電車)  
費用 交通費各自  
地図 2方5千・三木・社保  
申込み 千671-122 姫路市糸原区上余部5-2-11 須藤剛まで

雨空を気にしながら東播磨野を抜け峠へ、小野アルプスでは眼下の山陽自動車道の工事現場を横目に歩きます。

大峰・弥山と八経ヶ岳 (中級向き)  
期日 7月5日(土)~6日(日) 2泊2日  
集合 近鉄大和上市駅より徒歩15分  
コース (5日) 大和(市駅)→タクシー→行首道トンネル→西口(鞍馬)→忠告道第一→弥山→八経ヶ岳→弥山→小

### 山行例会の実施について

山行例会は保険をかけた方、登山届けを提出し、また、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込みんでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも、緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなくご記入ください。申し込みの返信案内は届届が決まり次第、山行日の10日前頃にします。早くから申し込みました方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けます。

記載のグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。

(初心者) やさしいコース  
(初級) やや難しなコース  
(一般) ハイキングの標準コース  
(中級) かなり険しいコース  
(上級) 難関コース  
(登山) 危険なコース  
定員があり、キャンセルや、くんだり長く続くコースと、ご理解ください。

日本唯一の女人禁制の山「大峰山(百鬼山)」の登山口  
橋本・佐々木コースもあり  
温泉・名水の里  
旅館 名水の里  
旅館 名水の里  
1泊2食付 7,000円から  
TEL 06381-004  
奈良県吉野郡天川村河川  
07476-410329

九折の最難関・日本白老山  
宮之浦に一番近い宿  
屋久島登山口  
屋久島グリーンホテル  
TEL 099-1-43  
鹿児島県霧島市霧島  
099-7416332-1

ハイキング・キャンプに  
鈴鹿国立公園  
朝陽谷 あさけ茶屋  
TEL 010-112  
三重県三木郡野町千草  
05033-1931-1789

○「せせりぎ」概は自由投稿です。最新の情報をお寄せください。山行の思い出や感想など、一行の字詰め・20行程度にお書きください。  
新ハイキング関西編集室



屋(泊)

費用 約15000円(タクシー代・宿泊代等)
地図 昭文社「50大峰山脈」
宿泊 弥山小屋
係 ◎村山製後 ◎狩野東彦
申込み 田大群10の10 村田まで

ハイキング入門
金剛山・坊領尾根
期日 7月6日(日) 日帰り
集合 河内長野駅前降バス金

自然観察山行?
北アルプス
期日 7月19日(日)~22日(水)
集合 富山地方鉄道有峰口駅

費用 約33000円(バス代・宿泊代)
地図 昭文社「110大峰山脈」
宿泊 弥山小屋
係 ◎狩野東彦 ◎奥井洋生
申込み 田大群10の10 村田まで

林(解散)

費用 資料代実費(交通費各自)
地図 不換(資料に合せています)
申込み ◎西沢庄一 ◎湯浅次男
田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 7月8日(日) 日帰り
集合 JR京都線西線西のりば
コース 比良駅(電車) 比良駅

のロングコースを歩きます。
有峰口へはJR北陸本線夜行急行「きたぐに」又は「リゾート立

費用 約3000円(交通費京都部から)
期日 7月20日(日) 日帰り
集合 JR各線伊勢奥津駅9時30分

昭文社「46比良山系」

費用 約15000円(近鉄難波駅近交遊費)
地図 昭文社「19木曾駒ヶ岳」
申込み ◎松水恵一
申込み 田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 7月13日(日) 日帰り
集合 近鉄奈良線石切駅西口9時

中込み
〒519-03 鈴鹿市大久保町2065
期日 7月20日(日) 日帰り
集合 永渡寺町江武庵ひろせ酒

費用 約15000円(交通費・バス・宿泊代等)
地図 昭文社「19木曾駒ヶ岳」
申込み ◎松水恵一
申込み 田大群10の10 新ハイキング関西まで

雨天中止

中央アルプス・木曾駒ヶ岳
期日 7月19日(日)~20日(月) 泊2日
集合 JR大津駅前8時15分

費用 約25000円(交通費・バス・宿泊代等)
地図 昭文社「19木曾駒ヶ岳」
申込み ◎松水恵一

希望者は朝前に宝剣岳ピストン可。お花畑の静かな道を伊那へゆつくりくだります。雨天決行

鈴鹿の渓流に遊ぶ1
白滝出合から広沢出合
期日 7月21日(祝日) 日帰り
集合 朝明ヒュッテ前駐車場へ



集合 京都地下鉄北大路駅(出

入口東(貴重堂古物店の  
側) 京都バスのりば9時  
30分

コース

北大路駅(バス)花青高  
原一寺山峠一ノ谷一三  
ノ谷山合一平取山一雲取  
峠一寺山峠一花青高原  
(バス)北大路駅(解散  
16時30分) 山形駅  
費用 約2500円(交通費)  
地図 昭文社「京都府北山」  
係 昭文社 〇藤田光彦  
申込み 〒610-001 盛陽市寺  
田大群10の10 新ハイキ  
ング関西まで

北山を代表する美禊の一ノ谷を  
散策し、急登の三ノ谷をつめて雲  
取山へ。暑さ対策十分に。  
小雨決行

木曜ハイキング懇親会のお知らせ

3周年を向かえた「木曜ハイ  
ク」は30回の例会と参加人数は  
延べ1000名を突破という。  
当初は予想もなかった盛況  
に育てられました。これを記  
念して純涼懇親会を開催しま  
す。

日記

日時 7月24日(内)17時~19  
時

場所 京都地下鉄北大路ビ  
ブルード「ラビータ」

費用 3000円

申込み 官製ハガキに氏名・  
住所・電話・会員番  
号を明記し、〒603  
京都府北区大宮開町  
20の1  
水島周一まで

当日の雲取山ハイク参加者  
で懇親会に出席する方も右の  
山行申込みとは別便で申し込  
んでください。晴雨とも開催

京都北山歩き54

八ヶ峰 (一般向き)

期日 7月27日(日) 日帰り

集合 京都駅八条西口近鉄改札  
前7時30分

コース 京都駅(バス)八原一知  
井坂峠一八ヶ峰一五葉峠  
一五葉谷(緑蔭温泉)田代(バ  
ス)京都駅(解散19時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 昭文社「京都府北山」

係 中西道行

申込み 〒610-001 盛陽市寺  
田大群10の10 新ハイキ  
ング関西まで

若丹園隣接の八ヶ峰周辺を歩  
きます。後継は歩きやすく感度も  
良い。小雨決行

比良・梅現山から蓬萊山  
(一般向き)

期日 8月3日(日) 日帰り

集合 京都出町柳駅京都バスの  
りば8時

コース 出町柳駅(バス)平一ア  
ラキ峠一梅現山一ホッケ  
山一小女郎峠一蓬萊山  
(リフト) 滝平一木戸峠  
一クワトロノハゲ一夫婦杉  
一JR志賀駅(解散)

費用 約3000円(交通費)

地区 昭文社「比良山系」

係 村田智徳

申込み 〒610-001 盛陽市寺  
田大群10の10 村田まで

自然観察山行  
北アルプス  
双六岳から五ヶ岳  
(やや難向き)

期日 8月3日(日) 5日(祝)

集合 新穂高温泉バスターミナ  
ル5時

コース (3日) 新穂高温泉バス  
ターミナル一ウツギ平一  
猿平一与野峠一双六小屋  
(宿)

(4日) 双六小屋一双六  
岳一双六小屋一ラ新岳一  
抜戸岳一笠ヶ岳山荘(宿)

(5日) 笠ヶ岳山荘一笠新  
穂一新穂高温泉(解散)

費用 約20000円(宿泊代  
等)※当日徴収

現地までは各自負担

地図 昭文社「高山地・槍・  
穂高」

係 〇鷺見守康 〇藤井幸生

申込み 〒504 岐阜県各務原市  
飯原村原町1-19-5  
鷺見まで

定員20名

高山植物の種類豊富と秀麗な笠  
ヶ岳からの槍・穂高連峰の展望を  
楽しみます。  
新穂高温泉バスターミナルへは  
名鉄サマーバル新穂高号(名鉄バ  
スセンター22・30発。予約を数字予

約センター ☎052-566-113  
731) を利用可又は前日現地泊。  
マイカーは有料駐車場(1日50  
0円)あり。

申込ハガキには集合方法も明記  
のこと。雨天決行

白山と三方岩岳

(やや難向き)

期日 8月13日(例)夜発、16日出

3泊4日(五中一泊含)

集合 13日京都駅八条西口近鉄  
改札付近2時

コース (13日) 京都駅(バス)  
(14日) (バス) 大白川  
登山口一六ヶ山一室堂平  
野電ヶ原(泊)

(15日) 南電ヶ原一室堂  
堂一千蛇ヶ原一大滝峠一  
七ヶ山一清浄ヶ原一小椋  
平一美ヶ新道一新穂高温  
泉(宿)

(16日) 新穂高温泉(バ  
ス)三方の岳駐車場一三  
方岩岳一駐車場(バス)

白川郷合掌村(昼食・見  
学後バス) 京都駅(解散  
19時頃)

費用 約3000円(バス代・  
宿泊代等)

地図 昭文社「白山」

宿泊 (14日) 南電ヶ原  
(15日) 新穂高温泉(山  
崎旅館)

係 〇村田智徳 〇加藤元彦

申込み 〒610-001 盛陽市寺  
田大群10の10 村田まで

定員25名(会費に販る)

白山の大自然のなを歩き、秘  
湯新穂高温泉に浸ります。道途中  
は三方岩岳に登り、白川郷合掌村  
を見学します。雨天決行

鈴鹿の渓流に遊ぶ?

広沢出合から谷原谷までワサ  
ビ峠へ

期日 8月17日(日) 日帰り

集合 朝明ヒュッテ駐車場へ  
7時

コース 朝明一広沢出合一谷原谷  
出合一ワサビ谷出合一オ  
ノ谷一坂ノ平峠一朝明  
行のため集積対象外)

費用 交通費各自(\*沢歩き山  
行のため集積対象外)

地図 5方一面を所山

申込み 〒610-001 盛陽市寺  
田大群10の10 新ハイキ  
ング関西まで

谷の樹林に鈴鹿のすばらしい空を

清々します。吹き抜ける風に乘っ  
て悠々の時を思う。雨天中止

京都北山歩き55

足尾谷から八丁平温泉  
(山坂向き)

期日 8月24日(日) 日帰り

集合 京都出町柳駅京都バスの  
りば8時

コース 出町柳駅(バス)足尾谷  
ローンボクリ谷出合一ニ  
ノ谷一依坂峠一クラガリ  
谷一八丁平温泉一中村乗  
越一伊賀谷一中村(バス)  
出町柳駅(解散)

費用 約3000円(バス代)

地区 昭文社「京都府北山」

係 〇村田智徳 〇比呂裕英

申込み 〒610-001 盛陽市寺  
田大群10の10 村田まで

涼しい足尾谷を歩きます。足尾  
谷は雨が多い。小雨決行

鈴鹿を歩く33

元蔵谷 (難向き)

期日 8月24日(日) 日帰り

集合 477号線元蔵谷林道入  
口8時30分

コース 林道入口一元蔵谷林道一

期日 8月3日(日) 5日(祝)

2泊3日

集合 新穂高温泉バスターミナ  
ル5時

コース (3日) 新穂高温泉バス  
ターミナル一ウツギ平一  
猿平一与野峠一双六小屋  
(宿)

(4日) 双六小屋一双六  
岳一双六小屋一ラ新岳一  
抜戸岳一笠ヶ岳山荘(宿)

(5日) 笠ヶ岳山荘一笠新  
穂一新穂高温泉(解散)

費用 約20000円(宿泊代  
等)※当日徴収

現地までは各自負担

地図 昭文社「高山地・槍・  
穂高」

係 〇鷺見守康 〇藤井幸生

申込み 〒504 岐阜県各務原市  
飯原村原町1-19-5  
鷺見まで

定員20名

高山植物の種類豊富と秀麗な笠  
ヶ岳からの槍・穂高連峰の展望を  
楽しみます。  
新穂高温泉バスターミナルへは  
名鉄サマーバル新穂高号(名鉄バ  
スセンター22・30発。予約を数字予

元蔵谷一仏谷一左保一大  
岩一水沢峠一元蔵谷林道  
一林道入口(解散)

装備 深溝シューズか地下タビ  
・ワラシ必携

費用 交通費各自(\*沢歩き山  
行のため集積対象外)

地図 昭文社「45御在所・兼  
ヶ岳」

係 〇藤野 明 〇山本久雄

申込み 〒610-001 盛陽市寺  
田大群10の10 新ハイキ  
ング関西まで

\*マイカー山行  
定員20名

緑の深い峠や滝、そしてナメジ  
を歩く。雨天中止

ハイキング入門?

京都北山一十三石山  
(初心者のための)

期日 8月24日(日) 日帰り

集合 京都地下鉄北大路駅京  
都バスのりば8時40分

コース 北大路駅(バス)市の南  
一十三石山一渡船峠一水  
室一船山一玄塚(バス停  
(解散)

費用 資料代実費(交通費各自  
不要)(資料に含まれてい



（予定）

係 ⑥西沢次男  
申込み 平尾水曜ハイクル  
田代山10 新ハイキ  
ンク関西まで

これからの山歩きを始める人のた  
めの野外講座です。山歩きの基礎  
をお教えします。筆記用具・磁石  
持参のこと。雨天中止

平日水曜ハイクル  
比良・八洲の滝から東海沿

期日 8月27日(日) 日帰り  
集合 J 氏京都駅南口西側のりば  
7時30分(7時37分発近  
江今池行きに乗車)

コース  
京都駅(電形) 近江高島  
駅(バス) ガリバー青少年  
旅行村(八洲の滝) 北  
比良峠(釈迦尊) 大津ワ  
ンク道下(イン谷口) (バ  
ス) 比良駅(解散)

費用 約4000円(大飯を多  
地 昭文社) ④比良山系一  
係 ⑥西沢次男 ○前山 昇  
申込み 田代山10の10 新ハイキ  
ンク関西まで

（定員40名(公費に限る)）

鴨川源流にかかる八洲の滝は日  
本の滝100選に入っています。  
滝壺めぐりを楽しみ釈迦尊から大  
津ワケル道(八坂あり)をイン  
谷口へくだります。小雨決行

紀北・田代峠から飯盛山  
（中級向き）

期日 8月31日(日) 日帰り  
集合 JR橋本駅1番ホーム8  
時32分発初秋山行に乗車  
（南海高野線難波駅発7  
時30分発初秋山行行きが  
便利）

コース  
橋本駅(電形) 初秋山行  
一本松(田代峠) 桂樹分  
岐(飯盛山) 飯盛城(飯  
盛山) 在(麻生峠) JR  
名手駅(解散)

費用 約3000円(南海難波  
駅起点交通費)  
地図 2万5千1:10000 龍門山  
係 ⑥西沢次男  
申込み 田代山10の10 新ハイキ  
ンク関西まで

紀ノ川沿いに秋を求めて、龍門  
山系を縦走します。南土朝の古戦  
場を訪ね、高野道をくだります。  
小雨決行

### 山行報告 (3・4月)



新ハイキングクラブ関西

3月2日(日) 曇り時々晴れ  
新狹野山行 9・02(バス) 慈光院  
前 9・17 30 矢野山小学校 10・  
00 15 松原寺 10・40 55 秋鹿  
山 11・15 20 区界台 11・40 50  
1 庄池 12・15 (昼食) 13・15 1  
矢野寺 13・30 35 東明寺 14・35  
15 追分橋 14・40 45 山  
手バス停 15・15 (解散)

春近しを予感させる暖かな一日  
点在する名刹・古刹を初ねながら  
地形図とコンパスの使い方を勉強  
した。七分咲きの追分橋林を登で  
て第20回目を締めくくった。  
（参加者）河井典子 伴伊富美子  
古川裕子 阿部智子 森本正雄  
松岡好子 芝野泰明 森川みさお  
入江武夫(前山) 藤本ミキキ  
前田政雄 梅田久子 藤原孝子  
葵 銀子 北川良子 田中三恵子  
川端治治 川端孝子 ○中村 登  
◎原本一彦 (計21名)

丹波・牛松山  
（平日ふれあいハイクル）  
3月4日(日) 晴れ  
JR橋本駅 9・50 登山口 10・20  
1 30 牛松山金剛寺神社 11・40  
(昼食) 12・40 区界台 13・13  
40 14・00 地蔵院 16・00 解散  
坂かな好天に恵まれ、これから  
登る牛松山を眺め、山道からは眼  
下に池間の街を見下ろし、四分愛  
守神社ではめずらしいムササビの  
新巻をみた。

（参加者）中山光郎 中上智代子  
上田幸子 川端孝子 安田文雄  
阿部智子 前田政雄 中村英雄  
田代山10 大本久子 中村英子  
新巻孝子 藤井孝子 原 佐枝子  
大橋元雄 立川郁夫 板田英輔  
藤原智子 若木修一 比 野 一 郎  
下西 和 白根孝子 吉田ソノ子  
白根孝子 藤 孝子 藤原孝子  
山口つや 純田公世 辻 行子  
松山浩三 中沢英美 御田信子  
木村太郎 藤本正雄 藤本正子  
中山茂子 矢倉ひら 藤原白台子  
辻 克子 武田幸子 江村直子  
村橋一雄 栗原靖子 武部美奈子  
井川陽子 岡田登美 ○水井哲男  
◎川上久登 (計40名)

00 西野山行 17・30 (解散)  
最後の公道を自分ながら頭陀の窟  
へ登る。仏陀の真のようなサザレ  
岩が印象的だった。福寿草の群生  
地を登り登子。お昼のおでこから  
各自のスタイルで下山した。  
（参加者）藤本一夫 山田明男  
小田妙子 宮田信子 藤原まき子  
上川敏子 橋岡孝子 鈴木 楠  
永戸哲治 谷 久雄 古川浩一  
今岡民代 金原時男 白井はるみ  
藤原計臣 ○中村健治  
◎木村克秀 ◎前山治治 ◎藤本孝  
北山・羅摩山から大原  
3月13日(日) 晴れのち曇り  
戸手バス停 9・00 茨谷峠 9・55  
1 龍潭山 10・15 江文峠 11・50  
(昼食) 13・40 龍潭山 13・50  
1 家原山 14・20 大原(登山公園)  
15・40 (解散)

初夏やかな早春の陽光のもと、龍  
潭山から登る龍潭を縦走した。  
龍潭山のくだり道ではマンサツの  
花が我々を出迎えてくれた。龍足  
の一日だった。  
（参加者）城月廣幸 橋本賢一 郎  
北川史枝 宮坂健彦 水見高砂子  
中村将一 川藤佳彦 堅田美奈子

3月9日(日) 晴れ  
J 氏山城多喜町 10・20 秋鹿の  
登山口 11・15 20 大原 11・40  
(昼食) 12・30 龍王滝 13・00 5  
10 ホテル公園 13・45 14・00

3月9日(日) 晴れ  
山麓山系縦走行 9・45 (バス)  
山麓山 05 山麓山麓 10・55  
(昼食) 12・45 1 刀匠 13・

大峰・洞川から大天井ヶ岳  
3月9日(日) 晴れ  
近鉄下市口駅 9・15 (タクシー)  
登山口 10・50 五雲関 11・40 大  
天井ヶ岳 12・30 (昼食) 13・10 洞  
川スキー場 14・10 洞川バス停  
15・10 (解散) バス 下市口駅へ  
洞川より奥の車道が凍結でタク  
シーは丹波川下まで進大できなかつ  
た。急をにづらぬ道を歩かずとも根  
道で歩くラッセルが山頂まで  
下山はよむと少く難航したが、  
予定時刻より早くバス停に着くこ  
とができた。

（参加者）矢野 晃 西上利和  
前田政雄 竹田英美 橋井 徹  
橋井孝子 金藤節子 久保山順一  
家人敏光 龍田久子 安田文雄 江  
島 桐子 小林 昇 小林 圭  
松井徳水 加藤佳彦 古川裕子  
川中 保 池田三郎  
◎原本一彦 (計20名)

3月9日(日) 晴れ  
山麓山系縦走行 9・45 (バス)  
山麓山 05 山麓山麓 10・55  
(昼食) 12・45 1 刀匠 13・

3月9日(日) 晴れ  
山麓山系縦走行 9・45 (バス)  
山麓山 05 山麓山麓 10・55  
(昼食) 12・45 1 刀匠 13・

（参加者）芝野泰明 橋本賢一 郎  
河井孝子 松山浩三 松山英子  
入江武夫 秋山 純 塚山英子  
堅田英夫 松岡好子 倉本ミツエ  
大谷孝子 渡辺謙一 広田不佐子  
内本長子 新治信子 若本いすく  
木寺直子 池 知浩 池 れい子  
藤林信子 高木 器 高木美津子  
多野園二 多野久子 東 美智子  
中坊健代 植田健子 西ノ宮順子  
中坊一枝 森田 海 藤原紀美代  
高橋孝子 中坊 博 田中かね子  
田中健生 柳田孝子 ○藤本孝  
◎川上久登 (計42名)

山頂からの大展望を楽しみま  
くりに下山した。歩き方をすこし講  
習した。ほぼ全員が龍潭の西谷集  
林へ足をのびしるのびりと遊んで  
帰路についた。  
（参加者）芝野泰明 橋本賢一 郎  
河井孝子 松山浩三 松山英子  
入江武夫 秋山 純 塚山英子  
堅田英夫 松岡好子 倉本ミツエ  
大谷孝子 渡辺謙一 広田不佐子  
内本長子 新治信子 若本いすく  
木寺直子 池 知浩 池 れい子  
藤林信子 高木 器 高木美津子  
多野園二 多野久子 東 美智子  
中坊健代 植田健子 西ノ宮順子  
中坊一枝 森田 海 藤原紀美代  
高橋孝子 中坊 博 田中かね子  
田中健生 柳田孝子 ○藤本孝  
◎川上久登 (計42名)

山麓山系縦走行 9・45 (バス)  
山麓山 05 山麓山麓 10・55  
(昼食) 12・45 1 刀匠 13・

山麓山系縦走行 9・45 (バス)  
山麓山 05 山麓山麓 10・55  
(昼食) 12・45 1 刀匠 13・



田沼三郎 奥原孝子 扇見隆子  
血原清男 血原賢子 内海幸三郎  
寺本幸男 若木善一 吉田ノノ子  
藤田政雄 山下幸子 藤見千恵子  
北原政雄 山本幸子 郡司喜八郎  
郡司良江 今西光男 右近八郎子  
古川裕子 高木 田 山本千鶴子  
浦上 明 川上久盛 中村佐代子  
戸根 茂 芝野善明 松木いづ子  
光川 英子 ○西上利和  
○水見貞一 ○前中 毅

北神戸・シビレ山と丹生山  
3月16日(日) 曇りのち晴れ  
新開駅まで、58(電車) 忠比寿駅  
(バス) 橋尾不坊口10・20・シビ  
レ山11・42(昼食) 12・20・丹生  
神社13・00・重積山13・46・神社  
前バス停15・10(解散)

前後の雨が朝まで残り天候があ  
やふまれたが、午後3時を信賴し  
て出発。途中の展望に歓声をあげ  
ながらハイキングを楽しんだ。  
(参加者) 今村 眞 馬籠孝男  
橋村豊彦 船越利明 船越より子  
中村豊吉 岡田 昇 岡田恵美子  
近藤 恭 小田郁夫 石田豊美  
伊藤佳子 小田理子 平敏英子  
眞田久子 小西雄雄 菊池すみ子

福井清之 青根 清 大寺泰雄  
木寺貞子 堀 久子 広田不佐子  
大谷英子 浅田俊男 原田美香子  
古川裕子 秋田英樹 原 佐美子  
城戸幸幸 青木一雄 岡田フミ子  
野口 修 西上利和 増田フミ子  
今津吉司 佐田次男 足立佐智子  
三木貞子 村上孝代 中井ひろみ  
西島 正 川上重代子  
○井上 保 (計14名)

雨乞岳(鈴鹿を歩く24)  
3月16日(日) 曇り時々小雨  
かもしか荘8・35(車) 大納言谷  
入口9・00(雨足板)・55(ピー  
ク) 9.6.6.10.40(雨脚) 11・  
35(雨) 11.45(昼食) 12・25  
1. 雨脚 2. 雨 3. 雨 4. 雨 5. 雨  
6. 雨 7. 雨 8. 雨 9. 雨 10. 雨  
11. 雨 12. 雨 13. 雨 14. 雨 15. 雨  
16. 雨 17. 雨 18. 雨 19. 雨 20. 雨  
21. 雨 22. 雨 23. 雨 24. 雨

大納言谷から南麓根に登るとマ  
ンサタの花が待っていた。登ると  
つれづれガスを変わり風はなかつ  
たが、白一色で幻想的な情景の南  
麓根をたのしみ、そして清水ノ頭  
尾根をたのしんだ。  
(参加者) 山形 明 谷 久雄  
大谷英子 近藤英夫 高村博三郎  
山田雄三 渡野 健 高杉 博

河辺敏男 明神成行 池田彦雄  
池田繁英 奥田良雄 小林 実  
○野野 明 (計15名)

北原・箕面の森  
(ハイキング入門2)  
3月15日(日) 曇り  
千里中表駅(バス) 栗生外院一勝  
尾寺町石堂一 藤崎ヶ峰(ビジター  
センター) 天上ヶ峰 箕面南上阪  
急ぎ面駅(解散) \*タイムとミツ  
(参加者) 松田好市 山下知幸子  
細井和子 頭崎隆子 石丸富太郎  
石丸英子 木村太郎 村井 武

3月20日(日) 晴れ  
北大路駅まで、50(バス) 出丸橋・  
30ノ水谷入口10・30ノ水  
谷11・10ノ二ノ瀬ユリ道11・45  
(昼食) 12・30ノ夜流峠12・45ノ  
向山13・15ノ美雲所13・50ノ西  
段車庫14・50(解散)

新緑は今ひとつ早い山登り。  
樋ノ水谷からササこまで峠へ、二  
ノ瀬ユリ道からは比叡の山々を見  
て、夜流峠から向山のくんだり道は

マンサタやミツバツツジを見て爽  
しいハイキングでした。  
(参加者) 奥村茂一 川崎繁子  
水見隆一 戸根 清 石川賢一  
加藤建彦 前田政雄 郡司喜八郎  
郡司良江 井川敏一 藤田光彦  
南 寛子 木村太郎 吉田喜美子  
村上幸子 辻 仁子 竹内英久子  
白根清子 武部 剛 中島美起子  
大橋清孝 田中幸幸 上杉紀子  
岡原生夫 吉田幸子 田原啓司雄  
藤井孝子 奥村洋子 中津吉五郎  
尾井昌子 杉村安次 橋本久夫  
林 合子 永井哲男 船尾八重子  
中山光輝 堀 久子 岡崎なか乃  
北川文子 三川理子 平井佐代子  
吉月時子 新田朝子  
○西光男 (計14名)

3月23日(日) 曇り後晴れ  
国道168号線飯高野球場・飯高  
道の駅駐車場まで、45(車) 奥橋本  
登山口10・15ノ林道・三野局ヶ岳  
線登山口10・35ノ八ノ平11・50ノ  
三峰山12・00(昼食) 12・35ノ新  
道峠(ワサビ峠) 13・15ノ月見池  
林道登山口14・00(三峰局ヶ岳線  
登山口) 14・14・52ノ奥橋本  
登山口15・15ノ25(車) 赤桶・水

あきらめ早々にブナ林の尾根をく  
だった。奥の平では尾根線が上がっ  
ていた折んなもはっとひと息。  
畑元ではサクラの開花が始まっ  
ているこの時期に山の散しさを身  
をもって体験することができた。

原神社・天然記念物のクスノキ見  
学(車) 飯高道の駅16・00(解散)  
車上付近の樹木を期待していた  
が残念ながなかった。しかし気温は  
低下、風も強かったし、きょう24  
日は鈴鹿山脈では雪もちらついた  
から、もしかしたら今度は樹木の  
花が咲いているかも知れない。  
(参加者) 木村好和 岡田和洋  
高杉 博 奥井幸生 岡本美子  
小林 佳 小堀孝男 川本 隆  
山本雅子 高橋北人 ○尾崎英五  
○福井英夫 (計12名)

3月23日(日) 晴れ  
JR岐阜駅まで、50(車) 中濃総合  
庁舎まで、30(車) 高野の森登山口  
10・20ノ40ノ不助の岩屋11・15ノ  
25ノ御坂峠11・50ノ高野山12・25  
(昼食) 13・30ノ不助の岩屋14・  
15ノ30ノ高野の森登山口15・10  
(解散)

林道工事などの都合で、社田登  
表の御坂峠を期日・コース共に変  
更し高野山に行きました。  
高野山に行き、暖かな日差しが  
もたらす、真っ白な白山 熊野白山、  
熊野の滝登山 平家坂、近くに熊  
野の滝登山 今瀬ヶ岳などの展望

を築き、若吹き前の自然林には  
キリン・ダンコウバイ・マンサク・  
コウヤシロスキなどの樹木の花。林  
間はシロシロコウバカバマ・タチ  
ツボシロ・ミヤマカクバ・キ  
クザキイチゲなどが見られました。  
(参加者) 金藤助子 前 三代子  
井上英子 田辺英子 林 和祐  
藤岡輝子 田井孝子 長比谷英  
小田妙子 中川隆子 渡辺英一  
稲本芳雄 成田五可 吉敏英次  
谷 久雄 森川信之 林 茂  
野野東彦 堀 良男 藤井建彦  
○奥井幸生 ○宮見守康(計12名)

3月23日(日) 曇り  
小文谷林道分岐広場9・05ノノ  
坂9・40ノ秋葉広場9・55ノ土  
合原10・40ノ土合所11・00ノ奥  
の平11・35ノ奥の平中央11・  
50(昼食) 12・30ノ十字原根取付  
口12・45ノピーク9ノ8ノ14・00  
1. 御池秋道14・50ノ小文谷林道分  
岐15・15(解散)

御池林道から琵琶の御池を南側  
(鈴鹿を歩く25)  
低気圧が近づき強い風と強いガ  
ス。奥の平は晴れ間ほとんど消え  
ナナヤぶが広がっていた。前進を

山崎聖天の塔と御谷観音  
(送末ハイター)  
4月6日(日) ○野野東彦  
雨天のため中止しました。

3月23日(日) 晴れ  
大津・天和山から蓮山  
4月6日(日) ○福本勇作  
雨天のため中止しました。

雲山山西南尾根新ルート  
(鈴鹿を歩く26)  
4月13日(日) 晴れ  
河内の寺尾広場まで、35(車) 今瀬  
登山口8・45ノ野崎9・35ノ江  
原登山口10・30ノ南宮10・50ノ新  
池11・30ノ雲山山11・30(昼食)  
12・30ノ最盛12・45ノ寺尾12・  
55ノ近江原登山口14・15ノ今瀬登山  
口15・40(解散)

登山口にはミヤマカクバの白  
い花が咲き、西側尾根からは開放  
感あふれる眺望を楽しんだ。新ル  
ートの池と尾ノ峠への折り返しを  
福壽草が北斜面に大群生で咲いて  
咲き乱れていた。その中にキクザ  
キイチゲの白い花、芽を出したバ  
イケインクなど新ルートは忘れら  
れないすがすがしい思い出の山行に  
なった。



古川清一 今國民代 落合ひろ子  
上川静子 富田伸子 豊田貞雄子  
廣野 健 ○岩野 明 (計25名)

生駒山系徒歩35名  
4月13日 晴れ

JR四條線 8・05 四條線神社  
8・30 成山山 9・00 吉池 9・  
40 生駒山 11・45 (昼食) 12・  
15 奥川峠 13・20 十三峠 14・05  
高安山 15・00 信濃山 15・25  
高尾山 17・25 参道入口 17・50  
(解散) 一近鉄地下駅 18・00

60名が参加し57名が完登した。  
ヤマザクラが終始元気なついでに  
た。健脚者揃いでかなり速く歩き  
予定タイムより早く到着できた。  
(参加者) 野村東彦 馬籠忠男  
堤 良男 本間俊次 立川華夫  
宮松雅子 榎本芳雄 生坂はるみ  
川崎敏子 川崎龍治 北川文子  
乙野龍雄 藤野正治 前田政雄  
桑本和子 勝田治夫 勝田昌子  
加藤元彦 野口 修 藤沢敏次郎  
真田明子 木村忠一 高橋ゆり子  
武部 剛 入江武史 青木美津子  
松崎哲雄 守本 至 熊木泰雄  
森川正之 村井 武 瓜取利明  
井ノ久子 藤本 大 井林好泰子  
奥村誠治 吉澤孝次 佐賀章一

井川敏一 阿部邦彦 中笠古五郎  
松田好子 吉田宏宏 藤井隆雄  
柴村三枝 伊藤勇男 松田昌八郎  
木村太郎 佐田正勝 中井ひろみ  
則定保夫 安台正勝 野田美奈子  
出口淑次 林 裕子 高橋美代子  
○長比谷英夫 ○高川清子  
○久保勝子 ○村田智俊 (計25名)

比較山・登母坂から戸等  
(水曜・イタ8)

4月16日 晴れ  
出町通り 9・00 電車 鎌倉駅 9・  
20 雲霞坂口 9・50 ケーブル比  
叡駅 11・15 大比叡 三角山 11・50  
(昼食) 12・40 赤池山 15・25 水  
玉杉 14・00 横高山 14・15 水  
井山 14・30 切木峠 15・10 戸等  
バス停 16・00 (解散)

平均気温を5℃も下回った晴れ  
の日で、春にはめずらしい遠望が  
利き、北山・比良・琵琶湖の眺め  
を羨しながらいっせいで進んで来た。カタ  
クリの花が一輪だけ道端に咲いて  
いた(踏まないように……)  
(参加者) 馬籠忠男 堅田美奈子  
松山みつ 富田 努 草野智子  
中村智香 前田政雄 小林伊佐子  
山下恒三 高坂好子 田畑二郎  
井川勝子 矢代好子 山田茂子

細井和子 中村啓一 秋田英穂  
石田芳弘 若木隆一 吉田ソノ子  
高木 晋 高沢公二 成川みさお  
血原清明 血原智子 砂原美奈子  
山岸隆雄 眞野敏子 邊見千恵子  
富田慶子 藤井裕子 辻 嘉一郎  
竹島淳郎 松村雅子 右近八重子  
真田久子 平敏英子 千枝千枝子  
田口富子 明峰成行 菊池すみ子  
木村太郎 久野睦子 中川芳治  
高塚清介 浦上 明 仲次郎子  
白根清子 辻 行子 青木一雄  
兼田幸子 渡田 京 長山繁二  
○高田 昇 ○湯浅次男 (計25名)

甲州・大善橋橋  
4月19日(中) 20日(日) 泊2日  
(19日) 曇り JR大津駅 8・30  
(バス) 塚山磐石登山口 14・00  
14・15 14・30 磐石山 14・45 14・50  
16・00 16・10 杉ヶ丘 16・20 (前)  
20日 曇り 福ちゃん荘 6・35  
一大善橋 7・20 40 神成寺 8・  
00 大善橋 8・30 40 丸川峠  
9・30 45 六本木峠 11・00 柳  
沢峠 11・45 (バス) 磐石 12・15  
(昼食・入浴) 14・00 (バス) 大  
津駅 19・15 (解散)

あいにくの曇り空で展望は全く  
なく、峠はすでに横花が終わり、

明るく春の日差しを浴び、新緑  
の中を歩いた。野に咲く花と道端  
の山菜採りで一日を楽しんだ。

(参加者) 狩野東彦 本間俊次  
船橋利明 立川華夫 奥野忠子  
榎本芳雄 前田政雄 野里マツコ  
金森節子 竹田英美 小林はなえ  
山野 貞 鎌方由子 佐賀章一  
真田明子 真田久子 平敏英子  
秋田福郎 坂本和幸 依田喜久治  
多賀田二 梅田久子 松井徳水  
佐藤重成 城戸 勝 黒澤ゆり子  
長谷川恵子 ○船越みよ子  
○奥村誠治 (計20名)

城山から安土城跡 (雑談のみ21)

4月20日 晴れ  
JR安土駅 9・20 南橋 9・50  
一石寺 10・18 25 日吉神社 10・  
30 藤原寺 11・00 15 藤原寺  
35 40 桑太寺分岐 11・55 桑太寺  
12・55 北原 13・30 40 安土  
城跡 14・30 40 安土城跡 15・20  
(解散)

西国32番札所の観音正寺に詣で  
たのち2等三角点の城山に登り、  
琵琶湖と近江平野を眺めて地形図  
とコンパスの使い方を学習。さら  
に「日本史」の夢を覚める安土城跡を

訪ねて21回目の山行を終えた。

(参加者) 小林和郎 山岸隆雄  
中井 博 中井裕子 浅田登美子  
神 伸 福里謙吾 滝田フミ子  
川北浩史 甲本健子 滝田のぞみ  
嶋津恵子 細井裕子 中笠吉五郎  
里井昌子 原田清弘 前田幸子  
北川昌子 高月ミチヨ  
○中村 登 ○塚本 一彦 (計20名)

京都北山・西栗駒山

(ハイキング入門3)

4月20日 晴れ  
JR京都駅(バス) 登山口バス停  
一乗院山 寒谷峠 江文峠 大  
原バス停 (解散) \*タイムとらさ  
金沢山の子定を変更して西栗駒  
山に登った。

(参加者) 江尻節子 副崎なかつ  
吉村静子 木村太郎 石丸孝太郎  
石丸孝子 田中由美 三浦敏宏  
小関伸枝 内本良子 船田八重子  
東 美知子 ○湯浅次男  
○西沢 二 (計14名)

産生・大洞山から三峯宮の桜

4月20日 晴れ

11・20 大洞山 12・00 大洞  
山 麓 12・20 (昼食) 13・25 枯  
柳 13・40 三多気キャンプ場 14・  
15 30 三多気 14・45 (林  
道) 15・40 杉平 15・50 (バス)  
名張駅 16・45 (解散)  
大洞山からは大洞宮を参した。  
「三多気の桜まつり」が行われて  
いたが、すでに今年は一週間遅く  
葉桜を肌物した。でも桜の名所の  
雰囲気はあり、ヒールで各々花見  
気分を味わった。

(参加者) 佐藤俊哉 橋本貴二郎  
池田鈴子 川中 保 山下知余子  
加藤正彦 田中 誠 田中善美江  
塚内順子 塚内繁世 浅田俊男  
伊藤佳子 武部 剛 武部美奈子  
岩城恵子 中川英雄 西田美津子  
中村静香 人見正信 松崎野雄  
高木 雪 瓜取利明 高木美津子  
石田和祐 井上女子 林 茂  
林 和祐 西上利和 海野千恵子  
小嶋正男 若木修一 吉田ソノ子  
寺本幸男 下西 純 血原清明  
血原智子 古川裕子 高木忠夫  
上比呂美 岡原史夫 白根清子  
辻 行子 入江武史 松田好市  
尾本善治 尾本孝子 若木いす  
藤 恵子 佐藤 英 橋本喜久夫  
林 合子 杉村英代 高橋静子

桜は花付きのさびしい七分咲き。  
しかし神成寺付近では時ならぬ霧  
水の花盛り、六本木峠では桜イチ  
ゲの行列に一同大よろこび。期待  
したものは全て大よめで、予期せぬ  
ものが美しかった。

(参加者) 安台正勝 井林好泰子  
永田博美 中川光郎 村井 武  
深井幸生 青木一雄 三井三枝  
横井 敏 高橋敏治 熊木泰雄  
上田重子 高橋清英 山上紀代子  
奥田貞雄 布加清英 山上紀代子  
家人敏光 家人麗子 山崎多恵子  
森川信之 岡田 昇 岡田忠美子  
阿部雅彦 竹田利夫 安田文美江  
永井敏男 佐田次男 城月純幸  
横田昌彦 富岡豊子 野口 修  
渡辺隆郎 新江孝子 大原敏雄  
○山岸清治 ○湯浅次男 (計27名)

泉州・南麓城山

4月21日 晴れ  
南海線見取駅 8・50 越ヶ渡分岐  
9・00 10 三合目 9・40 50 1  
岩山分岐 10・20 殊入分岐 10・  
50 11 00 広場 11・10 (昼食)  
12・00 南麓城山 12・20 25 4  
等三角 12・30 35 1 峠ノ木タオ  
12・50 大洞山 15 25 1 野野 14・  
16 17 JR妙寺駅 15・38 (解散)

松本春代 森島 満 森島紀美代  
中坊利代 大本 勝 大本久子  
新治節子 今西吉男 中路加代子  
内田茂茂 黒河内重洋明  
○則定保夫 ○村田智俊 (計20名)

河内源氏の里を訪ねて

(文芸歴史散歩5)

4月20日 晴れ  
JR京都駅(バス) 登山口バス停  
一乗院山 寒谷峠 江文峠 大  
原バス停 (解散) \*タイムとらさ  
金沢山の子定を変更して西栗駒  
山に登った。

(参加者) 本間俊次 宮野敏彦  
橋村隆雄 加藤佳彦 川崎敏子  
佐藤春彦 藤 久子 野口 英  
前田政雄 石田善美 井川敏一



須田美子 中村真雄 上田正嗣  
 王様子 奥村清一 中上紀代子  
 大蔵清栄 小山晴夫 井森秀泰子  
 高木忠夫 戸根 茂 竹内静久子  
 入江武史 芝野泰明 宮村孝次郎  
 梅田公子 和田真樹 増田フミ子  
 秋田博輝 松田好市 下村啓子  
 上田重子 浦上 明 岩城豊子  
 松山河津 松山みつ 聖田美奈子  
 里井邦雄 里井昌子 宮村泰喜  
 岡山三三 ◎西五男(計3名)

築港・舟伏山

4月27日(日) 晴れ  
 美山町跡跡9・00(重) あいの森  
 駐車場9・20(重)あいのわ平11・  
 25(重)舟伏山12・10(重)13・  
 10(重)舟伏一あいの森駐車場15・  
 15(解散)  
 終日皆空に恵まれ、舟伏山のフ  
 ラワートレッキングを楽しみました。  
 カタクリ・イワザクラ、各種  
 スミレなど、花を咲かせていた草  
 木は50種でした。  
 (参加者) 稲田功子 小山妙子  
 金森節子 狩野東彦 大村約忠  
 小室 学 田中順子 久保田英次  
 岡辺忍子 谷 久雄 小島フジ子  
 岡井克治 堤 貞男 豊田貞理子  
 西河泰治 林 弘毅 松平 武

森山信之 横井 敏 横井善子  
 田中淳子 安田文美江  
 ◎奥井幸生 ◎賢見守康(計2名)

銚子ヶ口と水舟の池

(鈴鹿を歩く27)  
 4月27日(日) 晴れ  
 神崎越広場8・35(尾根9・35)  
 須谷川源流分岐10・00(中止)  
 登山口15・40(解散)  
 絶好の登山日和。予定通り途中  
 一回休憩して、登山口から1時間  
 20分登った須谷川源流の杉林の中  
 で中野さんが急に倒れられ、予定  
 を中止。全員が協力を行って緊急事  
 態に対処して、ヘリで日野病院に搬  
 送したが、遅らぬ人となられ  
 た。この方は若狭時代から山に親  
 しまれたベテランと聞いた。山休  
 間と運命の花を愛でた直後の出  
 来事だった。病名は「脳幹出血」  
 と診断された。  
 心から哀悼をお祈りします。  
 また、救護にご協力いただいた参  
 加者の方に感謝します。  
 (参加者) 大石勝夫 山田明男  
 梁 善幸 中川博史 高杉 博  
 池田達彦 池田繁美 近藤英夫  
 上川澄子 古川清一 山田景三  
 富田伸子 河辺敦男 高橋 寛

菅井恒夫 竹田利夫 中野はるみ  
 ◎豊野 明 (計18名)

湖北・七七頭ヶ岳

4月29日(日) 晴れ  
 J-R長瀬駅9・00(バス) 上丹生  
 9・45(バス) 15分 登山口10・10  
 12分 丁渡橋10・35(バス) 七七頭  
 ヶ岳11・45(登山) 13・00 菅井  
 洞水駅バス停14・25(バス)  
 長瀬駅15・30(解散)  
 よく踏まれた歩道をイカリソウ  
 を愛でながら登る。山頂付近に見  
 事なブナ林の新緑におおわれてい  
 た。観音堂と湧り池があり、ゆっ  
 くりくつろぐ。菅井への下山は急  
 坂で滑りやすかった。  
 (参加者) 向田 豊 藤野寛子  
 藤本名雄 佐藤隆義 川崎節治  
 池田鈴子 奥村清一 豊田公子  
 前田政雄 近江香子 野里マコ  
 熊木幸雄 石川芳弘 砂原忠美子  
 志野雄雄 山岸勝雄 井林芳子  
 太田正子 山田 彰 木藤美初子  
 守本 至 岡崎博博 小出良寿  
 大谷章子 阿部邦彦 志田不枝子  
 古川ゆき子 鈴木成和 竹内善久子  
 村三子 入江武史 宮本真幸  
 永井哲男 福井清之 田嶋登司雄

会員募集

山想同人・様

ありきたりの日常からとび出  
 して、けもの道を探してみませ  
 んか。  
 ひとりひとりが精神的に解放  
 されお互いの個性を認め合い、  
 自由山中の中を歩き回ります。  
 やっと走りきった山頂に立つ  
 とみんな笑顔でうかれてしま  
 す。  
 このようになごやかな会です  
 が、本誌でおなじみの山形葉之  
 さんもご一緒です。  
 さあ、みなさん!!  
 今日から「藤」の会員になり  
 ましょう。  
 入会は随時、申し込み・お開  
 い合せは左記へ。

(連絡先・会費) 43660  
 (会費) 06(761) 43660  
 (夜) 06(946) 93396  
 (事務局)  
 〒559 大阪市住之江区南港  
 中2の2の44の925 山想 一郎方

中尾 輪 登田 晃 宮村孝次郎

奥村洋子 大谷道子 山崎多恵子  
 加藤元彦 小杉 浩 増田フミ子  
 石川和夫 布藤清美 吉田誠宏  
 隣 嘉子 宮川健夫 中林吉五郎  
 中村賢吉 宮角孝幸 岡原正夫  
 明神成行 吉徳孝次 青木一雄  
 田中博幸 木村和恵 吉田ソノ子  
 若木修一 辻村延夫 辻 一 藤二郎  
 下西 綱 黒澤清男 血原賢一  
 山名正弥 黒河内東洋明  
 横田昌雄 中川光郎 橋本喜久夫  
 寺次雄男 中村功子 赤川二英子  
 奥山繁三 田中順子 杉村安代  
 佐藤仁美 三井統一 岡田登美  
 野口 修 一岡昭男 湯浅次男  
 ◎西五男 ◎村田智俊(計3名)

新ハイキングクラブ関西

入会のご案内  
 このページの山行協会を通じて  
 正しい山歩きを、たのしい山仲間  
 たちと味わいませんか。リーダー  
 (6名)はすべて無償の志士で、各  
 日でお茶を共に茶代を払い、前泊  
 料もすべてワリカンです。  
 あなたち新ハイキングクラブ関  
 西に入会してのたのしい仲間にな  
 りませんか。会員には何号「新ハ  
 イキング・別冊関西の山」(年別

毎月6号券を併付します。会  
員は山行例会に優先参加できます。

入会金 5000円(ハッジ代)  
 年会費 3000円(送料別)  
 新ハイキングクラブ関西への入  
 会申し込みはこの雑誌に挿入の紙  
 申請紙をご利用ください。氏名  
 (ふりがな)及び第四号からの送  
 本かを忘れずにご記入ください。  
 尚、申請紙をお送りされる方  
 も会員になっていただきますと、  
 毎号版表にお手元が届きますので  
 便利です。  
 山行リーダー募集  
 リーダーは2か月に1〜2回登  
 壇の山行計画を立案し、実施して  
 いただきます。  
 経験のある人や、やってみたい  
 と思われる人は、当会本部(白田  
 まで)ご連絡ください。  
 マニュアルを配した小冊子「新  
 ハイキング・リーダー必携」を送り  
 ます。

新入会員紹介

新しいお仲間が皆さんです。会  
 員番号20269から20349まで  
 【東京】 伊藤まゆ子  
 【愛知】 松永安文 石川 敏

【三重】 森谷明三 徳田暢子

【福井】 八木秀哉  
 【滋賀】 杉本 高 岸田ちどり  
 谷 守 藤野 健 中澤眞司博  
 【京都】 稲生田孝男  
 稲生田英代子 山田勝子  
 木村孝子 神田成光 深田イトニ  
 中野忍子 神野孝允 深坂昌子  
 佐藤仁美 上坂清彦 清水 保  
 京塚泰尚 田中俊枝 長谷川巨利  
 長谷川洋子  
 【大阪】 大正敏文 岡崎澄博  
 田中 豊 村山太郎 村岡美初子  
 久保道子 橋本正子 吉田三恵子  
 高尾富一 松本 昇 名倉マサ子  
 山根勝子 植村遊一 植村孝代  
 梅田久子 林 一夫 山下勢津雄  
 大岡和子 松本和子 吉岡千穂子  
 北野孝士 名倉道徳 田中光永  
 坂城 均 橋本山宮 岩谷悦子  
 広瀬王博 渡辺昌郎 村橋 雄  
 中島 経 堀内雅夫  
 【奈良】 石浜松子 西崎泰清  
 西崎佳子 川崎紀元 川崎智恵子  
 左海澄子 根田孝子 井上久子  
 小谷依弘 小谷悦子  
 【和歌山】 木村治之 坂本和希  
 【兵庫】 小原信子 橋本洋一  
 藤井 晶 古任孝子 津田賢一郎  
 竹内穂子 堀越武敏 岩本敬夫

大隈和洋

【福岡】 正田浩西郎 (80名)  
 訂正とお詫言

34号(初巻)37ページ上段より行  
 日「学友山崎大造氏……」は「長  
 友山崎大造氏……」が正しい。  
 34号(初巻)44ページ小泉山し  
 じ「山崎大造氏……」が正しい。  
 34号(初巻)59ページ付近範囲  
 中「たかだし」は「ほうじょう」  
 が正しい。  
 (編集後記)



毎号お求めになりたい方へ  
 前号って書店に毎月ほしい  
 と「藤」予約をされたら、ど  
 のこの書店でもお買い求め  
 いただけます。毎月の20日ごろ  
 (発行日)の発売です。